

2022  
年 報

ANNUAL REPORT of  
SEIREI YOKOHAMA HOSPITAL



社会福祉法人 聖隷福祉事業団

聖隷横浜病院  
SEIREI YOKOHAMA HOSPITAL

2022 年度聖隷横浜病院年報  
Seirei Yokohama Hospital

ANNUAL REPORT  
2022

【病院理念】

私たちは、隣人愛の精神のもと、  
安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます

# 目次

2022年度年報発行にあたって	1	感染予防委員会	
2022年度事業報告	2	褥瘡予防委員会	
病院沿革	4	共育委員会	
現況	6	薬剤部	81-82
施設基準	7	検査課	83
施設配置図	8	栄養課	84-85
主な器械備品	9	リハビリテーション課	86
組織図	10	臨床工学室	87
委員会・会議名簿	11	総合企画室	88
医師職員数内訳,職員別・区分別職員数	12	総務課	
病棟構成	13	経理課	
病院統計	14-24	医療情報管理課	
財務統計	25	施設資材管理課	
膠原病・リウマチセンター（膠原病・リウマチ内科）	26-27	医師臨床研修委員会	89
脳神経血管・高次脳機能センター（脳血管内治療科/脳神経外科）	28	医療ガス安全委員会	90
心臓血管センター	29	衛生委員会	91-92
乳腺センター（乳腺科）	30	栄養委員会	93
人工関節センター（関節外科）	31	化学療法委員会	94
画像診断センター	32-33	感染対策委員会	95
内視鏡センター	34	緩和ケア委員会	96
地域連携・患者支援センター	35-36	救急委員会	97
医療の質管理室	37-38	クリニカルパス委員会	98
診療支援室	39	血液浄化センター委員会	99
ドック・健診室	40	研修委員会	100
腎臓・高血圧内科	41	減免・無料低額診療委員会	101
内分泌・糖尿病内科	42	広報委員会	101
消化器内科	43	購入委員会	102
外科・消化器外科	44	RST（呼吸ケアサポートチーム）委員会	103
呼吸器内科	45	NST委員会	104
呼吸器外科	46	褥瘡対策委員会	105
整形外科	47	役割分担促進委員会	106
耳鼻咽喉科	48	個人情報管理	107
麻酔科・ペインクリニック科	49-50	診療情報管理委員会	108
小児科	51	図書委員会	108
眼科	52	診療報酬適正化委員会	109
放射線診断科	53-54	接遇運営会議	110
救急科	55	病院安全管理委員会	111
病理診断科	56-57	防災委員会	112
総合診療科	58	安全運転委員会	112
アレルギー内科	59	薬事（治験）委員会	113
泌尿器科	60	輸血療法委員会	114
看護部	61-63	臨床検査適正化委員会	115
血液浄化センター看護室	64	倫理・臨床研究審査委員会	116-117
手術室・中央材料室	65	医療の質改善委員会	118
外来	66	特定行為管理委員会	118
画像診断・内視鏡センター看護室	67	外来運営会議	119
B3病棟	68	手術室運営会議	120
東1病棟	69	セーフティマネージャー運営会議	121
東2病棟	70	糖尿病療養運営会議	121
東3病棟	71	ボランティア運営会議	122
東4病棟	72	リハビリテーション課運営会議	122
西1病棟	73	ドック・健診室運営会議	123
西2病棟	74	地域連携・相談支援センター運営会議	123
西3病棟	75	病床管理センター運営会議	124
急性期ケアユニット	76	内視鏡センター運営会議	125
脳卒中ケアユニット	77	脳血管センター運営会議	126
看護相談室	78	リウマチ・膠原病センター運営会議	127
せいいい訪問看護ステーション横浜	79	乳腺センター運営会議	128
看護部委員会	80	緩和ケア病棟開設プロジェクト	129
在宅療養支援（TUNAGU）委員会		OLS(骨粗しょう症リエゾンサービス)	130
NQC(看護ケア質向上)委員会		情報システムプロジェクト	131
せん妄認知症ケア向上		医師・医療従事者の働き方改革プロジェクト	132
看護リスクマネジメント		教育・症例検討・講演実績・市民公開講座	133
看護パス・記録監査委員会		学術業績	134
		第20回 聖隷横浜病院 病院学会	154

# 2022年度年報発行にあたって

聖隷横浜病院 病院長 大内 基史

2022年10月に前任の林泰広院長の転勤に伴い、院長職を拝命しました。10月まで私自身は呼吸器外科診療と副院長としての医療安全などを行ってきました。10月からは呼吸器外科診療と院長の病院管理職の掛け持ちで行なうプレーイングマネージャーとして新しい出発しました。このため多くの職員にも業務を手伝っていただきながら、『みんなで作る聖隷横浜』をスローガンに病院の運営を開始しています。

2022年度はコロナ禍での診療が3年目となりました。年度内では第7、8波と感染が拡がり、当院でもコロナ感染患者、職員感染と大きなダメージを受けました。特に第7波では、横浜市内コロナ受け入れ病院も満床状態となったため、『新型コロナウイルスを院内に持ち込まない、持ち込ませない』という方針でしたが救急患者や院内発生のコロナ患者の転院が不能となり、入院受け入れを行ないました。また、院内クラスターが発生し感染患者が増えたため、隔離病床以外の一般病床にも多数の患者を受け入れました。この時にも職員も一丸となって、連日深夜まで対応を行ないました。更に1月の第8波でも多数の患者受け入れと第7波以上の院内クラスターが発生しましたが、病棟の一部を感染隔離対応とする事で病院機能を維持しながら乗り越えられました。またワクチン接種も積極的に行ない市民接種、職域接種を同じ施設で行ないながら、基礎疾患を有する利用者だけでなく、取引業者、救急隊員、関東地区聖隷施設の職員家族にまで、多くの院内スタッフの協力の下、接種の範囲を拡大して継続的に実施しました。この3年間のコロナ禍で培った事として一番の収穫は、職員が一丸となって感染対応してきたこととっております。この感染症の危機に対して『一丸となった団結力』は、今後も病院運営上も生かされ続ける状態と感じております。加えて、2022年度は診療科の特徴に応じた指標と行動計画を科毎に策定し、その達成度合いを定期的にチェックしながら、指標を確実に実現できるように診療部だけでなく多部門を巻き込んで協働で取り組みました。

今後の病院の体制強化のため、ドック・健診事業を拡大して行くつもりで体制変更を行ない始めました。前院長時代に築いたSCU病棟、リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟も高稼働を維持できました。

2022年度は新型コロナ感染にかなり振り回された年度となってしまいましたが、職員の団結力やワクチン接種による認知度が高まった年度と思っています。

本年報を当院の成長の経過記録としてご覧いただければ幸いです。

# 聖隷横浜病院

2022年度も新型コロナウイルス感染症への対応に追われる日々が続いた。新型コロナウイルス感染症の感染管理は困難を極め、合計4回の院内クラスターを経験した。特に12月後半に発生したクラスターは1ヶ月間で陽性患者延数738名、陽性・濃厚接触等による職員の出勤停止延数610名となり、最大7病棟で新規入院患者の受け入れ停止を与儀なくされた。こういった状況ではあったが、神奈川モデルにおける重点医療機関協力病院・陽性患者受入病床（国の重点医療機関に相当）として、陽性患者の受入れを可能な限り行い、地域医療に貢献し続けた。

10月より病院長として就任し、「みんなで作る聖隷横浜」を合言葉に、職員ひとりひとりが考え、意見が言える病院作りに励んだ。その代表的な取り組みとして、幹部連絡会で、診療科の現状把握と問題解決策を診療科毎に議論し、進むべき道を各診療科と共有する取り組みを開始した。こうした取り組みを今後も拡大し、経営を職員全員で担っていくという意識付けを行っていく。

診療体制においては、脳神経外科の常勤医師の退職もあり脳卒中ケアユニット（SCU）の存続が危ぶまれたが、診療科と連携を図り、非常勤医師の活用や新規患者の一部受け入れ制限を行うことで、SCUの機能を維持した。

院外においても病・病、病・診連携ならびに市内救急隊など行政との連携強化を推進した。さらには、市民公開講座の開催など、利用者に当院を知ってもらうための活動を積極的に行った。

2023年3月に当院は開院20年の節目を迎えた。今まで支え続けてくれた全職員の努力と取り組みに感謝するとともに、更なる質の高い医療サービスの提供を心がけて、地域から愛され続ける病院づくりを継続していく。

## 1. 安全で良質な医療の提供

### (ア) 医療安全管理体制および感染管理体制の充実

新型コロナウイルス感染症への対策として、全ての入館者に体調確認を実施した。

加えてICD（感染制御医師）および感染管理認定看護師を中心に新型コロナウイルス感染症対策会議を毎週開催し、情報共有や必要施策の検討を行った。

### (イ) 救急診療体制の強化と充実

横浜市内の救急隊向けの勉強会である救急フォーラムの開催や救急隊への訪問活動などを継続的に実施し、コロナ禍においても応需率向上に向けて病院全体で取り組み、4,072件（目標：4,500件）の救急搬送を受け入れた。併せて日々の救急車応需詳細を確認し問題と思われる事例について委員会で共有、個別対応し病院全体の意識強化に努めた。

### (ウ) 外来診療科体制の充実

当院の強みである心疾患治療を更に充実化させるために心大血管リハビリテーションを行うための体制や設備を整え、医療提供サービスの向上に努めた。

### (エ) ドック・健診事業の充実

日曜乳がん検診を2回/年と増枠し、婦人科検診も同時開催した。精密検査対象者への受診勧奨を行い外来診療への案内強化を図った。

## 2. 地域包括ケアシステムの構築と推進

### (ア) 地域完結型医療の実践

診療報酬改定への対応として、院内転棟率を60%未満にするため、転院だけでなく、眼科の白内障患者やレスパイトの患者を直接地域包括ケア病棟で受け入れる取り組みを開始した。

### (イ) 地域連携及び広報活動の強化

紹介状に対する即日返信を推進し、即日返信率98.2%を達成した。また、病院長をはじめ各診療科医師と協働でクリニック訪問を行った。これらの取り組みにより、病・診連携強化を図り、紹介件数は9,819件(目標:10,200件)となった。併せて、市民公開講座を対面で1回、YouTube配信で13回実施し病院の情報や魅力の発信を強化した。

## 3. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践

診療部と協働で各科の特徴に応じた指標と行動計画を策定し、取り組みを推進した。人件費率単月60%を目指し、収入確保、費用削減に取り組んだ結果、予算を大幅に上回ることができた。また、手術室運用の実態調査を行い、問題提起を行い、効率的な運用の構築を検討した。結果手術件数は1,990件(目標:1,800件)となった。引き続き変革を実行していく。

## 4. 多様な人材確保と育成

両立支援制度(育休・介護休等利用32名、短時間勤務・ワークシェア等利用29名)

## 5. 最適な環境づくりの推進

2023年12月の病院機能評価Ver.3.0受審に向けて部門横断のプロジェクトを立ち上げ、診療体制の見直しならびに労働環境整備の準備を開始した。働き方改革への対応として、医師の勤務実態調査を実施し宿日直許可申請の準備を進めた。

全病棟のデイルームにWi-Fi環境を整備し利用者サービスの向上に努めた。併せて老朽化した病棟の外壁塗装を継続的に実施し、壁面クラックならびにサッシからの雨漏り対策およびナースステーション内空調機の高効率機種への更新を行った。

### <地域における公益的な取り組み>

低所得者に対し広く事業を実施し、国が定める基準10.0%であった。

### 【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
外来患者数	556 名	578 名	103.9 %	103.7 %
外来単価	16,942 円	17,297 円	102.0 %	99.6 %
入院患者数	300 名	297 名	99.0 %	97.3 %
入院単価	56,425 円	56,728 円	100.5 %	102.1 %
病床稼働率	81.7 %	80.9 %	99.0 %	97.3 %
職員数	698 名	690 名	98.8 %	98.4 %



# 病 院 沿 革

- 2003年（平成15年） 3月 国立横浜東病院から経営移譲を受け「社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷横浜病院」開院  
井澤豊春初代病院長 就任  
診療科：内科、外科、整形外科、泌尿器科、小児科、脳神経外科、  
産婦人科（2014年閉科）、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、麻酔科、  
精神科（2007年閉科）  
医療法開設許可病床 350床（一般病床300床・療養病床50床）  
稼働病床 一般病床150床（東2、東3、東4病棟）  
4月 稼働病床 一般病床200床（東3、東4、西2、西3病棟）  
8月 1.5T-MRI導入  
9月 内科を総合診療内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、  
腎臓・高血圧内科に専門分化  
12月 血液浄化センター開設
- 2004年（平成16年） 4月 医師臨床研修制度開始  
稼働病床 一般病床250床（西1病棟開棟）  
8月 看護師宿舎「フェリーチェせいいい」（地上4階、30部屋）新設  
10月 内分泌・糖尿病内科開設
- 2005年（平成17年） 1月 オーダリングシステム導入  
横浜市二次救急輪番病院参加
- 2006年（平成18年） 2月 64列マルチスライスCT装置導入  
6月 一般病棟入院基本料7：1取得  
8月 療養病床50床返還
- 2007年（平成19年） 4月 岩崎滋樹第二代病院長就任、井澤豊春名誉院長就任  
内視鏡センター開設  
7月 医師ジョブシェア制度導入  
9月 血液内科開設（2010年閉科）  
10月 耳センター開設
- 2008年（平成20年） 3月 院内保育施設「ひだまり保育園」開設  
4月 消化器外科開設  
7月 DPC制度導入  
呼吸器外科開設  
10月 脳血管内治療科（2012年閉科）  
周産期科開設（2010閉科）  
臨床検査科開設  
稼働病床 一般病床276床（東2病棟開棟）  
12月 日本医療機能評価機構「病院機能評価Ver.5.0」認定
- 2009年（平成21年） 7月 病理診断科開設  
5月 横浜市の要請により「新型インフルエンザ発熱外来」設置
- 2010年（平成22年） 4月 形成外科開設（2012年閉科）  
横浜市二次救急拠点病院事業参加（横浜市二次救急拠点病院B）

	10月	256スライスCT導入 稼働病床数 一般病床300床
2011年（平成23年）	11月	日本経済新聞社主催「2010年につけい子育て支援大賞」受賞
	5月	横浜市の要請により、東日本大震災被災地に医師、看護師派遣
	10月	神奈川県主催「第5回かながわ子ども・子育て支援大賞」受賞
2012年（平成24年）	12月	病院ボランティア活動開始
	2月	横浜市心疾患救急医療体制参加
	4月	脳卒中科（脳血管内治療科閉科） リハビリテーション科開設
2013年（平成25年）	3月	サポートドクター制度導入
	4月	NPO法人卒後臨床研修評価機構 認定病院
2014年（平成26年）	12月	日本医療機能評価機構 病院機能評価 「一般病院2 3rdG：ver.1.0」認定
	6月	3.0T-MRI更新
2015年（平成27年）	10月	せいい訪問看護ステーション横浜を聖隷横浜病院へ事業移管
	1月	林泰広第三代病院長就任
	4月	形成外科、心臓血管センター内科開設
2016年（平成28年）	5月	地域包括ケア病棟開設（東4病棟51床）
	1月	リウマチ・膠原病センター 開設 脳血管センター 開設
	4月	画像・診断センター 開設 心臓血管外科開設 横浜市営バス「聖隷横浜病院循環」 運行開始
2017年（平成29年）	6月	新外来棟建築工事 起工式
	2月	NPO法人卒後臨床研修評価機構 認定病院
	4月	ドック・健診室 開設
2018年（平成30年）	5月	電子カルテシステム 導入・稼働開始
	7月	ハイケアユニット（HCU）開設（8床）
	4月	乳腺センター開設
2019年（令和元年）	8月	脳卒中ケアユニット（SCU）開設（6床）
	12月	日本医療機能評価機構 病院機能評価 「一般病院2 3rdG：ver.2.0」
2020年（令和2年）	7月	A棟（新外来棟）外来診療開始
2021年（令和3年）	2月	横浜市病院輪番制
	7月	東1病棟開設 一般病床338床稼働
	8月	B3病棟開設 一般病床358床稼働 回復期リハビリテーション病棟入院料6取得
	9月	緩和ケア病棟入院料2取得
2022年（令和4年）	1月	回復期リハビリテーション病棟入院料3取得
	3月	地域包括ケア病棟 60床に増床 一般病床367床稼働
	4月	アレルギー内科開設
	5月	回復期リハビリテーション病棟入院料1取得
2022年（令和4年）	10月	脳卒中ケアユニット（SCU）9床に増床
	4月	心臓血管センター開設 リウマチ・膠原病センターから「膠原病・リウマチセンター」へ名称変更 リウマチ・膠原病内科から「膠原病・リウマチ内科」へ名称変更
	10月	大内 基史病院長 就任



# 現 況

2023年4月1日現在

<b>開設者</b>	社会福祉法人 聖隷福祉事業団
<b>病院名</b>	聖隷横浜病院
<b>所在地</b>	〒240-8521 神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町215 TEL(045)715-3111 FAX(045)715-3387
<b>開院日</b>	2003年3月1日
<b>理事長</b>	青木 善治
<b>病院長</b>	大内 基史
<b>副院長</b>	新美 浩 野澤 聡志 芦田 和博
<b>院長補佐</b>	波多野 孝史 平野 進
<b>総看護部長</b>	兼子 友里
<b>事務長</b>	山本 功二
<b>病院事業</b>	無料低額診療施設事業
<b>病床数</b>	許可病床(367床:一般) 稼動病床(367床:一般、急性期ケアユニット、脳卒中ケアユニット、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟地域包括ケア病棟含む)
<b>常勤職員</b>	656名(2023年4月1日時点)

## 認定施設

保険医療機関  
労災保険指定医療機関  
結核指定医療機関  
生活保護法指定医療機関  
被爆者一般疾病指定医療機関  
更生医療指定医療機関  
育成医療指定医療機関  
母子保健法指定養育医療機関  
特定疾患治療取扱病院  
臨床研修病院(基幹型)  
公害医療指定医療機関  
救急告示病院  
小児慢性医療指定医療病院  
労災保険二次健診等給付医療機関  
DPC対象病院  
外来対応医療機関(神奈川県)  
新型コロナウイルス感染症 重点医療機関協力病院(最大8床)(神奈川モデル医療機関)

## 学会認定

日本消化器病学会関連施設  
日本消化器学会認定施設  
日本消化器内視鏡学会指導施設  
日本消化管学会胃腸科指導施設  
日本胆道学会認定指導医制度指導施設  
日本大腸肛門病学会関連施設  
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設  
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設  
日本呼吸器内視鏡学会認定施設

日本呼吸器学会関連施設  
日本糖尿病学会認定教育施設  
日本リウマチ学会教育施設認定施設  
日本外科学会外科専門医制度修練施設  
日本脳神経血管内治療学会研修施設  
脳神経外科学会認定施設  
脳卒中学会認定施設  
一次脳卒中センター(PSC)認定施設  
日本整形外科学会専門医制度研修施設  
日本眼科学会専門医制度研修施設  
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設  
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関  
日本麻酔科学会麻酔科認定病院  
日本救急医学会救急科専門医指定施設  
日本病理学会研修認定施設B  
日本がん治療認定医機構認定研修施設  
特定施設非営利活動法人卒後臨床研修評価機構認定  
日本栄養療法推進協議会NST稼働施設認定  
日本静脈結腸栄養学会NST稼働施設認定  
マンモグラフィ検診施設画像認定施設  
日本認知症学会教育施設  
日本乳癌学会関連施設  
National Clinical Database  
日本病院総合診療医学認定施設  
日本診療放射線技師会医療被ばく低減施設認定  
日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設認定  
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設認定

## 標榜科目

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、内分泌・糖尿病内科、皮膚科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、泌尿器科、脳神経外科、整形外科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉科、婦人科、漢方内科、リハビリテーション科、放射線診断科、麻酔科、ペインクリニック外科、病理診断科、臨床検査科、救急科、神経内科(計30科)

## 診療科目

総合内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓・高血圧内科、内分泌・糖尿病内科、心臓血管センター内科、心臓血管センター外科、膠原病・リウマチ内科、アレルギー内科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、脳血管内治療科、整形外科、関節外科、形成外科、乳腺科、麻酔科(ペインクリニック)、耳鼻咽喉科、婦人科、漢方内科、眼科、皮膚科、泌尿器科、総合診療科、救急科、放射線診断科、リハビリテーション科、臨床検査科、病理診断科、ドック・健診科、神経内科(計34科)

## 救急医療

横浜市病院輪番制  
横浜市脳血管疾患救急医療体制参加医療機関  
横浜市外傷(整形外科)救急医療体制参加医療機関  
横浜市急性心疾患救急医療体制参加医療機関

## 災害医療 神奈川県災害協力病院

# 施設基準

2023年4月1日現在

## ○基本診療料

**初再診料** 情報通信機器を用いた診療に係る基準医療情報・システム基盤整備体制充実加算(初診注15)  
医療情報・システム基盤整備体制充実加算(外来診療料注10)

**入院基本料** 急性期一般入院料1

**入院基本料加算** 臨床研修病院入院診療加算(基幹型)  
救急医療管理加算  
超急性期脳卒中加算  
診療録管理体制加算1  
医師事務作業補助体制加算2 15対1  
50対1急性期看護補助体制加算  
看護職員夜間12対1配置加算1  
療養環境加算  
重症者等療養環境特別加算  
栄養サポートチーム加算  
医療安全対策加算1  
医療安全対策地域連携加算1  
感染対策向上加算1  
褥瘡ハイリスク患者ケア加算  
呼吸ケアチーム加算  
術後疼痛管理チーム加算  
後発医薬品使用体制加算1(注)経過措置  
病棟薬剤業務実施加算1  
病棟薬剤業務実施加算2  
データ提出加算2  
データ提出加算4  
入退院支援加算1  
入退院支援加算 入院時支援加算  
認知症ケア加算2  
せん妄ハイリスク患者ケア加算  
地域医療体制確保加算

**特定入院料** ハイケアユニット入院医療管理料1  
脳卒中ケアユニット入院医療管理料  
回復期リハビリテーション病棟入院料1  
地域包括ケア病棟入院料2  
地域包括ケア注3 看護職員配置加算  
地域包括ケア注4 看護補助体制充実加算  
緩和ケア病棟入院料2  
看護職員処遇改善評価料48

## ○入院時食事療養

**食事療養** 入院時食事療養Ⅰ・入院時生活療養Ⅰ

## ○特掲診療料

**医学管理等** 外来栄養食事指導料注2  
心臓ペースメーカー指導管理料 遠隔モニタリング加算  
高度難聴指導管理料  
糖尿病合併症管理料  
がん性疼痛緩和指導管理料  
がん患者指導管理料イ  
がん患者指導管理料ロ  
がん患者指導管理料ハ  
がん患者指導管理料ニ  
糖尿病透析予防指導管理料  
二次性骨折予防継続管理料1  
二次性骨折予防継続管理料2  
二次性骨折予防継続管理料3  
アレルギー性鼻炎免疫療法治療管理料  
下肢創傷処置管理料  
小児科外来診療料  
院内トリアージ実施料  
夜間休日救急搬送医学管理料  
救急搬送看護体制加算1  
外来腫瘍化学療法診療料1  
連携充実加算  
ニコチン依存症管理料  
がん治療連携指導料  
薬剤管理指導料  
医療機器安全管理料1

**在宅医療** 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料  
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料

**検査** 遺伝学的検査  
BRCA1/2遺伝子検査  
検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅱ)  
遺伝カウンセリング加算  
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算  
植込型心電図検査  
時間内歩行試験  
ヘッドアップティルト試験  
神経学的検査  
補聴器適合検査  
小児食物アレルギー負荷検査  
センチネルリンパ節生検片側(2単独法)

**画像診断** CT透視下気管支鏡検査加算  
画像診断管理加算2  
CT撮影(64列以上マルチスライス)  
MRI撮影(3テスラ以上)  
冠動脈CT撮影加算  
大腸CT撮影加算  
心臓MRI撮影加算  
乳房MRI撮影加算

**投薬** 抗悪性腫瘍剤処方管理加算  
一般名処方加算(注9)経過措置

**注射** 外来化学療法加算1  
無菌製剤処理料

**リハビリテーション** 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)  
廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)  
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)  
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)  
リハビリテーション初期加算  
がん患者リハビリテーション料

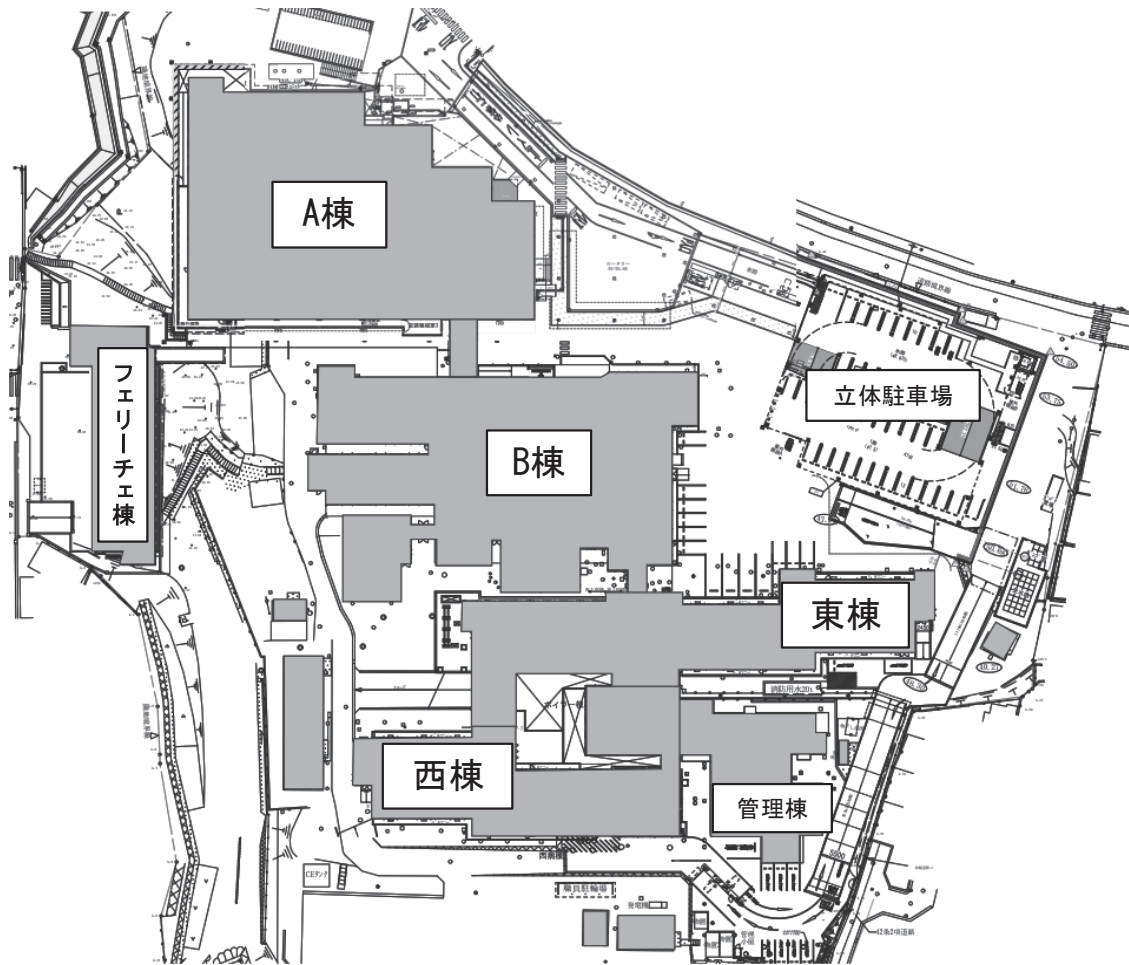
**処置** 静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)  
人工腎臓1  
人工腎臓 導入期加算1  
下肢末梢動脈疾患指導管理加算

**手術** 組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)  
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。))  
椎間板内酵素注入療法  
脊髄刺激装置植込術又は脊髄刺激装置交換術  
乳がんセンチネルリンパ節加算1  
乳がんセンチネルリンパ節加算2  
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)  
内視鏡による縫合術・閉鎖術  
経皮的冠動脈形成術  
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)  
経皮的冠動脈ステント留置術  
ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術  
植込型心電図記録計移植術  
植込型心電図記録計摘出術  
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)  
経皮的下肢動脈形成術  
内視鏡的逆流防止粘膜切除術  
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術  
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術  
手術の通則16に掲げる手術(胃瘻造)  
手術の通則19に掲げる手術  
(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術)  
輸血管理料Ⅱ  
輸血適正使用加算  
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算  
胃瘻造設時嚥下機能評価加算

**麻酔** 麻酔管理料(Ⅰ)  
麻酔管理料(Ⅱ)

**病理診断** 病理診断管理加算1  
悪性腫瘍病理組織標本加算

# 施設配置図



4F	血液浄化センター 医局 研修医室 大会議室		東4病棟 地域包括ケア病棟			事務長室 総務課 経理課 総合企画室
3F	外来 検査課 化学療法室 ドック・健診室 食堂	B3病棟 緩和ケア病棟	東3病棟	西3病棟		
2F	正面受付 外来 地域連携 ・患者支援センター 中央採血室	薬剤部 リハビリテーション課 医療情報管理課 売店	東2病棟	西2病棟		せいれい訪問看護 ステーション
1F	救急室 画像診断センター 内視鏡センター	MRI・CT	東1病棟 回復期 リハビリテーション病棟	西1病棟 急性期ケアユニット 脳卒中ケアユニット		ひだまり保育園
B1F	手術室・中央材料室 病理診断科		栄養課	霊安室・解剖室	総看護部長室 看護部管理室 医療安全管理室 臨床工学室 施設資材管理課	
	A棟	B棟	東棟	西棟	管理棟	フェリーチェ棟

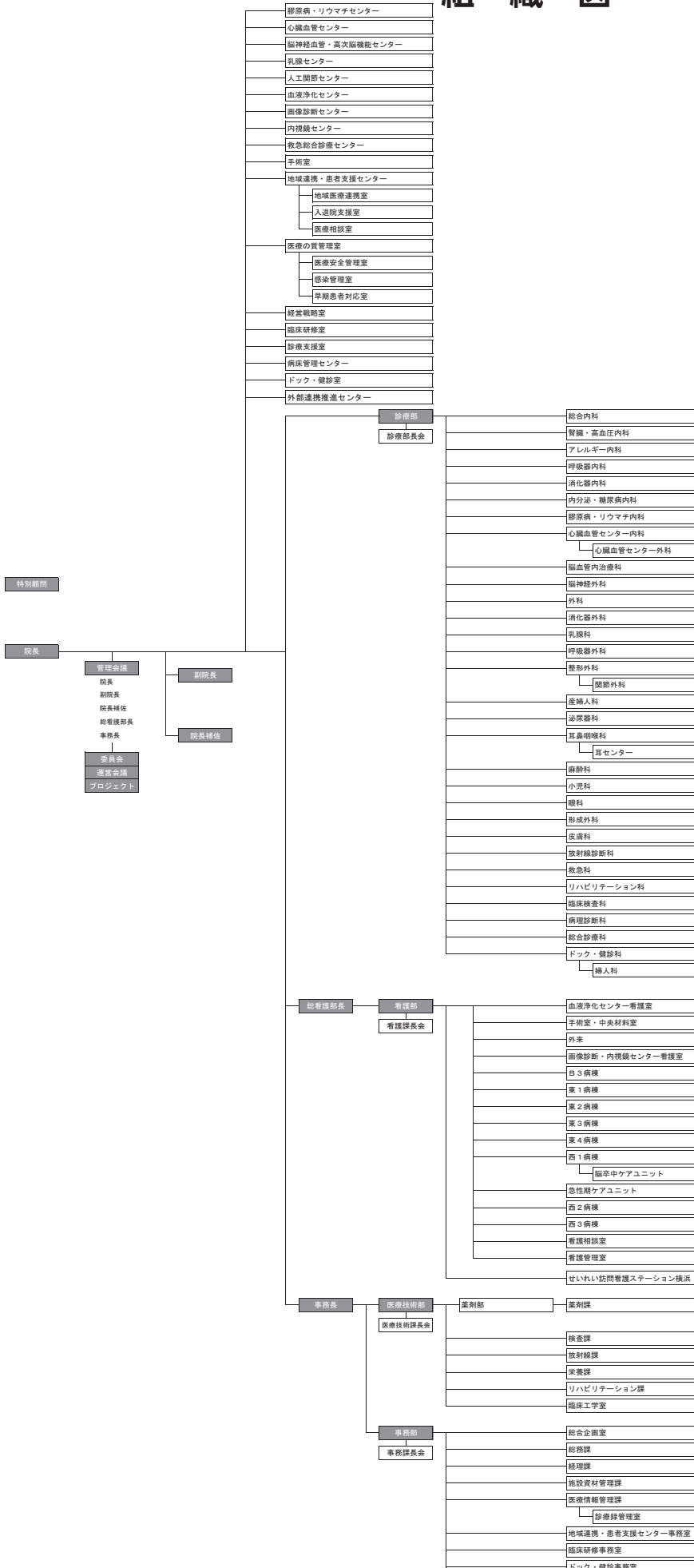


# 主な器械備品

機器名	数	メーカー名	機種名
MRI	2	フィリップス	Ingenia 3.0T、Ingenia Elition 3.0T
160列超高精細マルチスライスCT	1	キャノン	Aquilion Precision
128列256マルチスライスCT	1	フィリップス	Brilliance iCT
64列マルチスライスCT	1	フィリップス	IncisiveCT
乳房X線装置	2	キャノン、シーメンス	PeruruDIGITAL、MAMMOMAT Revelation
FPDシステム	1	コニカ	AeroDR
X線TVシステム	2	島津、キャノン	SONIALVISION G4、Ultimax-i
血管撮影装置	2	フィリップス	AlluraClarity FD10、FD20/15
X線撮影装置	3	島津	RADSPEED PRO
移動式X線撮影装置	3	シーメンス、島津	MOBILETT XP Hybrid、Mobile Art Evolution
外科用X線撮影装置	2	シーメンス	SIREMOBILE Compact L、Cios Select
超音波診断装置	11	キャノン	Xario、Aplio400、Aplio500、Aplio a Verifia
超音波診断装置	2	GE	LOGIQ P9、Versana Active
超音波診断装置	1	富士フィルム	ARIETTA 65LE
生化学自動分析装置	2	ベックマン・コールター	AU5810、DxC700 AU
全自動尿中有形成分分析装置	1	シスメックス	UF-1000i
多項目自動血球分析装置	1	シスメックス	XR-1500
全自動血液凝固測定装置	1	シスメックス	CS-2100i
血液ガス分析装置	2	シーメンス	RAPIDPOINT500
全自動輸血検査システム	1	オーソ	オーソビジョン
自動染色装置	1	ロシュ	ベンタナ ベンチマークULTRA
脳波計	1	日本光電	NeurofaxEEG-1250
筋電図計	1	日本光電	Neuropack S3
心電計	8	日本光電、フクダ電子	ECG-2550、ECG-2450、FCP-7541
睡眠ポリグラフィ装置	1	日本光電	PSG-1100
血圧脈波検査装置	2	フクダコーリン	BP-203RPEⅢ
肺運動負荷モニタリングシステム	1	ミナト医科学	エアロモニタAE-310S
外科手術用内視鏡システム	3	オリンパス	VISERA、VISERA ELITE II
耳鼻咽喉科内視鏡システム	1	オリンパス	VISERA ビデオシステム
耳鼻咽喉科NBI内視鏡システム	1	オリンパス	VISERA ELITE ビデオシステム
消化器内視鏡システム	4	オリンパス	EVIS X1、EVIS LUCERA ELITE、SPECTRUMビデオシステム
超音波手術装置	3	オリンパス、ストライカー	ソノサージ、ソノベットIQ
手術用顕微鏡	3	カールツァイス、ライカ	OPMI PENTERO900、M844-F40、M525-OH4
炭酸ガスレーザー	1	モリタ製作所	レザウインⅡ
白内障手術装置	1	アルコン	センチュリオンビジョンシステム
高周波手術装置	11	アムコ、メドトロニック、オリンパス	VI03、Valley lab FT10、ESG-400、ICC-200・300、CMC-V 他
マイクロ波手術装置	1	アルフレッサファーマ	マイクロターゼ AZM-550
高周波熱凝固装置	1	トップ	TLG-20
成人用人工呼吸器	8	ドレーゲル、レスメド	Evita V300、V600、アストラル150、AirCurveTJ
搬送用人工呼吸器	4	日本光電、ドレーゲル、スミスメディカル	HAMILTON-C1、Oxylog 3000プラス、パラパックプラス
臨床用ポリグラフ	2	日本光電	RMC-5000
人工腎臓（透析）装置	23	日機装、JMS	DCS-73、DCG-03、DBG-03、DBB-100NX、DCS-100NX、GC-110N
血液浄化装置	1	川澄化学	KM-9000
多人数用透析液供給装置	1	日機装	DAB-30NX
透析液溶解装置	2	東亜DKK	AHI-502、BHI-502
逆浸透圧精製水製造装置	1	日機装	DRO-NX
体外式ペースメーカー	3	バイオトロニック	REOCOR S
除細動器	12	フィジオ、フクダ電子、フィリップス	LP20e、DFM100、ハートスタートMRx
経皮の心肺補助装置	2	テルモ	キャピオックス遠心ポンプコントローラーSP-200
大動脈内バルーンポンプ	1	ゲティンゲ	CS300
3次元眼底像撮影装置	1	トプコン	DRI OCT Triton
眼軸長測定装置	1	カールツァイス	IOLマスター700
高圧蒸気滅菌器	3	三浦工業	RX-32FVW、RH-16EHW
低温プラズマ滅菌器	1	ジョンソン&ジョンソン	STERRAD100NX
無侵襲混合血酸素飽和度監視システム	2	メドトロニック	INVOS 5100C
ナビゲーションシステム	1	メドトロニック	ステルスステーションS7
術中神経モニタリング装置	1	日本光電	ニューロマスターG1
近赤外線治療器	1	東京医研	スーパーライザーPX
血管内焼灼用高周波治療器	1	コヴィディエン	ClosureRFG

# 組 織 図

2023年4月1日現在



# 委員会・運営会議

2022年4月1日付（順不同）

委員会名称	開催日	構成人数				
		診療部	看護部 訪問看護	医療技術部	事務部	外部・顧問
管理会議	毎月 第1・3週火曜日	5	5	1	5	
訪問看護ステーション運営会議	随時		4	1		
診療部長会	毎月 第4週木曜日	24	1	1	24	
全体課長会	毎月 最終週月曜日	1	22	6	1	

## 《委員会》

医師臨床研修委員会 ※医師卒後臨床研修管理委員会	毎月 第2週水曜日	15	1	1	3	
医療ガス設備安全委員会	年1回	1	1	2	3	
衛生委員会	毎月 第1週水曜日	2	4	6	4	
栄養委員会	年5回 第4週木曜日	1	1	3	1	
化学療法委員会	毎月 第2週火曜日	7	6	4	1	
感染対策委員会	毎月 第4週水曜日	6	4	8	3	
緩和ケア委員会	毎月 第2週月曜日	2	4	4	1	
救急委員会	毎月 第4週月曜日	8	4	4	3	1
クリニカルパス委員会	毎月 第3週月曜日	1	5	5	1	
血液浄化センター委員会	毎月 第2週火曜日	3	2	3	1	
研修委員会	毎月 第4週火曜日		8	5	3	
減免・無料低額診療委員会	毎月 第2週火曜日		1		4	
購入委員会	毎月 第4週木曜日		1	1	4	
広報委員会	毎月 第2週金曜日		4	6	3	
RST（呼吸ケアサポートチーム）委員会	毎月 第1週火曜日	3	2	8		
NST（栄養サポートチーム）委員会	年5回 第4週木曜日	2	3	7		
褥瘡対策委員会	偶数月 第4週水曜日	2	3	3		
看護褥瘡予防委員会	毎月 第1週水曜日		14			
役割分担推進委員会	毎月 第3週木曜日	2	3	6	2	
診療情報管理（個人情報管理）委員会	毎月 第2週木曜日	2	2	3	5	
診療報酬適正化委員会	毎月 第4週金曜日	2	1	3	3	
接遇委員会	毎月 第2週木曜日	2	5	6	4	
図書委員会	隔月	1	1		3	
病院安全管理（医療事故調査）委員会	毎月 第3週水曜日	6	4	6	3	
医療機器安全管理委員会	毎月 第3週水曜日	1	1	5		
防災委員会	奇数月 第2週火曜日	2	14	6	7	
安全運転委員会						
薬事（治験）委員会	偶数月 第4週火曜日	13	2	3	2	
輸血療法委員会	奇数月 第4週金曜日	2	2	4	1	
臨床検査適正化委員会	偶数月 第4週金曜日	2	1	3	1	
倫理・臨床研究審査委員会	毎月 第3週火曜日	4	4	1	4	2
医療の質改善委員会	偶数月 第3週月曜日	1	5	2	1	
特定行為管理委員会	随時	5	5	1	3	
特定行為小委員会	毎月 第1週金曜日	1	3			

## 《運営会議》

外来運営会議	毎月 第1週木曜日	3	6	3	9	
手術室運営会議	毎月 第1週水曜日	10	2	3	1	
セーフティマネージャー運営会議	隔月 最終週月曜日	1	職場長	職場長	職場長	
糖尿病療養運営会議	毎月 第1週金曜日	2	4	4		
ボランティア運営会議	奇数月 最終週月曜日		2		2	
リハビリテーション課運営会議	奇数月 第4週水曜日	4	3	3	1	
OLS(骨粗しょう症リエンサービス)運営会議	毎月 第1金曜日	1	4	8	4	
ドック・健診室運営会議	年4回 第4週水曜日	1	2	2	3	
地域連携・患者支援センター運営会議	毎月 第3週木曜日	6	3	1	7	
病床管理センター運営会議	毎月 第4週水曜日	2	4		5	
内視鏡センター運営会議	偶数月 第1週金曜日	4	2	3		
脳血管センター運営会議	毎月 第3週水曜日	2	3	5	4	
膠原病・リウマチセンター運営会議	随時	3	2	4	5	
乳腺センター運営会議	随時	2	2	2	6	
緩和ケア病棟運営会議	随時	1	3	3	3	

## 《プロジェクト》

医師・医療従事者の働き方改革	随時	7	3	6	3	
----------------	----	---	---	---	---	--



# 医師職員数内訳

2022年4月1日現在 単位：人

診療科等	常勤医師	非常勤医師	合計
院長	1	0.00	1.00
総合内科	0	0.20	0.20
消化器内科	3	0.10	3.10
内分泌・糖尿病内科	1	1.10	2.10
呼吸器内科	1	1.20	2.20
アレルギー内科	1	0.00	1.00
腎臓・高血圧内科	1	2.00	3.00
救急科	1	1.00	2.00
脳神経外科	4	1.00	5.00
脳血管内治療科	1	0.00	1.00
小児科	1	0.10	1.10
外科	4	0.00	4.00
乳腺センター	1	0.00	1.00
乳腺科	1	0.20	1.20
消化器外科	1	0.00	1.00
整形外科	5	0.80	5.80
関節外科	1	0.00	1.00
呼吸器外科	2	0.80	2.80
皮膚科	0	0.60	0.60
泌尿器科	1	0.65	1.65
眼科	3	0.40	3.40
耳鼻咽喉科	3	0.95	3.95
麻酔科	3	4.90	7.90
放射線診断科	3	0.70	3.70
病理診断科	2	0.00	2.00
形成外科	0	0.50	0.50
心臓血管センター内科	8	0.35	8.35
心臓血管センター外科	0	0.18	0.18
リウマチ・膠原病内科	3	0.30	3.30
総合診療科	1	0.90	1.90
初期研修医	10	0.00	10.00
リハビリテーション科	0	0.20	0.20
合計	67	19.13	86.13

# 職員別・区分別職員数

2022年4月1日現在 単位：人

部門名	職名	区分				合計	
		ブロック・地域総合	地区限定	エルダー職	パート・非常勤		
診療部	医師	61	0	0	100	161	
	初期研修医	10	0	0	0	10	
看護部	助産師	0	0	0	1	1	
	看護師	282	19	0	19	320	
	准看護師	0	0	1	1	2	
	看護助手	0	28	3	14	45	
	視能訓練士	3	0	0	0	3	
	救急救命士	4	0	0	0	4	
	事務職	2	8	0	1	11	
	薬剤師	24	0	0	0	24	
医療技術部	薬剤事務	0	2	0	0	2	
	臨床検査技師	18	3	0	1	22	
	検査事務	0	1	0	0	1	
	診療放射線技師	19	0	0	0	19	
	放射線事務	0	1	0	2	3	
	理学療法士	25	0	0	0	25	
	作業療法士	11	0	0	0	11	
	言語聴覚士	4	0	0	1	5	
	臨床工学技士	19	0	0	0	19	
	管理栄養士	7	1	0	0	8	
	調理師	2	2	0	0	4	
	調理助手	0	0	0	14	14	
	事務部	看護師	5	0	0	0	5
		事務職	36	40	0	18	94
施設員		4	0	0	0	4	
医療相談員		6	2	0	0	8	
訪問看護	看護師	8	0	0	5	13	
	理学療法士	0	0	0	2	2	
	作業療法士	1	0	0	1	2	
	事務職	0	1	0	0	1	
合計		551	108	4	180	843	

## 病棟構成

建物	階	名称	病床数	主な診療科	入院料
東棟	4	東4病棟	60	総合診療科、内分泌・糖尿病内科	地域包括ケア病棟入院料2
	3	東3病棟	52	消化器内科、外科（消化器、一般）、泌尿器科	急性期一般入院料1
	2	東2病棟	53	呼吸器内科、呼吸器外科、眼科、乳腺科	急性期一般入院料1
	1	東1病棟	38	整形外科、脳神経外科	回復期リハビリテーション病棟入院料1
西棟	3	西3病棟	46	心臓血管センター内科、腎臓・高血圧内科 救急科	急性期一般入院料1
	2	西2病棟	47	整形外科、耳鼻咽喉科、麻酔科 膠原病・リウマチ内科、内分泌・糖尿病内科	急性期一般入院料1
	1	西1病棟	34	脳神経外科	急性期一般入院料1
		急性期ケアユニット 脳卒中ケアユニット	8 9		ハイケアユニット入院医療管理料1 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
B棟	3	B3病棟	20	麻酔科	緩和ケア病棟入院料2
合計			367		

# 病院統計

年度別月別入院延べ患者数

(単位：人)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2018	8,052	8,210	7,741	8,247	8,937	7,688	8,430	8,593	8,889	9,091	8,377	8,701	100,956
2019	8,532	8,851	8,374	7,759	8,588	7,778	7,784	8,212	8,839	8,441	7,833	7,557	98,548
2020	6,564	5,611	5,791	6,571	6,986	6,676	7,296	7,450	8,173	8,667	8,525	9,524	87,834
2021	8,714	8,726	8,780	8,770	9,218	9,363	9,372	9,338	9,823	9,833	9,009	10,314	111,260
2022	9,646	8,684	9,268	9,029	8,288	8,415	9,325	9,184	8,874	9,051	8,977	9,606	108,347

年度別月別1日平均入院患者数

(単位：人)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018	268.4	264.8	258.0	266.0	288.3	256.3	271.9	286.4	286.7	293.3	299.2	280.7	276.7
2019	284.4	285.5	279.1	250.3	277.0	259.3	251.1	273.7	285.1	272.3	270.1	243.8	269.3
2020	218.8	181.0	193.0	212.0	225.4	222.5	235.4	248.3	263.6	279.6	304.5	307.2	240.9
2021	290.5	281.5	292.7	282.9	297.4	312.1	302.3	311.3	316.9	317.2	321.8	332.7	304.9
2022	321.5	280.1	308.9	291.3	267.4	280.5	300.8	306.1	286.3	292.0	320.6	309.9	297.1

年度別月別外来延べ患者数

(単位：人)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2018	13,594	14,272	14,216	14,341	14,528	13,547	15,623	15,165	14,464	14,434	13,344	14,388	171,916
2019	14,369	13,360	13,261	13,549	13,563	13,039	13,640	13,108	13,434	12,918	11,424	11,707	157,372
2020	10,068	9,161	11,077	11,722	10,734	11,155	12,131	11,053	12,077	10,824	10,294	12,830	133,126
2021	12,060	11,163	12,498	12,170	12,294	12,444	12,705	12,685	12,829	12,231	11,078	13,881	148,038
2022	12,579	12,168	13,421	13,114	13,252	12,860	12,554	12,597	13,266	12,388	11,724	13,780	153,703

年度別月別1日平均外来患者数

(単位：人)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018	566.4	594.7	546.8	573.6	558.8	589.0	600.9	631.9	628.9	627.6	580.2	575.5	589.5
2019	574.8	580.9	530.4	521.1	521.7	566.9	568.3	595.8	610.6	561.7	544.0	509.0	557.1
2020	437.7	458.1	461.5	509.7	487.9	507.0	505.5	526.3	549.0	515.4	514.7	513.2	498.8
2021	524.3	558.2	520.8	553.2	534.5	565.6	552.4	576.6	583.1	582.4	553.9	578.4	557.0
2022	571.8	579.4	559.2	596.1	552.2	584.5	570.6	572.6	603.0	589.9	586.2	574.2	578.3

年度別診療科別外来延べ患者数

(単位：人)

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022
総合診療内科		8,174	6,639	3,863	3,412	3,486
呼吸器内科		7,727	7,248	6,050	6,748	6,487
消化器内科		17,786	14,608	9,126	8,756	9,897
腎臓・高血圧内科		4,980	4,058	1,865	3,151	3,781
内分泌・糖尿病内科		15,692	6,551	5,161	6,066	6,583
血液浄化		7,876	7,554	6,365	5,837	7,020
乳腺科		2,353	3,012	3,268	4,017	4,524
脳神経外科		10,254	10,892	9,688	9,725	8,663
小児科		5,093	4,387	2,333	2,347	2,811
外科		6,332	6,108	6,098	6,229	6,289
呼吸器外科		3,112	3,382	2,476	2,609	2,596
形成外科		1,075	1,395	1,148	1,083	1,236
整形外科		11,502	11,631	10,844	14,289	16,679
皮膚科		4,566	5,158	4,484	4,396	2,134
泌尿器科		5,773	4,937	4,775	6,669	7,199
眼科		9,331	8,574	8,336	9,299	9,299
耳鼻咽喉科		13,907	14,168	12,259	13,358	12,550
心臓血管センター内科		16,520	16,101	14,714	14,862	15,129
リウマチ・膠原病内科		8,619	10,241	8,693	10,009	10,890
総合診療科		1,114	1,119	992	963	977
放射線科		2,192	2,206	2,275	2,083	2,069
麻酔科		4,618	5,049	4,469	4,978	5,212
救急科		3,320	2,354	3,844	5,120	5,330
アレルギー内科		—	—	—	2,032	2,862

年度別診療科別1日平均外来患者数

(単位：人)

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022
総合診療内科		28.0	23.2	14.5	12.8	13.1
呼吸器内科		26.5	25.3	22.7	25.4	24.4
消化器内科		60.9	51.1	34.2	32.9	37.2
腎臓・高血圧内科		17.1	14.2	7.0	11.9	14.2
内分泌・糖尿病内科		53.7	22.9	19.3	22.8	24.7
血液浄化		27.0	26.4	23.8	22.0	26.4
乳腺科		8.1	10.5	12.2	15.1	17.0
脳神経外科		35.1	38.1	36.3	36.6	32.6
小児科		17.4	15.3	8.7	8.8	10.6
外科		21.7	21.4	22.8	23.4	23.6
呼吸器外科		10.7	11.8	9.3	9.8	9.8
形成外科		3.7	4.9	4.3	4.1	4.6
整形外科		39.4	40.7	40.6	53.8	62.7
皮膚科		15.6	18.0	16.8	16.5	8.0
泌尿器科		19.8	17.3	17.9	25.1	27.1
眼科		32.0	30.0	31.2	34.9	35.0
耳鼻咽喉科		47.6	49.5	45.9	50.2	47.2
心臓血管センター内科		56.6	56.3	55.1	55.9	56.9
リウマチ・膠原病内科		29.5	35.8	32.6	37.7	40.9
総合診療科		3.8	3.9	3.7	3.6	3.7
放射線科		7.5	7.7	8.5	7.8	7.8
麻酔科		15.8	17.7	16.7	18.7	19.6
救急科		11.4	8.2	14.4	19.4	20.0
アレルギー内科		—	—	—	7.6	10.8
合計		589.5	557.1	498.8	557.0	578.3

概要・統計

年度別診療科別入院延べ患者数

(単位：人)

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022
総合診療内科		1	981	218	0	0
呼吸器内科		4,480	5,162	3,567	4,748	3,718
消化器内科		12,279	9,153	7,064	5,476	6,384
腎臓・高血圧内科		5,465	3,553	138	2,354	3,408
内分泌・糖尿病内科		5,683	2,945	2,625	3,122	2,261
乳腺科		544	725	838	633	978
脳神経外科		17,941	16,399	17,737	19,531	14,933
外科		9,904	11,042	10,347	11,818	13,032
呼吸器外科		5,094	4,659	3,572	6,573	5,191
整形外科		14,618	19,545	18,163	24,788	27,375
泌尿器科		0	0	199	1,720	1,883
眼科		878	729	416	616	478
耳鼻咽喉科		2,400	2,245	2,052	2,607	2,245
心臓血管センター内科		10,508	10,766	9,248	10,682	10,620
リウマチ・膠原病内科		4,096	4,143	3,000	3,649	3,700
総合診療科		2,517	2,789	2,328	3,255	2,261
麻酔科		588	655	2,418	6,241	6,293
救急科		2,354	3,844	5,120	3,217	3,309
アレルギー内科		—	—	—	230	278

年度別診療科別入院患者数：1日平均

(単位：人)

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022
総合診療内科		0.0	2.7	0.6	0.0	0.0
呼吸器内科		12.3	14.1	9.8	13.0	10.2
消化器内科		33.6	25.0	19.4	15.0	17.5
腎臓・高血圧内科		15.0	9.7	0.4	6.5	9.3
内分泌・糖尿病内科		15.6	8.0	7.2	8.6	6.2
乳腺科		1.5	2.0	2.3	1.7	2.7
脳神経外科		49.2	44.8	48.6	53.5	40.9
外科		27.1	30.2	28.3	32.3	35.7
呼吸器外科		14.0	12.7	9.8	18.0	14.2
整形外科		40.0	53.4	49.8	68.0	75.0
泌尿器科		0.0	0.0	0.5	4.7	5.2
眼科		2.4	2.0	1.1	1.7	1.3
耳鼻咽喉科		6.6	6.1	5.6	7.1	6.2
心臓血管センター内科		28.8	29.4	25.3	29.3	29.1
リウマチ・膠原病内科		11.2	11.3	8.2	10.0	10.1
総合診療科		6.9	7.6	6.4	8.9	6.2
麻酔科		1.6	1.8	6.6	17.1	17.2
救急科		10.8	8.4	10.7	8.8	9.1
アレルギー内科		—	—	—	0.6	0.8
合計		276.7	269.3	240.9	304.9	297.1

年度別診療科別入院患者数

(単位：人)

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022
総合診療内科		0.0	3.8	0.5	0.0	0.0
呼吸器内科		16.7	17.0	13.4	14.2	10.2
消化器内科		83.3	61.8	44.4	41.2	45.3
腎臓・高血圧内科		21.3	15.7	0.5	8.5	10.3
内分泌・糖尿病内科		19.0	6.3	5.5	5.5	4.3
乳腺科		4.9	6.4	8.3	7.2	9.2
脳神経外科		74.0	72.7	56.3	53.6	36.0
外科		41.3	43.9	42.3	43.8	47.6
呼吸器外科		18.6	19.0	13.1	22.3	15.8
整形外科		34.3	48.3	49.3	57.8	70.7
泌尿器科		0.0	0.0	1.5	10.4	12.1
眼科		24.3	20.0	14.8	16.5	14.8
耳鼻咽喉科		30.6	31.3	26.5	31.1	29.2
心臓血管センター内科		97.6	92.8	75.8	78.6	74.7
リウマチ・膠原病内科		14.8	15.7	13.4	14.8	17.1
総合診療科		8.3	11.3	9.0	7.7	5.8
麻酔科		1.6	2.8	9.8	23.1	25.3
救急科		23.2	18.1	17.5	22.3	22.0
アレルギー内科		—	—	—	3.1	2.8
合計		513.7	486.9	401.9	461.3	452.8

年度別診療科別退院患者数

(単位：人)

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022
総合診療内科		0.0	3.3	0.8	0.0	0.0
呼吸器内科		17.9	18.5	13.4	16.3	10.3
消化器内科		81.3	59.8	43.7	41.3	46.0
腎臓・高血圧内科		21.1	16.4	0.3	7.9	11.2
内分泌・糖尿病内科		18.2	7.8	5.8	7.4	5.3
乳腺科		4.7	6.5	8.0	6.9	9.1
脳神経外科		73.7	72.3	53.9	51.5	37.6
外科		44.3	47.1	44.3	45.2	47.9
呼吸器外科		20.3	20.3	13.3	21.8	17.8
整形外科		35.6	49.3	46.8	57.8	70.2
皮膚科		0.0	0.0	0.0	0.0	—
泌尿器科		0.0	0.0	1.7	12.1	12.6
眼科		24.3	20.0	14.7	16.4	14.7
耳鼻咽喉科		31.3	32.3	26.3	31.8	29.8
心臓血管センター内科		94.9	90.3	75.8	75.1	74.1
リウマチ・膠原病内科		15.5	16.2	13.8	15.4	17.4
総合診療科		8.8	11.1	9.3	10.4	7.6
麻酔科		2.4	3.5	9.7	27.5	28.2
救急科		19.9	14.3	13.9	12.3	13.5
アレルギー内科		—	—	—	2.8	2.4
合計		514.1	489.0	395.5	459.8	455.7



年度別平均在院日数：診療科別

(単位：日)

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022
総合診療内科		0.0	13.3	4.1	0.0	0.0
呼吸器内科		20.3	23.9	21.9	26.3	30.1
消化器内科		11.5	11.8	12.5	10.1	10.6
腎臓・高血圧内科		20.8	16.4	4.4	24.6	26.2
内分泌・糖尿病内科		25.1	35.2	40.2	39.6	42.9
乳腺科		8.7	9.0	8.8	6.5	8.2
脳神経外科		19.6	18.2	25.9	30.2	33.8
外科		18.6	19.3	19.1	21.4	22.0
呼吸器外科		21.5	18.8	21.9	24.6	24.9
整形外科		34.4	33.2	30.5	35.0	31.5
泌尿器科		0.0	0.0	3.6	12.2	12.0
眼科		2.1	2.1	1.5	2.2	1.9
耳鼻咽喉科		5.5	4.9	5.5	6.0	5.4
心臓血管センター内科		8.1	8.9	9.3	10.6	10.9
リウマチ・膠原病内科		23.2	21.3	17.7	19.2	17.7
総合診療科		24.4	20.3	20.8	29.0	28.1
麻酔科		26.1	16.5	20.4	19.6	18.8
救急科		14.7	15.3	21.1	15.0	15.1
アレルギー内科		—	—	—	5.9	8.5
全科		15.4	15.9	17.4	19.1	18.9

年度別平均在院日数：病棟別

(単位：日)

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022
東1病棟		—	—	142.3	148.2	126.8
東2病棟		12.0	12.9	13.1	17.2	19.1
東3病棟		13.9	14.8	14.0	13.6	13.6
東4病棟		39.8	39.6	35.3	39.3	32.3
西1病棟		17.8	17.0	20.7	19.9	21.2
西2病棟		17.2	17.7	17.7	18.8	17.7
西3病棟		9.9	10.3	10.5	10.5	12.3
急性期ケアユニット		39.7	26.5	11.8	17.0	12.3
脳卒中ケアユニット		16.9	15.5	18.7	18.8	23.8
B3病棟		—	—	26.9	19.9	19.0
全病棟		15.4	15.9	17.4	19.1	18.9

年度別病床利用率

(単位：%)

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022
東1病棟(38)		—	—	55.7	85.6	78.8
東2病棟(53)		81.1	79.3	37.8	44.5	48.8
東3病棟(52)		91.9	88.3	74.9	87.3	90.0
東4病棟(60)		95.5	93.7	66.9	92.8	81.3
西1病棟(34)		95.0	89.8	79.5	82.2	82.4
西2病棟(47)		96.8	98.6	93.9	99.1	97.4
西3病棟(46)		95.8	91.5	70.5	90.1	87.8
急性期ケアユニット(8)		81.5	73.0	72.7	82.0	73.4
脳卒中ケアユニット(9)		98.4	99.5	99.7	98.9	93.7
B3病棟(20)		—	—	59.2	82.2	80.7
全病棟(367)		92.2	89.9	70.2	83.1	80.7

## 年度別死亡数

(単位：人)

区分	年度	2018	2019	2020	2021	2022
死亡数		257	269	268	480	440

## 年度別解剖件数

(単位：人)

区分	年度	2018	2019	2020	2021	2022
解剖数		4	5	3	4	5

## 年度別救急車受入れ件数

(単位：件)

区分	年度	2018	2019	2020	2021	2022
救急車受入れ件数		5,326	5,357	3,814	4,544	4,072

## 年度別診療科別手術件数：（手術室実施）

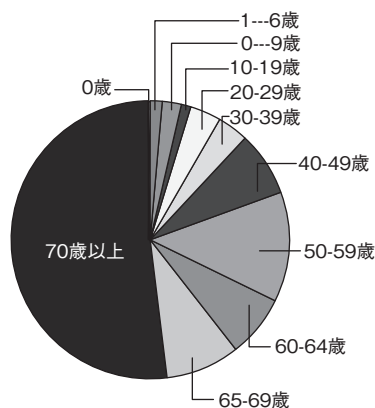
(単位：件)

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022
腎臓・高血圧内科		58	33	8	22	34
脳神経外科		134	114	111	91	53
外科		345	357	346	332	357
呼吸器外科		81	89	52	83	58
整形外科		344	498	446	638	808
泌尿器科		1	0	12	109	124
眼科		287	238	178	193	181
耳鼻咽喉科		226	216	160	197	215
乳腺科		41	63	59	63	80
心臓血管センター内科		—	1	—	7	50
麻酔科		—	1	4	6	4
合計		1,517	1,610	1,376	1,741	1,964

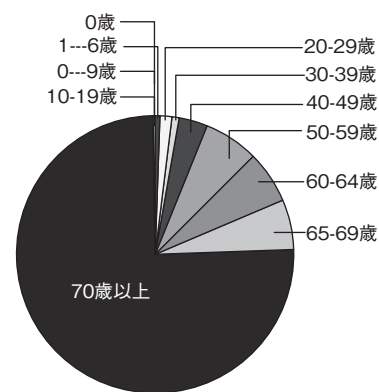
2022年度患者年齢別比率(単位：%)

年代	項目	外来	入院
0歳		0.2%	0.2%
1---6歳		1.4%	1.4%
0---9歳		2.1%	2.1%
10-19歳		1.3%	1.3%
20-29歳		3.4%	3.4%
30-39歳		3.8%	3.8%
40-49歳		7.4%	7.4%
50-59歳		12.8%	12.8%
60-64歳		7.2%	7.2%
65-69歳		8.7%	8.7%
70歳以上		51.8%	51.8%

外来患者年齢別比率



入院患者年齢別比率



2022年度地区別比率 (単位：%)

地区	保土ヶ谷区	南区	西区	戸塚区	旭区	中区	港南区	神奈川区	磯子区	泉区	港北区	瀬谷区
比率	36.5%	26.4%	12.7%	3.9%	2.5%	2.4%	2.2%	1.7%	1.7%	0.7%	0.7%	0.6%

地区	都筑区	緑区	青葉区	金沢区	鶴見区	栄区	市外	県外
比率	0.4%	0.6%	0.3%	0.4%	0.6%	0.3%	3.4%	2.0%

年度別紹介件数：診療科別

(単位：件)

診療科	年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
総合内科		475	36	139	35	427	59
呼吸器内科		401	439	455	375	420	389
消化器内科		1,012	1,171	939	891	862	936
腎臓・高血圧内科		206	312	251	93	184	196
内分泌・糖尿病内科		209	254	51	35	106	94
血液浄化		—	—	—	—	—	—
循環器内科		—	—	—	—	—	—
脳神経外科		294	307	359	295	322	321
小児科		30	45	33	10	8	11
外科		335	181	200	248	250	281
呼吸器外科		104	131	151	121	214	175
形成外科		33	23	36	46	44	92
整形外科		406	431	575	648	872	1,093
皮膚科		89	78	80	107	96	64
泌尿器科		257	204	217	319	365	329
産婦人科		—	—	—	—	—	—
眼科		213	199	186	154	210	216
耳鼻咽喉科		609	574	646	552	610	638
乳腺科		—	—178	—208	—171	173	208
心臓血管センター内科		1,163	1,399	1,377	1,235	1,300	1,270
膠原病・リウマチ内科		298	274	279	254	290	409
総合診療科		97	100	109	104	93	71
ドック・健診科		—	—	—	—	—	—
放射線診断科		1,858	2,193	2,208	2,275	2,083	2,070
麻酔科		89	121	107	271	629	742
アレルギー内科		—	—	—	—	221	39
救急科		109	134	103	114	108	116
脳卒中科		—	—	—	—	—	—

年度別紹介件数：即日入院件数

(単位：件)

診療科	年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
総合内科		88	0	14	5	1	1
呼吸器内科		64	51	52	49	53	36
消化器内科		162	174	141	123	99	111
腎臓・高血圧内科		45	52	44	1	22	34
内分泌・糖尿病内科		22	36	34	3	8	6
血液浄化		—	—	—	—	—	—
循環器内科		—	—	—	—	—	—
脳神経外科		70	88	95	66	83	73
小児科		0	0	0	0	0	0
外科		49	57	75	80	99	131
呼吸器外科		42	63	58	50	134	85
形成外科		0	0	0	0	0	0
整形外科		49	41	83	119	120	126
皮膚科		5	0	1	0	1	2
泌尿器科		12	0	1	5	16	17
産婦人科		—	—	—	—	—	—
眼科		0	1	1	1	1	1
耳鼻咽喉科		34	51	54	58	79	61
乳腺科		—	0	4	1	0	1
心臓血管センター内科		139	180	170	154	179	156
膠原病・リウマチ内科		20	23	23	22	19	43
総合診療科		86	85	85	92	75	51
ドック・健診科		—	—	—	—	—	—
麻酔科		11	6	13	65	120	129
アレルギー内科		—	—	—	—	6	0
救急科		46	51	47	64	63	61
脳卒中科		—	—	—	—	—	—

概要・統計

＜悪性新生物＞2022年4月1日から2023年3月31日までの退院サマリ完成分5,468名の中で、悪性新生物による退院患者847名の発生部位/世代別/性別/性別件数

	件数	00～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～64		65～69		70～74		75～79		80～		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
C02 舌のその他及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	2											1								1		
C03 歯肉の悪性新生物＜腫瘍＞	4																		1		2	1
C04 口（腔）底の悪性新生物＜腫瘍＞	1									1												
C08 その他及び部位不明の唾液腺の悪性新生物＜腫瘍＞	2																		2			
C10 中咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	2														1							
C11 鼻＜上＞咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	1												1									
C13 下咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	7											1				5					1	
C15 食道の悪性新生物＜腫瘍＞	21									1		3	2	1		3	1				8	2
C16 胃の悪性新生物＜腫瘍＞	68									2		3	1	8		14	3	4	3		13	17
C17 小腸の悪性新生物＜腫瘍＞	2																1					
C18 結腸の悪性新生物＜腫瘍＞	123					1		2	2	5	3	7	2	10	2	11	12	20	7	17	22	
C19 直腸S状結腸移行部の悪性新生物＜腫瘍＞	3							1				1										
C20 直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	52							1		3	1	12		1	4	8	2	7	4	6	3	
C21 肛門及び肛門管の悪性新生物＜腫瘍＞	2																	1			1	
C22 肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞	22											2	1	2		1	1	2	2	9	4	
C23 胆のう＜嚢＞の悪性新生物＜腫瘍＞	10													1		2	2	2			1	
C24 その他及び部位不明の胆道の悪性新生物＜腫瘍＞	17													1		1	1	5		6	3	
C25 脾の悪性新生物＜腫瘍＞	88									4	4	3		4	5	8	6	15	5	16	18	
C30 鼻腔及び中耳の悪性新生物＜腫瘍＞	1									1												
C31 副鼻腔の悪性新生物＜腫瘍＞	1												1									
C34 気管支および肺の悪性新生物＜腫瘍＞	93							3	6	1	2	3	6	2	12	5	13	4	19	17		
C37 胸腺の悪性新生物＜腫瘍＞	1																				1	
C38 心臓、縦隔及び胸膜の悪性新生物＜腫瘍＞	1																				1	
C44 皮膚のその他の悪性新生物＜腫瘍＞	2																1					1
C45 中皮腫	2															2						
C48 後腹膜及び腹膜の悪性新生物＜腫瘍＞	2																					
C49 その他の結合組織及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞	3																					
C50 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	135							1	8												1	
C53 子宮頸部の悪性新生物＜腫瘍＞	6							1														26
C54 子宮体部の悪性新生物＜腫瘍＞	4																					
C55 子宮の悪性新生物＜腫瘍＞、部位不明	1																					
C56 卵巣の悪性新生物＜腫瘍＞	5									1	2		1									1
C61 前立腺の悪性新生物＜腫瘍＞	68									2		2	2	12	15	16					21	
C64 腎盂を除く腎の悪性新生物＜腫瘍＞	5											1				2					1	1
C65 腎盂の悪性新生物＜腫瘍＞	5											1										1
C66 尿管の悪性新生物＜腫瘍＞	5														3							1
C67 膀胱の悪性新生物＜腫瘍＞	33											1		2	2	4	3	3			16	2
C69 眼及び付属器の悪性新生物＜腫瘍＞	1																					
C71 脳の悪性新生物＜腫瘍＞	2															1						
C73 甲状腺の悪性新生物＜腫瘍＞	2																					
C78 呼吸器および消化器の統架性悪性新生物＜腫瘍＞	17															1	6	3	1		1	
C79 その他の部位及び部位不明の統架性悪性新生物＜腫瘍＞	6							1								1					3	2
C80 部位が明示されていない悪性新生物＜腫瘍＞	9															3						
C83 非ろく濾＞胞性リンパ腫合計	5															1					1	1
C85 非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	3																				1	1
C92 骨髄性白血病	1																					
C95 細胞型不明の白血病	1																					
(合計)	847	0	0	0	0	1	3	5	14	25	50	42	26	50	37	99	69	100	47	140	139	

疾病（大分類）別・診療科別・性別 退院患者数

集計期間：2022/04/01～2023/03/31

疾病（大分類）	合計		呼吸器内科		消化器内科		腎臓・高血圧内科		内分泌・糖尿病内科		脳神経外科		外科		呼吸器外科		整形外科		泌尿器科		眼科		耳鼻咽喉科		乳腺科		総合診療科		麻酔科		アレルギー内科		救急科															
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女																
合計	2,922	2,546	77	47	311	241	91	43	37	27	255	196	358	217	145	69	309	533	122	29	77	99	211	147	0	109	32	59	164	174	8	21	76	86														
01：感染症及び寄生虫症	58	56	4	4	8	11	4	2	3	3	1	3	3	3	14	14							3																									
02：新生物	486	410	7	3	71	39			1	2	1	4	109	54	30	13	2	1	86	10			10																									
03：血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	10	15	1	4	4	1	1	1				1	1	1					1																													
04：内分泌、栄養および代謝疾患	53	38	1	1	3	3	3	2	26	17	1	7	8	7									1		1																							
05：精神および行動の障害	4	7									1												1																									
06：神経系の疾患	73	62							1		19	13			1								34																									
07：眼および付属器の疾患	79	102																					2																									
08：耳および乳様突起の疾患	85	78									3												82																									
09：循環器系の疾患	790	471	1	5	4	5	3				200	148	2	2	6	5							1																									
10：呼吸器系の疾患	226	125	60	38	4	2	6	2	2		1	15	4	15	3	54							64																									
11：消化器系の疾患	411	303			207	166							196	123																																		
12：皮膚および皮下組織の疾患	25	17											3	4			6						2																									
13：筋骨格系および結合組織の疾患	144	284					2	2	1				15	9	3	82							1																									
14：腎尿路生殖器系の疾患	131	87	1	1	5	8	66	25	2	3	1	4	5	2	2	167							1																									
17：先天奇形、変形および染色体異常	4	5			1						1		1										2																									
18：症状、徴候および異常臨床所見、異常検査所見で他に分類されないもの	29	42	2	2	2	4	1		1		1	5	4	4								2																										
19：損傷、中毒およびその他の外因の影響	265	410			1	2	1				28	15	6	3	4	205							3																									
21：健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	8	4										5	3										1																									
22：特殊目的用コード	41	30	3	1	1	3									34																																	

2022年4月から2023年3月までの退院サマリ完成分5,468名を対象としたものである。



疾病（大分類）別・診療科別・性別 退院患者数

集計期間：2022/04/01～2023/03/31

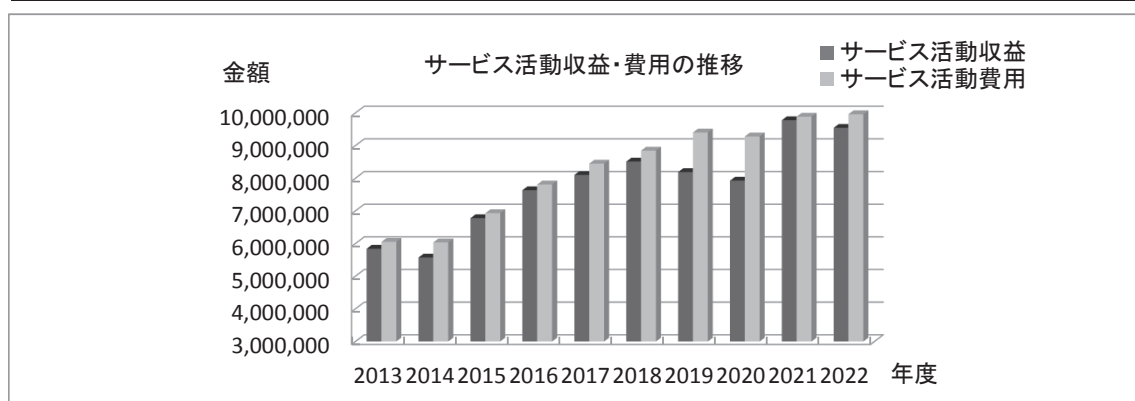
	合計	集計期間：2022/04/01～2023/03/31																
		0-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-		
合計	2,922	3	8	17	22	63	68	137	328	246	265	424	453	403	291	194		
男	2,546	1	6	5	16	46	40	102	258	136	193	310	327	394	355	357		
女	58					6	1	1	7	1	3	9	10	4	12	4		
01：感染症及び寄生虫症	56				1	2	6	6	8	3	6	2	6	5	4	13		
02：新生物	486					1	3	7	28	44	52	100	103	79	44	25		
03：血液および造血器の疾患ならびに免疫臓器の障害	410					1	5	17	52	31	39	70	52	69	36	39		
04：内分泌、栄養および代謝疾患	10					1			1		2	2	2		1	1		
05：精神および行動の障害	15				1				2		1	2		3	4	2		
06：神経系の疾患	53					1	2	2	5	7	2	5	10	14	3	2		
07：眼および付属器の疾患	38						1	1	4	3		1	6	11	6	6		
08：耳および乳様突起の疾患	4								1					1		2		
09：眼および付属器の疾患	7											1			4	2		
10：呼吸器系の疾患	73				1	2	9	3	17	8	8	11	5	4	3	2		
11：消化器系の疾患	62			1	1		3	4	6	3	8	13	4	7	5	7		
12：皮膚および皮下組織の疾患	79								5	9	3	7	14	27	8	6		
13：筋骨格系および結合組織の疾患	102								4	2	8	16	17	25	29	1		
14：腎泌尿生殖器系の疾患	85	2	4	10	4	5	6	13	6	5	9	5	8	3	5			
15：先天奇形、変形および染色体異常	78		5	1	2	8	3	11	11	8	9	10	4	4		2		
16：症状、徴候および異常臨床所見で他に分類されないもの	790				2	4	5	34	110	84	91	122	124	96	70	48		
17：先天奇形、変形および染色体異常	471				1	1	2	7	34	17	30	42	67	79	88	103		
18：症状、徴候および異常臨床所見で他に分類されないもの	226		1	2	9	22	14	17	19	10	17	17	25	33	24	16		
19：損傷、中毒およびその他の外因の影響	125				4	16	3	6	8	5	7	11	16	18	13	18		
20：健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	411					5	10	23	52	36	43	61	75	47	40	19		
21：健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	303			1	2	3	7	16	46	13	23	35	38	38	44	37		
22：特殊目的用コード	25							4	3	1	2	4	1	5	2	3		
	17								2		1	2		4	4	3		
	144			1		2	3	7	17	4	11	22	23	24	16	14		
	284				1	1	6	10	42	24	28	45	46	45	20	16		
	131					1	1	2	11	13	5	20	14	20	26	19		
	87					4	1	4	3	1	5	8	13	17	12	19		
	4					1		1			1			1				
	5			1	1	1		2										
	29				1	1	4	4	1	2	2	3	3	6	1	6		
	42				3	3	3	3	3	3	2	6	3	6	6	7		
	265	1	3	4	6	11	14	19	42	20	12	32	27	27	28	19		
	410	1	1	1	2	7	9	13	31	23	25	44	53	56	75	69		
	8								1	1	2	1	1	1	1	1		
	4								1		1	1	1	1				
	41						1		2	1	1	2	8	12	7	7		
	30							2	1	1	1	1	1	6	5	13		

2022年4月から2023年3月までの退院サマリ完成分5,468名を対象としたものである。

・財務統計ハイライト

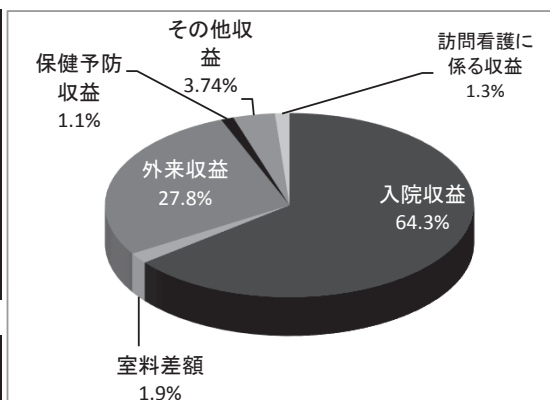
○サービス活動収益・費用の推移（内部取引控除前）

年度	サービス活動収益(千円)	対前年比	サービス活動費用(千円)	対前年比
2013	5,839,232	100.8%	6,050,310	101.8%
2014	5,570,368	95.4%	6,034,859	99.7%
2015	6,777,159	121.7%	6,931,513	114.9%
2016	7,632,739	112.6%	7,809,810	112.7%
2017	8,100,126	106.1%	8,446,671	108.2%
2018	8,509,516	105.1%	8,843,764	104.7%
2019	8,188,301	96.2%	9,399,903	106.3%
2020	7,925,349	96.8%	9,279,004	98.7%
2021	9,777,513	123.4%	9,884,629	106.5%
2022	9,543,292	97.6%	9,958,992	100.8%

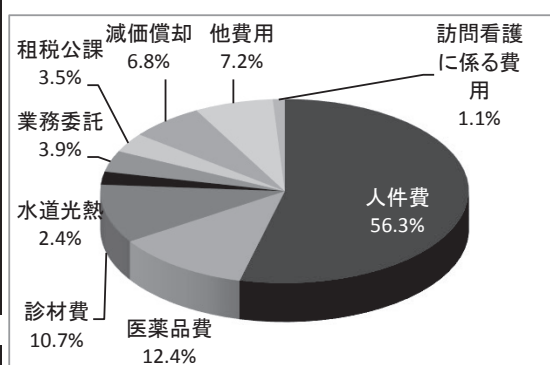


○サービス活動収益・費用の内訳(2022年度)

	サービス活動収益(千円)	占有率
入院収益	6,139,575	64.3%
室料差額	176,939	1.9%
外来収益	2,649,065	27.8%
保健予防収益	107,368	1.1%
その他収益	349,136	3.7%
訪問看護に係る収益	121,209	1.3%
合計	9,543,292	100%



	サービス活動費用(千円)	対医収比
人件費	5,371,549	56.3%
医薬品費	1,184,683	12.4%
診療・療養材料費	1,025,310	10.7%
水道光熱費	228,625	2.4%
業務委託費	370,483	3.9%
租税公課	336,928	3.5%
減価償却費	647,372	6.8%
その他費用	690,176	7.2%
訪問看護に係る費用	103,866	1.1%
合計	9,958,992	104.4%



サービス活動増減差額	-415,700	-4.4%
------------	----------	-------

※2014年度より せいれい訪問看護ステーション横浜を含む

※2015年度より 新社会福祉法人会計基準へ移行

※訪問看護に係る収益・費用・・・訪問看護ステーションにおけるサービス活動収益・費用を掲載

---

---

# 膠原病・リウマチセンター

センター長：山田 秀裕

---

---

## 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

医師		8名
部長	山田 秀裕(1981年)	
主任医長	伊東 宏(2005年)	
医長	児島 希典(2014年)	
医員	松下 広美(2008年)	
医員	先崎香朱実(2016年)	
内科専門研修医	青木 海斗(2020年)	
	花岡 洋成(2003年)(非常勤)	
	吉田 雅伸(2000年)(非常勤)	
リウマチケア看護師		4名
リウマチ専門薬剤師		1名
検査技師		1名
リハビリテーション療法士		2名
医師事務補佐		2名
医療情報管理課と地域連携・患者支援センターの事務		各1名

## 業務内容

膠原病やリウマチ性疾患を対象に、多職種連携診療チームによる最先端かつ安全性の高い診療を提供する。

スタッフ間の連携を円滑に行い、患者の診療の質を高める。毎月第1火曜日にセンター運営会議を開催し、情報共有と現状での問題点の把握、今後の方針を相談する。

関節リウマチ患者を対象としたリウマチ包括ケアを推進する。地域連携室や総務課と共同して広報活動やホームページ作成を行う。

## 2022年度総括

多職種が連携したチーム医療を推進するため、我が国初のリウマチ包括ケア外来を2020年5月に開設以来、金曜 午後に診療を行った。そこでは、関節リウマチと診断された患者に対し、看護師、薬剤師、リハビリテーション療法士とともに、関節保護や関節の運動療法、薬物療法、感染症などの合併症予防対策、口腔ケア、気道ケア、消化管ケアなどを包括的に指導した。

リウマチ看護外来では、年間1,077症例を看護面談し、バイオ導入指導102例、JAK阻害薬導入指導21例、自己注射指導94例、電話相談135例のケアを行った。フットケア外来もこれまで同様に継続した。

また、地域連携室と共同で、各種WEB講演会、近隣クリニックとのオンライン面談等による地域連携、ホームページの更新など、広報活動を積極的に行った。

実績

図 1. 外来診療実績 (2016/4 ~ 2023/3)

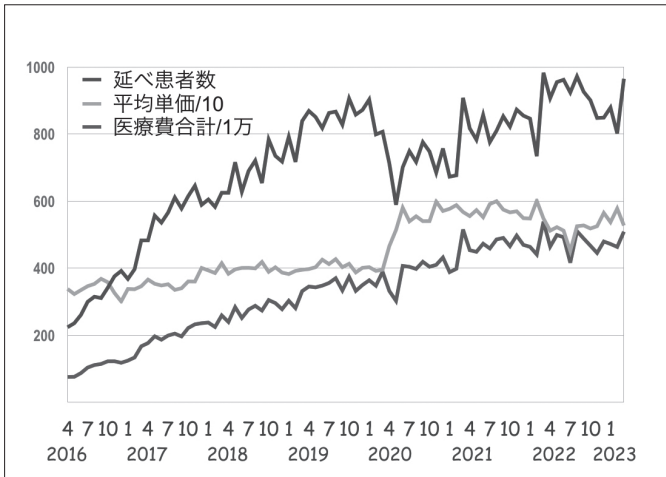


図 2. 月別の初診患者数

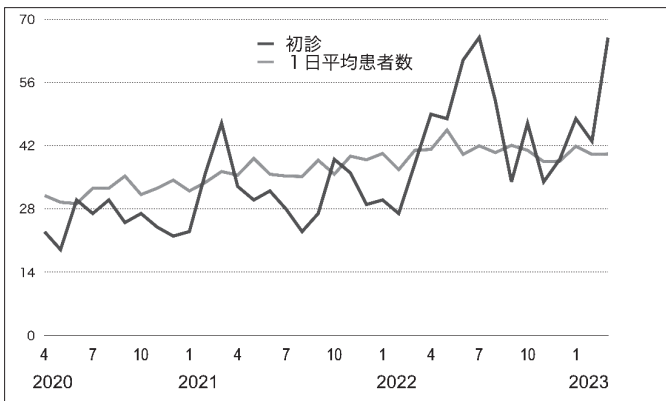
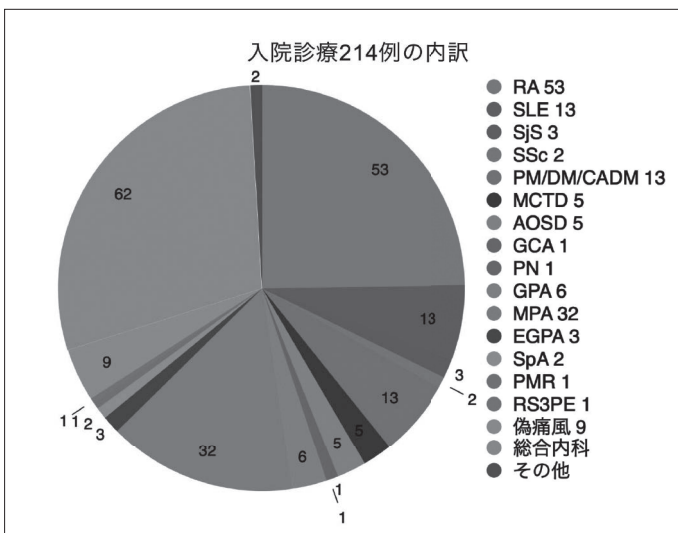


図 3. 初診患者内訳と入院患者内訳



センターなど

---

---

## 脳神経血管・高次脳機能センター

センター長：佐々木 亮

---

---

### 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

脳神経血管・高次脳機能センター長  
脳血管内治療科部長 佐々木 亮 (2001年)  
脳神経外科部長 青井 瑞穂 (1992年)  
主任医長 荒木 孝太 (2009年)

### 業務内容

急性期脳梗塞やクモ膜下出血を始めとした急性期脳血管障害患者に迅速に対応すべく「脳卒中ホットライン」を有効に運用しながら、直達手術や脳血管内手術などを患者の状況に合わせ治療方法を選択し行った。また、脳血管障害は脳卒中ケアユニット (SCU) で入院診療を行い、全身状態の重症な患者は急性期ケアユニット (ACU) で治療を行った。脳卒中ケアユニット (SCU) の稼働と連携し早期リハビリテーションを充実させた。

回復期リハビリテーション病棟の新設に伴い、綿密に連携しながら、急性期治療から機能障害の回復まで一貫した治療を行い治療成績の向上に貢献したと同時に患者の満足度も向上した。

### 2022年度総括

2016年からセンターが稼働、2018年8月には脳卒中ケアユニット (SCU) 開設、2020年7月から回復期リハビリテーション病棟オープン、その後診療体制の充実により2021年9月からSCU9床への増床を行った。それにより、「急性期治療から機能回復まで一貫した治療体制」という当センターの最終目標が達成され、患者満足度も向上した。

現在、新型コロナウイルス感染症の蔓延により各病院で診療制限などが行われたが、当センターでは急性期脳卒中治療に関して診療を継続、入院件数、手術件数はある程度低下を認めたものの、一定数の成果は維持できている状況である。

今後は、急性期から慢性期と包括的な脳卒中診

療を軸として、周辺の病院・クリニックなどの医療機関、救急隊などとの関係性を向上し、より地域の為に貢献できるセンターを目標とする。

# 心臓血管センター

センター長：芦田 和博

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

センター長	芦田 和博 (1997年)
主任医長	新村 剛透 (2005年)
主任医長	河合 慧 (2009年)
主任医長	乗松 東吾 (2009年)
医長	中島 啓介 (2003年)
医長	山田 亘 (2011年)
医長	福田 正 (2012年)
医員	長谷川 和喜 (2013年)

## 2022年度総括

当科開設以来、継続実施している断りのない救急診療を2022年度も実施できた。当科医師全員のみならず、ベッドコントロールを主に担っていただける看護部、速やかな患者ID作成、受け入れ調整を行っていただく事務部門、そのほか現場スタッフの協力のもとである。この場を借りて深謝申し上げる。また、昨今の高齢者心不全増加傾向に伴い、当科も心不全受け入れ態勢の強化、一次予防・二次予防の普及に力を注いだ。横浜市医療圏最大規模の人員が在籍している当院の心不全療法指導士とチームを結成し、心不全教育入院、包括的リハビリの導入を行った。

さらに、地域からの負託に応える形で、2022年4月より心臓血管外科を立ち上げ、動脈瘤・静脈瘤などへの対応、診療内容の拡大を行った。以下、心臓血管センター外科 乗松医師からの執筆内容を添付する。

開設に先立ち、幸いにも下肢静脈瘤血管内治療施設、腹部大動脈ステントグラフト実施施設の認定を得られたため、開設当初から下肢静脈瘤、腹部大動脈瘤の低侵襲血管内治療を開始することが出来た。また2022年の症例実績により2023年1月からは心臓血管外科専門医認定修練施設(関連)にも認定された。いずれの施設認定も横浜市保土ヶ谷区では初であり、開設1年としては最低限の歩みを進める事ができたと考えている。今後は診療科の枠を超えたフットケアマネジメントの構

築や現在他院に治療依頼している大動脈解離を含めた胸部大動脈治療や弁膜症治療の開始を計画したい。これらの疾患は、集中治療室の稼働率ならびに看護必要度を満たす疾患であり、今後のICU加算取得、拡充にもつながり、病院の発展のみならず利益にも貢献できると確信している。心臓血管外科関連施設を3年間継続できると基幹施設となり、よりセンターとしての機能を備える事につながる。

そのため当面は上記展望の実現を図るべく、より密度の濃い外科治療が行えるように邁進する所存である。

また、例年通り、2022年度も様々な対外発表を行った。コロナ禍であり、国際的な発表はすべてwebでの配信となったが、コロナ前と変わらないくらい精力的に発信し、診療のアップデートを図ってきた。地域への講演会活動もほぼ毎月開催することで集患・地域貢献につながったと考える。今後も当院自慢の患者に優しい、慮りのある多くの医療スタッフとともに、24時間体制で断りのない循環器救急診療を継続するのみならず、循環器医療チームで慢性期循環器医療、予防医療にも力を結集する予定である。

## 実績

PCI	309件
心臓カテーテル検査	412件
アブレーション	60件
ペースメーカー留置	35件



# 乳腺センター（乳腺科）

センター長：徳田 裕

## 人員構成（2022年4月1日時点 括弧内：医籍）

医師	2名
乳腺センター長 徳田 裕（1978年）	
乳腺科部長 劉 孟 娟（1994年）	
看護師	2名
放射線技師	1名
検査技師	1名
事務職	6名

## 業務内容

当科は乳腺の悪性疾患から乳腺症、乳腺炎、乳腺膿瘍、乳腺線維腺腫、葉状腫瘍、女性化乳房症などの良性疾患まで対応し、乳がんを中心に診療している。特に、初回の受診時にマンモグラフィ・乳房超音波検査、必要に応じて受診当日に細胞診や組織診を行い迅速な診断を行ってきた。また、遺伝カウンセリング外来を設置し、東海大学医学部遺伝子診療科と連携するとともに、BRCA1/2 遺伝子検査の実施施設の認定を受けている。さらに、コニカミノルタ株式会社と共同の遺伝性腫瘍多遺伝子パネル検査の実施委託施設である。

乳がんを発症した症例については、標準的な乳房部分切除術、乳房切除術、腋窩リンパ節郭清術、センチネルリンパ節生検、一次的乳房再建術が実施可能である。また、術後の再発予防のための薬物療法や進行・再発症例での薬物療法も実施している。さらに、BRCA1/2 陽性症例でのリスク低減乳房切除、両側卵巣切除も連携している東海大学医学部付属病院で実施可能となっている。

## 2022年度総括

### 乳腺セカンドオピニオン外来

2020年度より、セカンドオピニオン外来を毎週木曜日午後、完全予約制にて開始した。予約の窓口はすべて地域医療連携室に集約し、あら

かじめ紹介状、画像等の資料を入手し担当医に提示したうえで予約日時を決定し依頼者に返信する。また、受診の同意書、費用に関する覚書も作成した。2022年度の受診者は3名（2021年度1名）であった。

### 遺伝カウンセリング外来

がんゲノム医療拠点病院である東海大学医学部付属病院遺伝子診療科と連携するとともに、同科所属の臨床遺伝専門医高橋千果先生を非常勤医師として招聴し、遺伝カウンセリング外来を実施している。

遺伝子検査の同意説明文書の作成、医療スタッフ育成のための勉強会などを実施し、BRCA 検査の保険適応のための施設認定を獲得した。2022年度のBRCA1/2検査数は、43例（2021年度25例）であった。

### センチネルリンパ節生検用 RI 注射の依頼

センチネルリンパ節生検実施症例数の増加にともない、新たにみなと赤十字病院にRI注射を委託し、本格的に運用を開始した。2022年度の症例数は、市大センター病院 31例（2021年度32例）みなと赤十字病院 24例（同16例）であった。

### ステレオマンモトーム生検

マンモグラフィで発見されたカテゴリ - 3以上の微細石灰化巣に対するステレオマンモトーム生検を2020年2月13日より開始し、第2、3木曜日午後各2例の予約で継続している。2022年度の実績は、39例実施し、悪性9例、23%（同22例実施、悪性7例、31%）であった。

## 実績

### 2022年度の主な治療実績

（2022年4月1日～2023年3月31日）

乳がん手術症例	69例
乳房部分切除術	55例
センチネルリンパ節生検	51例
腋窩リンパ節郭清	1例
乳房切除術	14例
センチネルリンパ節生検	12例
腋窩リンパ節郭清	2例



# 人工関節センター(関節外科)

センター長：竹下 宗徳

## 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

人工関節センター長 関節外科部長  
竹下 宗徳(2003年)

## 業務内容

地域の整形手術拠点病院として2022年度の整形総手術数は年間808件、一日の平均入院患者数は75.0人であった。

生まれ育ちのこの保土ヶ谷に、2016年赴任した。2018年人工関節センターを立ちあげ、変形背関節症や骨壊死といった変性疾患に対して、専門的高度かつ最先端の手術を行うセンターとして、これまでの股関節を筆頭に膝も、そして2022年からリバース型人工肩関節手術も開始した。手術室スタッフおよび、充実したりハビリテーション課や看護部など、院内の多職種による熱心な連携で成り立っている。

どんな末期や豊満な変形性股関節症でも、最小侵襲手術(MIS)の中でも一番侵襲が少ないとされる、特殊な手術手技で行っている。その最小侵襲手術手技のメリットとして、様々なリスクが少なくなったことで、従来のドレーンは廃止、自己血貯血や術中術後の回収血も廃止、全荷重でのリハビリ開始は翌朝からといった風に早期リハビリを実現している。

当院の人工関節手術数は年々増加の一途であり、ご紹介例に加え口コミでの御希望が多いのが特徴である。

人工関節センターでは、地域のクリニックと密に連携して、手術を治療法のメインとしているが、変形性関節症への最新かつ究極の保存治療の選択肢として、国の非常に厳しい基準をクリアした再生医療も行っている。変形性膝関節症や股関節症への再生医療を、次世代PRP療法による再生医療をメインにして、膝だけでなく股関節でも施行可能とする病院は全国的にも少ない。

骨粗鬆症リエゾンサービス(OL S)も運用が軌道に乗ってきた。大腿骨近位骨折や骨粗鬆症性椎体骨折の入院患者に、医師・薬剤師・MSW・看護師・リハ・放射線技師・管理栄養士といった院内の多職種が、全員で熱く介入して、骨折を繰り返さないよう二次骨折を防ぐための取り組みを行っている。2022年度診療報酬改定で二次性骨

折予防継続管理料が導入された一方で、現実では、横浜市内でOL Sが稼働出来る病院は、いまだ、当院を含めて3病院のみである。これは当院の整形外科をとりまく院内多職種の熱心さと堅実さを物語っているといえる。

当科は国立病院時代から長年、千葉大整形医局の専門研修連携施設だが、2019年からは千葉大と北里大の2つの整形医局の専門研修連携施設となった。2022年は千葉大整形からは森岡医師、北里大整形からは村上医師と西岡医師が赴任した。2022年当院初期研修医の黒田医師は北里大整形への入局を決めた。

2021年赴任の木内医師は手外科を担当していたが、親御さんのご事情で2022年度末、実家の方へ急遽異動した。

## 2022年度総括

手術に闘魂注入するのは勿論のこと、常に人情深く患者視線を心がけ周術期の患者満足度・家族満足度・紹介元満足度を全て高く維持したい。院内の多職種の気持ちが通いあっているこの院内の良い雰囲気はその満足度につながっている。

「聖隷横浜で人工関節手術を受けてほんとよかったわあ。病院の皆にほんと良くして貰ったの。恵まれてるわよ私って。いい先生と皆さんに出会えたからね(笑)家族も医院の先生も皆喜んでるの」と、おっしゃる患者が多いのは、院内の多職種の仲間のおかげである。

今後もさらに精進して、人工関節センター、整形外科全体、病院全体で、多くの仲間と力をあわせて、横浜の中心で聖隷ファンをますます増やしていきたい。

## 実績

整形外科手術	808例
人工股関節置換術 THA	101例
人工骨頭置換術 BHP	33例
人工膝関節置換術 TKA	37例
人工膝関節単顆置換術 UKA	7例
人工肩関節置換術	9例
人工股関節再置換術	8例
人工膝関節再置換術	3例
再生医療	37例

# 画像診断センター

センター長・放射線診断科部長：新美 浩  
副センター長・診療放射線技師長：釜谷 秀美

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

放射線診断科常勤医	3名
放射線診断科非常勤医	7名
診療放射線技師	19名
内訳	
マンモグラフィ認定技師	4名
血管撮影・インターベンション専門技師	2名
磁気共鳴専門技術者	1名
X線CT認定技師	2名
救急撮影認定技師	1名
第1種放射線取扱主任者	3名
放射線管理士	3名
放射線機器管理士	3名
医用画像情報精度管理士	3名
Ai認定診療放射線技師	1名
衛生工学衛生管理者	2名
シニア診療放射線技師	1名
アドバンスド診療放射線技師	2名
事務兼検査補助員	3名

## 業務内容

- 単純撮影装置、乳房撮影装置、骨密度測定装置、X線テレビ装置、血管撮影装置、CT装置、MRI装置を用いた診断目的画像撮影
- 各装置を用いた放射線診断技術の治療的応用 (IVR) 時の機器操作
- 放射線機器の保守管理業務
- 撮影画像管理業務
- 高精細モニタ管理業務
- 放射線被ばく低減のための管理業務
- 放射線検査に対する相談窓口業務
- 撮影技術等の学術研究
- 画像診断読影報告書の未読防止メール送付

## 2022年度総括

- ・院外からの紹介検査 (実績)
  - CT: 年間 1,905 件 (対前年比 100.1%)
  - MRI: 年間 173 件 (対前年比 94.0%)

実績

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年度比(%)
一般撮影	胸部・腹部	2,524	2,254	1,754	1,956	1,949	99.6
	骨	1,135	1,204	1,056	1,224	1,197	97.8
	マンマ軟線	100	112	127	148	167	112.8
	ポータブル	651	711	566	670	687	102.5
	骨塩定量	52	42	53	69	95	137.7
	小計	4,462	4,323	3,556	4,067	4,095	100.7
造影	G I	30	29	42	47	52	110.6
	注腸	5	4	6	3	6	200.0
	ブロック	9	11	11	9	10	111.1
	T Vその他	78	69	69	76	72	94.7
	小計	122	113	128	135	140	103.7
C T	件数	1,615	1,542	1,742	1,831	1,618	88.4
	造影率	24.3%	22.3%	18.0%	16.6%	20.8%	125.3
M R I	件数	515	568	531	549	530	96.5
	造影率	6.0%	5.2%	5.1%	5.0%	5.2%	104.0
A N G I O	循環器	81	70	54	54	54	100.0
	頭頸部	40	29	17	18	12	66.7
	体幹部	3	2	2	1	1	100.0
	四肢	4	4	4	0	1	0.0
	小計	128	105	77	73	68	93.2

# 内視鏡センター

センター長：吹田 洋将

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

医師 10名  
(消化器内科 4名、呼吸器内科 1名、呼吸器外科 3名、  
外科 1名、総合診療科 1名)  
看護師 14名(うち内視鏡技師 6)  
臨床工学技士 19名(うち消化器・内視鏡センター担当4名)  
看護助手 1名

## 業務内容

当センターは、2007年4月にそれまでの内視鏡検査室を整備して、内視鏡センターとして開設され、2012年4月には消化器・内視鏡センターと名称が変更された。

2019年7月には新外来棟オープンに合わせ、センター(内視鏡室)も新外来棟に移った。

患者が安全、快適かつ迅速に内視鏡検査や内視鏡治療を受けられるように、専用の待合室、更衣室、リクライニングシートを兼ね備えたりカバリールームを完備している。同時に消化管早期癌の診断において有用な最先端の内視鏡システム(NBI)や拡大内視鏡の導入、そして、消化管腫瘍に対する内視鏡的ポリープ切除術、内視鏡的粘膜切除術(EMR)、内視鏡的粘膜下層切開剥離術(ESD)、内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)などの治療内視鏡を安全、迅速に行える高周波装置VIO300を導入している。

取り扱う内視鏡機材は、上部・下部の消化管内視鏡や経乳頭的胆管膵管造影(ERCP)用の胆膵内視鏡だけでなく、気管支鏡を含む。特に消化器内科においては、胆道系処置を積極的に行っているため、X線透視下での内視鏡検査治療も頻回に施行している。

当センター所属の医師は消化管については消化器内科を中心として、一部を外科が担当し、気管支鏡については呼吸器内科と呼吸器外科が担当している。また人間ドックや検診での内視鏡検査では総合診療科の医師も内視鏡検査を

行っている。特に人間ドックや検診の患者に対しては、苦痛のない検査目的で細径内視鏡検査を心掛けている。消化器内視鏡技師の専門資格を有する看護室スタッフ・臨床工学技士が検査の介助を担当して、円滑に業務を遂行している

## 2022年度総括

患者の待ち時間や検査時間を短縮し、苦痛や不安のない検査・治療を実践することを目指して、より安全で効率的なセンター運営を行ってきた。外来担当医や内視鏡検査・治療担当医との緊密な連携のうえに質量ともに十分に満足のできるものであった。

内視鏡治療において技術的難易度の高いESD(早期胃癌や早期大腸癌)・ERCP(胆膵内視鏡を用いた胆道系の治療)も順調に件数を伸ばしており、かつ安全に治療を完遂できている。緊急治療が必要とされる内視鏡的消化管止血術や、化膿性胆管炎に対する胆道ドレナージも、患者の安全を考慮し、細心の注意を払って内視鏡治療を行っている。

2023年度は、診療実績のより一層の充実と患者にとってさらに安全で快適な診療の実現を目指す。

## 実績

項目	件数
上部消化管内視鏡検査	1,641件
うち内視鏡治療	76件
早期胃癌 ESD	14件
経皮的内視鏡下胃瘻造設術	8件
内視鏡的止血術	25件
食道静脈瘤硬化療法	4件
下部消化管内視鏡検査	1,331件
うち内視鏡治療	304件
早期大腸癌 ESD	6件
大腸ステント留置術	8件
内視鏡的大腸ポリープ切除術	276件
経乳頭的胆管膵管造影	169件
気管支鏡検査	3件

# 地域連携・患者支援センター

センター長：山田 秀裕

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

地域連携室	6名
医療相談室	6名
入退院支援室	4名

## 業務内容

### 域連携室

- ①地域医療機関・患者からの受診・入院相談
- ②診療情報提供書管理・返書管理
- ③域医療機関や地域住民向けセミナー、医療講座開催
- ④地域医療機関や多職種との連携会実施と訪問活動

### 医療相談室

- ①医療費や退院後の生活、介護・福祉制度利用など医療に関する相談
- ②無料低額診療事業に関する相談

### 入退院支援室

- ①入院支援：多職種による入院前オリエンテーションや面談の実施
- ②退院支援：入院前や入院早期より、退院に向けた意思決定支援と療養先への退院調整

### ◎地域医療連携室

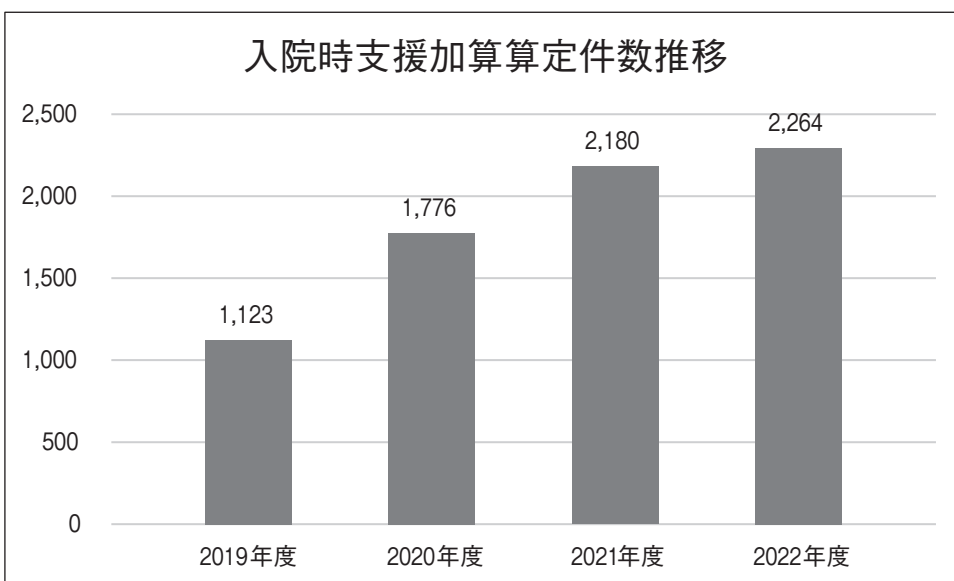
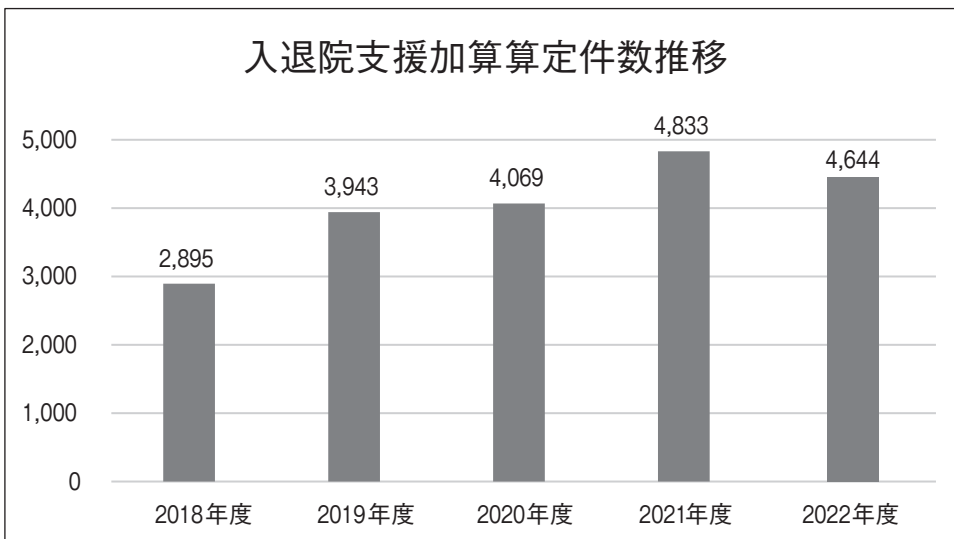
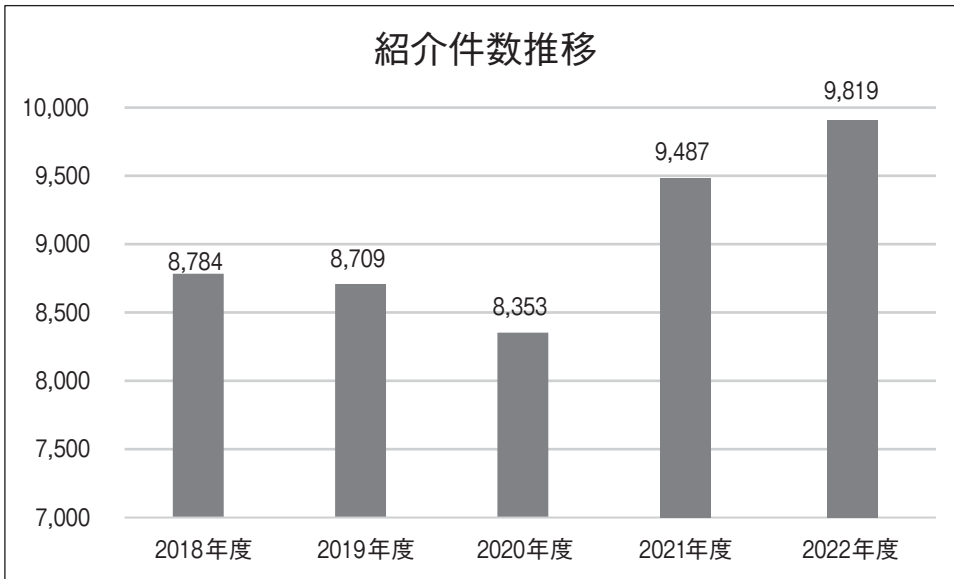
- ・6月4日 市民健康講話開催「今から延ばす健康寿命」
- ・2023年3月3日 市民健康講話開催「あなたの心臓どう守る？心不全編」
- ・年2回 「救急フォーラム」開催（オンライン2回）
- ・年7回 各救急隊訪問実施（搬送症例についての報告・検討）
- ・年17回 医療機関向けオンライン病診連携会・講演会・webセミナー開催
- ・院内多職種連携 OLS（骨粗鬆症リエゾンサービス）活動
- ・新入職医師、診療科を中心とした医師会、地域医療機関へ訪問活動
- ・診療情報提供書即日返信の推進（紹介患者受診日当日の返信作成率：上半期 97.2%、下半期 99.2%）
- ・院内多職種連携 OLS（骨粗鬆症リエゾンサービス）活動

### ◎医療相談室

- ・医療福祉相談、退院支援、無料低額診療事業、医療安全等

### ◎入退院支援室

- ・病床管理センターメンバー（退院支援専従看護師、当センター課長）
- ・看護部 在宅療養支援委員会メンバー（入退院支援専従看護師、当センター課長）
- ・地域包括ケア病棟を中心とした在宅サポート入院や転院の相談、受入調整
- ・転院調整システム「CAREBOOK」を通じた転院相談体制の構築
- ・緩和ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟への受入体制づくり
- ・コロナ禍における入院時の対応について各部門との調整および受け入れ体制の構築





# 医療の質管理室

室長：大内 基史、野澤 聡志（10月～）

## 人員構成（2022年4月1日時点 括弧内：医籍）

医師	2名
看護師	4名
（その内、専従・認定・特定看護師は以下の通り）	
専従医療安全管理者	1名
専従院内感染管理者	1名
集中ケア認定・特定看護師	2名
事務	1名

## 【医療安全管理室】

### 業務内容

- 病院安全管理委員会で用いられる資料作成ならびにその他委員会の運営
- 医療安全対策に関する日常活動
- 医療事故発生時の指示、指導など
- 医療安全に関する職員への教育、研修の実施
- そのほか、医療安全体制の構築および対応策の検討、策定

### 2022年度総括

- 病院安全管理委員会、セーフティマネジャー運営会議、診療部セーフティマネジャー会議内で報告事例の共有
- 重点施策達成のためのワーキンググループ活動（セーフティマネジャーとの連携）継続
- 医薬品、医療機器、職場環境安全ラウンドの実施と情報共有
- 医療安全推進週間の取り組みとして、
  - ①『GoodJob アワード』を開催`Best of GoodJob 賞”2件、“GoodJob 賞”3件
    - ・院内各部署から合計38件エントリーされ、各職場の患者安全に貢献している取り組みを共有できた。
  - ②職員から応募された、医療安全標語作品集を活用し、【医療安全標語かるた】を作成した
- 職員医療安全研修：e-ラーニング形式で企画、開催
  - ・第1回職員医療安全研修【照合と指差呼称～

確認の精度向上をめざして～】受講率：98.5%  
・医薬品セミナー【転倒転落を防ごう～転倒とくすりについて】受講率：92.3%

- 院内医療安全管理指針・医療安全マニュアルの整備
- 「安全管理情報」の発行：年間12部発行、「医療安全標語応募」を継続
- 医療安全地域連携加算I相互ラウンドの実施
  - ・JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院、育生会横浜病院との相互ラウンド実施

## 【感染対策室】

### 業務内容

- 患者、家族および面会者を含む訪問者や全職員を医療関連感染から守るため、感染防止対策活動を通じて安全で質の高い医療を提供する。
- 感染管理の分野において感染防止対策を実践し、指導および教育を行う○新型コロナウイルス感染症対応
    - ・陽性患者発生時の届出、接触者の確認、陽性患者の転送、接触職員の検査対応
    - ・陽性患者受け入れ時の対策
    - ・面会制限、入院時全員検査確認
    - ・職員の就業制限、復帰の確認
    - ・地域福祉施設の感染対策指導、研修
  - 感染対策勉強会開催  
新型コロナウイルス感染症対策～当院の取り組みについて～ 対面研修  
クロストリジオイデス・ディフィシル（CD）感染症 e-ラーニング
  - 職員へのワクチン接種実施（インフルエンザ、HBs、MR、新型コロナウイルス）
  - 職業感染（針刺しや感染症の曝露）の現状把握とその対応を行う
  - 患者が安全で安心できる療養生活を送るための、環境調整を行う

### 2022年度総括

- 新型コロナウイルス感染症対応
  - ・陽性患者発生時の届出、接触者の確認、陽性患者の転送、接触職員の検査対応
  - ・陽性患者受け入れ時の対策

- ・面会制限、入院時全員検査確認
- ・職員の就業制限、復帰の確認
- ・地域福祉施設の感染対策指導、研修
- 感染対策勉強会開催
- 新型コロナウイルス感染症対策～当院の取り組みについて～ 対面研修
- クロストリジオイデス・ディフィシル (CD) 感染症 e - ラーニング
- 職員へのワクチン接種実施 (インフルエンザ、HBs、MR、新型コロナウイルス)
- 全新入職員への入職時オリエンテーション実施
- 結核患者発生時の届出、接触者の確認、接触者の健診対応
- 針刺し事例の状況確認、対策指導
- 感染対策向上加算地域連携カンファレンス参加

ともに RRS における各職場の問題と対策を検討し、取り組みをサポートした。

- NEWS の記載を促進し、患者急変におけるアセスメントの 1 つとして現場教育を行った。
- 血糖・インスリン関連におけるインシデントに対して、特定看護師による現場教育とマニュアルの変更等を行った。

## 2022年度総括

- 予期しない急変発症低減を目的に病棟ラウンド重症患者や早期警告スコア (NEWS) における急変リスクがある患者に対し病棟をラウンドし、急な変化がないか、治療方針や家族の意向などを現場で情報共有する。  
急性期ケアユニットや脳卒中 v ケアユニットは、午前・午後には必ずラウンドを実施。
- スタッフ教育 ～気づき力向上～  
特定行為を実施しながらアセスメント内容を多職種へ伝達し共有。  
RRS に必要な知識と技術について RRS 研修を開催し、翌年にはフォローアップ研修も開催。
- 血糖・インスリン関連の院内教育強化  
特定看護師による血糖測定およびインスリン投与に関する指導の実践により、医師 - 看護師間での情報共有が促進され、これらの分野での実臨床教育を充実させる。
- 2022年度は 10.5 回 / 月で RRS 要請があり、そのうち 82% の患者が軽快した。
- 院内の看護師へ RRS 研修を行い、RRS 研修生と

## 診療支援室

室長：野澤 聡志

### 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

医師 1名  
 看護師 1名  
 医師事務作業補助者 30名(うち派遣 15名)

### 業務内容

- 膠原病・リウマチ内科、乳腺外科の診療支援（オーダーリング代行入力、診察記事入力代行、各種統計処理など）
- 外来診察における診療支援（書類準備、検査結果確認など）
- 麻酔科、リウマチ・膠原病内科、消化器内科の問診入力代行
- 新任医師への外来診療の事務的支援
- 術前検査等のスケジュールリングやオーダーリングの入力代行
- 検査予約と変更の代行（画像・内視鏡・生理検査、定期受診、帰国者・接触者外来患者のLAMP検査予約代行）
- RI や PET 等の院外特殊検査・治療の予約代行
- 血液浄化センターにおける定期注射・検査オーダーの入力代行
- 証明書、診断書、退院サマリの作成支援（一部入院中から作成）
- 手術症例登録（一般社団法人NCD）
- 学会関係のデータ入力（整形外科、心臓血管センター内科、脳血管センター）
- 認知症スケールの実施（長谷川式簡易知能評価スケール、ミニメンタルステート検査(MMSE))
- 脳神経外科のカンファレンス記録入力代行
- 病理診断科への専任診療支援
- 緩和ケア病棟紹介状の入力代行
- クリニカルパスの終了処理代行
- 内視鏡画像 CDR 出力
- 糖尿病教室資料作成
- 心臓血管センター内科、脳神経外科の救急

### 2022年度総括

2022年度、感染症患者やスタッフの罹患に対応しつつ、外来機能の拡大（複数診察室同時診療、午後診療開始、診療内容拡大など）に合わせた支援、書類の作成、業務拡大に努めてきた。また、外来支援・書類作成支援業務の相互交流の継続とともに、質の向上グループを中心とした専門性を高めるための勉強会の定期開催、安全グループを中心としたインシデント・アクシデントレポートの共有や分析、業務改善グループを中心とした教育体制の整備など、今後の業務拡大に対応できる医師事務作業補助者の育成にも力をいれている。

### 実績

項目	件数
医師からの新規業務依頼件数	5件
術前スケジュールリング業務	196件
検査代行予約業務	3,277件
PET・RI 検査予約業務	184件
診断書、証明書等の発行件数	8,830件
入院予約の変更等	4件
検査予約変更等	1,012件

# ドック・健診科

部長：平野 進

人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

部長 平野 進(1991年)

## 概要

2016年1月に当科が開設され、3年目の2019年7月には新外来棟にドック・健診室が移設された。事業規模の拡張にともない多職種との連携と専従事務員の教育に力を注ぎ、業務全体が円滑化された。

医師については、呼吸器外科の診療応援が開始され継続されている。2019年10月から婦人科医師の採用により新たに子宮がん検診を開始。平日の内視鏡検査に関しては非常勤医師によって円滑に運営されるようになった。

前年度に引き続き健診をはじめとする保険外診療全般を行い、各種ワクチン接種や雇い入れ就学時健康診断の他、横浜市の住民健診、事業所の定期健康診断や個人利用の人間ドックが増加している。

2018年4月より健診結果管理システムが導入され現在まで継続運用されている。

2021年10月より当科専従保健師、2022年1月より専従看護師が配置され当科での保健指導が開始された。

## 2022年度総括

当院における健診も地域への認知度の上昇に伴い、当科開設以来順調に受診者数が増加し、業務内容も年々大幅に拡充されてきた。

特に婦人科検診開設の影響は多大であり婦人科検診の設定がある日の受診者数は乳がん検診も併せて増加する傾向にあり、他の曜日に比べて受検件数が多い状態が継続している。

昨年より保健師、専従看護師が配属され、特定保健指導や再検症例への受診勧奨のための紹介状送付が9月より本格的に開始された。

9月から3月までの7ヶ月のデータでは紹介状作成件数1051件で当院外来受診率は12%から36%（総数336名）に上昇した。他院受診まで合計すると健診後受診率は47%まで上昇した。

特定保健指導は合計128名に達し、人間ドック後の保健指導も297名実施した。

また2023年2月からは受診者の電話相談を看護職が行い希望者には当院の専門外来を予約する試みが開始されている。

例年同様、消化器内科、婦人科、病理診断科、乳腺外科、呼吸器外科、放射線科などの協力で全ての横浜市がん検診を実施できている。

乳腺科の協力により今年度も日曜乳がん検診を年3回行った。

企業健診についても協会けんぽ生活習慣病予防健診を中心に今年度も増加傾向となった。

インフルエンザの出張集団接種事業も引き続き行った。今後も新たな出張先の開拓をしていく予定である。

当科における健診では異常所見を認めた場合には、速やかに当該専門科に受診依頼して午前中に専門診察を受けていただけるというのが最大の特徴である。殊に多いのは心雑音・不整脈、高血圧、鼠径ヘルニアであった。今年も引き続きこの病院で行う健診のメリットを受診される方々に提供しつづけるため丁寧な診察を継続する所存である。

## 2023年度への展望

2023年4月より小職が総合診療科より離れ健診専従となったことから、午後の健診を開始する。また6月からはさらに保健師が増員される予定となっており、保健指導の増強を軸に健診事業の拡大と質の向上を図っていく所存である。

また当院健診の懸案事項である電話予約が繋がりにくいという問題に関しては、人員や電話回線の増設などを速やかにおこなって行く方針である。

昨今の需要に応じて乳腺科や婦人科、放射線科、生理検査などとの総合的な協力によってレディース健診の開設も検討中である。



## 腎臓・高血圧内科

医師：大石 真理子

### 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

医師 大石真理子(2011年)  
医師 内田 木香(2014年)  
医師 野田 翔平(2015年)

### 2022年度総括

2022年度は常勤医が2名から3名へ増員となり、外来患者数、入院患者数、腎生検や手術を含めた手技の件数も昨年度に比べ増加傾向であった。

入院患者数は137例、血液透析導入件数21例、腹膜透析導入件数1例、内シャント造設術18例、カフ型カテーテル留置術3例、経皮的血管拡張術(シャントPTA)17例、腹膜透析カテーテル留置術1例、経皮的腎生検7例であった。血液透析導入となった21例のうち、13例が当院の維持透析へ通院することとなり、維持透析患者数の増加にも繋がった(2021年度末維持透析患者数44名、2022年度末維持透析患者数51名)。また2020年度に当科が非常勤医体制となった際、腹膜透析患者は他施設へ紹介となり、以降は当院での腹膜透析外来を行っていなかったが、2022年度は1例腹膜透析を導入し、腹膜透析外来を再開した。

2022年3月に腎臓病教室を開催し、患者とその家族4名に対し、医師、看護師、管理栄養士より慢性腎臓病(CKD)とその療養について講義をおこなった。今後も定期的な腎臓病教室開催と、さらに踏み込んだ教育や精査を目的としたCKD教育入院の実施を検討している。

今後も新規紹介患者、外来患者数を増やすことで、腎生検、バスキュラーアクセス関連手術、腹膜透析を含む透析導入といった専門領域での入院症例確保や当院維持透析患者数の確保にも繋げていきたい。また、慢性腎臓病、透析患者の周術期を含めた併診など他科との連携にも力を入れるとともに、慢性腎臓病看護外来をはじめ多職種連携も推進し、当地域の腎臓・高血圧診療の向上に寄与できる診療科を目指したい。

### 実績

項目	2020年度	2021年度	2022年度
入院患者数	7	118	137
経皮的腎生検	0	5	7
血液透析導入	1	18	21
腹膜透析導入	0	0	1
内シャント増設術	2	11	18
カフ型カテーテル留置術	0	2	3
経皮的血管拡張術	8	2	17
腹膜透析カテーテル留置術	0	0	1

項目	2020年度	2021年度	2022年度
外来受診患者数	155.4人/月	266.9人/月	343.8人/月
紹介患者数	93人/年 (7.8人/月)	184人/年 (15.0人/月)	196人/年 (16.3人/月)

---

---

# 内分泌・糖尿病内科

主任医長：升田 雄史

---

---

## 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

主任医長 升田 雄史(1998年)

## 2022年度総括

外来診療においては、外来初診患者の受け入れを2021年から再開して徐々に初診患者は増えた。

入院診療においては、糖尿病の教育入院は要望があれば積極的に行ったが、新型コロナ蔓延の影響により特定行為看護師やCDEJ等による個人指導で対応した。

外来入院ともに他科からのコンサルテーションは積極的に継続した。

糖尿病療養会議を含めてチーム内で診療の発展に関して話し合いを繰り返した。



# 消化器内科

部長：吹田 洋將

## 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

消化器内科部長 吹田 洋將(1987年)  
消化器内科医長 豊水 道史(2010年)  
消化器内科医員 佐藤 育也(2015年)  
消化器内科医員 江澤 将敬(2020年)

## 2022年度総括

### ①外来業務

消化器内科は前年までは3名体制であったが、専攻医(後期研修医)の江澤医師が入職したため、4名体制での診療を行っている。

2022年度の外来患者数は、総患者数：9,897名  
1日平均：37.2名であった。

医師数の減少に伴い、初診(予約外診察)の患者を週5日対応することは困難な状況となり、月水木の週3日のみの診療に縮小せざるを得なくなった。また内視鏡検査などのマンパワーの関係で、午後は予約患者のみの診療となっている。

初診(予約外診察)においては、待ち時間が長くなっているが、電子カルテの入力を医師事務に代行してもらうなど待ち時間の短縮化を図っている。

外来の混雑の緩和や業務の効率化のために、内服のみで病状の落ち着いている患者は地域の先生方に逆紹介させて頂き、内視鏡治療・入院加療が必要な患者を積極的に受け入れたいと考えている。今後も地域の先生方と連携を密にして外来業務を継続していきたい。

### ②検査業務

2022年度の内視鏡検査件数は、上部消化管内視鏡検査は1,641件、下部内視鏡検査は1,331件であった。

治療内視鏡では早期胃がんESD14件、上部消化管内視鏡止血術25件、内視鏡的胃瘻造設術8件、大腸ポリープ切除術276件、早期大腸がんESD6件、内視鏡的十二指腸乳頭切開術75件、内視鏡的胆管ステント留置術63件などであった。

ERCP関連の胆道系処置などを含め、今後も質の高い医療を提供していきたいと考えている。

### ③病棟業務

2022年度の延べ入院患者数は6,384人であり、1日平均17.5人、平均在院日数は10.6日であった。

今後も地域の開業医の先生からの紹介患者をいつでも受け入れることのできる体制を構築し、内視鏡による検査・処置目的の入院も含め入院患者数の増加に対応できるようにしたい。

そして、何より患者一人ひとりの病態や状況に即したきめ細やかな診療業務をより一層行っていく

# 外科・消化器外科

部長：野澤 聡志

## 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

院長補佐兼外科部長	野澤 聡志(1990年)
消化器外科部長	永井 啓之(1998年)
主任医長	齋 藤 徹(1998年)
主任医長	横山 元昭(2003年)
医師	廣田美央乃(2018年)

## 2022年度総括

胃癌・大腸癌・肝胆膵領域の癌を中心とした消化器がんに対する手術・化学療法を積極的に行った。また、胆嚢結石症などに対する腹腔鏡下手術、鼠径ヘルニアを中心としたヘルニア手術などの良性疾患治療、穿孔性腹膜炎やイレウス、急性虫垂炎・急性胆嚢炎、急性腹症の積極的受け入れと緊急手術の実施など、近隣の医療機関や当院の各内科と連携し、地域のニーズに応えられるよう努めた。手術症例は年々高齢化しており、85才以上の超高齢者に対しても安全に手術手術を行った。横浜市立大学附属市民医療センター形成外科に、手術後や二期的手術の手術間の入院管理を提供するなど、効率的な病床の利用を行った。

2022年度は昨年度に引き続き5人体制で診療をスタートし、人員的に厳しく近隣の医療機関の要望に応えられない状況もあった。人員増強を図り、2023年3月に飯田文子(1999年)の入職を得て2023年度活動の足がかりを築くことが出来た。

### ○消化器悪性腫瘍の集学的治療

胃癌、結腸直腸癌、肝癌、膵癌、胆道癌などに対し、1.手術治療、2.化学療法(外来化学療法を含む)を軸として積極的に治療を目指して治療している。低侵襲と考えられる腹腔鏡下手術(結腸直腸切除術、胃切除術)も積極的に採用している。一方、大腸癌イレウスなど準緊急手術を要する症例も内科との連携により安全に根治性を保つ治療を行うなど、

病状に応じて患者のニーズに幅広く対応している。

肝細胞癌・転移性肝癌に対する肝切除術、胆膵領域がんの膵切除術など高難易度の治療を安全に施行した。栄養管理や術前からリハビリテーションを積極的に導入するなどにより、超高齢者における大手術も安全に施行している。

### ○一般外科領域の手術

腹腔鏡下虫垂切除術や、急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術、腹腔鏡下ヘルニア手術等、鏡視下手術の比率が上昇した。

### ○「National Clinical Database」(NCD)への手術症例登録

2011年1月から運用された外科系の専門医制度と連携したデータベース事業「National Clinical Database」に継続参加している。

## 実績

### ○2022年度の主な手術実績

胃癌	14例
結腸癌	34例
直腸癌	14例
肝切除術	7例
膵手術(膵頭十二指腸切除など)	13例
胆石症	74例
虫垂炎	25例
腹膜炎(穿孔性など)	5例
腸閉塞手術	10例
ヘルニア	102例

### ○2022年度の化学療法実績

2022年度は胃癌、大腸癌、膵癌、胆道癌の各疾患に対して入院化学療法60件、外来化学療法539件を実施した。

# 呼吸器内科

部長：小西 建治

人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

部長 小西 建治(2001年)

## 2022年度総括

2022年度のスタッフは前年度に続き常勤1名で入院業務を行い、外来は非常勤スタッフに対応していただき、時間外や救急対応は他科の協力のもと可能な範囲で対応した。

水曜日のみに施行していた気管支鏡検査もスタッフ不足で中止せざるを得なくなったため、胸部異常陰影での肺がん疑いの症例は、CTなどで外来にて評価した上で、手術適応があれば呼吸器外科へ紹介しつつ、精査加療が必要な場合は他院に紹介の方針とした。

疾患としては、誤嚥性肺炎やCOPDを背景とした肺炎、肺化膿症などの他、器質化肺炎をはじめとした非特異的な間質性肺炎も多く、高齢で精密検査のリスクが高い症例などは社会背景も考慮しながらの治療を選択してきた。

また今年度は、ARDSを始めとした人工呼吸器管理を必要とするような症例も多く、入院患者数に対して重症度が高いことから、救急対応が困難な時期もあり平均患者数が減少した一因と考える。

他科に入院中の患者の呼吸器症状対応も多く、現状を保ちながら必要なときに入院対応ができるように今後も可能な範囲で続けていきたい。

## 実績

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外来	延患者数	7,727	7,248	6,060	6,748	6,487
	1日平均患者数	26.5	25.6	22.7	25.4	24.4
入院	延患者数	4,480	5,162	3,567	4,748	3,718
	1日平均患者数	12.3	14.1	9.8	13.0	10.2

# 呼吸器外科

部長：竹内 健

## 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

副院長	大内 基史(現、病院長)(1987年)
主任医長	竹内 健(1996年)
主任医長	早川 信崇(1999年)

## 2022年度総括

呼吸器外科では、手術と地域医療に貢献する医療の2本柱を行っているが、2022年度は当院のコロナウイルス肺炎治療の中心を担った。

- ①手術の特徴としては、肺癌では2019年から始めた胸腔鏡孔式手術(4~5cm切開創のみ)を中心に低侵襲の胸腔鏡の手術をおこなっている。手術の流れとして、胸腔鏡手術でスタートし、肺部分切除を行い、術中迅速診断、肺がんであった場合には、肺葉切除へ移行している。さらに抗がん剤治療に関して、積極的に免疫チェックポイント阻害剤を含めた抗がん剤治療をおこなっている。また疾患別特徴として当科は、非結核性抗酸菌症(N T M)や肺アスペルギルス症の手術を得意として近隣医療機関のみならず、遠方の医療機関からの紹介を得ている。2022年度には、コロナウイルスの再蔓延に伴い炎症性疾患や自然気胸手術症例を含んだ手術症例は減少傾向であった。
- ②地域医療に貢献する方法として、高齢者肺炎の入院治療から在宅調整など往診医や近隣開業医から紹介され入院治療を行っている。地域医療面では、高齢者肺炎ばかりではなくコロナウイルス肺炎後器質化肺炎の患者を受け入れ退院させることが出来ている。年度後半にはコロナウイルス肺炎後遺症患者症例が減少してきており、ポストコロナ体制を検討中である。
- ③コロナウイルス感染症中等症例を受け入れ、治療を行った

## 実績

- ①手術：全 63例  
胸腔鏡手術 15例(単孔式肺癌手術 5例)  
非結核性抗酸菌手術 6例  
肺アスペルギルス症 5例
- ②地域医療  
在宅医療からの入院治療 24例  
転院からの入院治療 11例  
コロナウイルス下り搬送 47例

# 整形外科

部長：天野 景治

## 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

部長	天野 景治(1993年)
部長	竹下 宗徳(2003年)
主任医長	山田 寛明(1997年)
主任医長	大田 光俊(2006年)
主任医長	木内 均(2006年)
医長	横谷 純子(2000年)
医員	村上 皓則(2015年)
医員	西岡 晃薫(2018年)
医員	高橋 直弘(2020年)
医員	森岡 勇貴(2020年)

## 2022年度総括

整形外科は従来から千葉大学整形外科の関連病院であったが、2019年度より北里大学整形外科の関連病院にもなった。

千葉大学からは専攻医森岡が5月から8月まで、高橋が12月から翌3月までそれぞれ4ヶ月ずつ派遣され、在籍した。北里大学整形外科からは専攻医2名が1年間派遣、在籍し、あわせて上記スタッフにて、外来、入院、手術といった診療にあたった。

- ・外来は月曜 午前3診午後1診、火曜午前3診、水曜午前3診午後1診、木曜午前3診、金曜午前3診+適宜専門外来。土曜日は第2、第4午前中1診にて診療。
- ・病棟は手術患者の周術期などメインは西2病棟で、緊急入院や保存治療入院は他病棟も利用している。術後おちついた症例は東4階地域包括病棟、東1階回復期リハ病棟へ転棟し、療養・リハビリテーション後退院している。
- ・手術、予定手術は、月曜日～木曜日。それに加えて金曜日も状況に応じて行った。股関節、膝関節の人工関節置換術、四肢の外傷、脊椎・骨盤の手術、そして手の外科手術を行った。

依然新型コロナ禍の影響下ではあったが、特に影響の大きかった2020年度に比べると年々回復が見られ、手の外科症例の増加の効果もあり、手術件数は2021年度を上回った。

半にはコロナウイルス肺炎後遺症患者症例が減少してきており、ポストコロナ体制を検討中である。

- ③ コロナウイルス感染症中等症例を受け入れ、治療を行った。

## 実績

### 手術

整形外科手術総数：	808件
脊 椎：	106件
上肢・手：	108件
下 肢：	170件
外 傷：	392件
その他：	32件

(うち、人工関節手術は人工関節センター項)

---

---

## 耳鼻咽喉科

部長：松井 和夫

---

---

### 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

前院長	林 泰広(1985年)
※2022年10月より聖隷袋井市民病院 病院長就任	
部長	松井和夫(1978年)
医長	勝又徳行(2012年)
医員	林 暁利(2017年)

### 2022年度総括

耳鼻咽喉科は基本的には外科系の診療科であるが、実際には頭頸部の疾患すなわち鎖骨から頭蓋底に及ぶ領域のさまざまな疾患(脳と眼の疾患を除く)を取り扱う総合診療科という性格を有している。

当科では耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患全般を対象疾患として取り扱っている。

乳幼児から高齢者までの、難聴、めまい、顔面神経麻痺、アレルギー性鼻炎、嗅覚・味覚障害、言語・音声などに関わる障害、呼吸・嚥下などにも関わる障害、種々の頭頸部腫瘍などを幅広くカバーしている。

入院治療を要する疾患としては急性の扁桃炎、扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍、急性咽喉頭炎。突発性難聴、めまい。顔面神経麻痺、手術治療で改善が望める鼻疾患 頭頸部腫瘍などである。

2022年度の常勤勤務医は松井、勝又医師・林医師・週1回の外来診察を行う林病院長の4人体制であった。

非常勤医師は横浜市立大学から畠山医師(横浜市立大学市民総合医療センター耳鼻咽喉科病院教授)、に加えて計3人が外来業務を行った。

また、昭和大学からは以前、当院で研修医だった中野医師に耳手術と外来業務を行ってもらい、嚥下音声外来は西山医師から指導を受けながら外来を行った。

手術については、当院は松井が耳科手術の暫定指導医を取得し、研修認可施設となっている。耳科手術は松井が主に施行しているが、当院で長くご勤務された呉医師(現・武蔵小杉くれ耳鼻咽喉科医院)、小林医師(現・昭和大学藤が丘病院准教授)が水曜日に手術を施行している。



## 麻酔科・ペインクリニック・緩和ケア

部長：木下 真弓

### 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

麻酔科部長 手術室長	木下 真弓(1987年)
主任医長	千葉 桃子(1990年)
医長	高橋紗緒梨(2009年)
医員	佐藤 理恵(2000年)
医員	吉田 恵(2008年)
医員	桑原沙代子(2011年)
医員	桑原 香折(2013年)

### 2022年度総括

当院の麻酔科は手術麻酔、ペインクリニック、緩和医療の3本立てで業務を行っている。日本麻酔科学会認定病院 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設である

1. 手術麻酔：手術中の全身管理と痛みのマネージメントを専門に行っている。手術の内容や患者さんの術前の状態を術前診察（術前外来）で把握し、個々の患者に適切な麻酔方法、麻酔薬を選択し、安心して手術を受けて頂くように説明を行っている。PCA(patient control analgesia)法、手術前にエコーを使った伝達麻酔（体幹ブロック、下肢ブロックの単回ブロックやカテーテル留置など）硬膜外麻酔などを細心の注意を払い、行われている。手術件数は2434件、麻酔科管理症例1896件、時間外件数は218件と昨年より増加している。大学から毎日2名の支援を頂き、運営されている。

2. ペインクリニック：「痛み」を専門に治療しており、帯状疱疹後神経痛や三叉神経痛などの

各種神経痛や整形外科疾患による痛み、がんやCRPS、原因のはっきりしない痛みなど痛み全般の治療を行っている。ペインクリニック外来は月曜～金曜日まで午前午後通じて外来を行っている。新患外来は週4日火・水・木・金、週2日火・木午前に透視下ブロックを予定している。また、緩和ケア病棟の患者にも疼痛コントロールのために腹腔神経叢ブロック、硬膜外ポート埋め込み術、脊髄神経刺激装置埋め込み術等を行っている。最近では 難治性帯状疱疹後神経痛に対して脊髄神経刺激療法をトライアルで行なっている。

3. 緩和ケア：ペインクリニック外来の場所で緩和ケア外来を月曜日から金曜日まで患者さん本人の化学療法日や当該科の診察日に合わせて来院していただき、がんの治療時期の早い遅いに関わらず、症状緩和を行っている。がんおよび非がん（呼吸不全、腎不全、心不全等）が対象である。入棟外来は毎日月曜日から金曜日の午後に行い、急性期病棟患者の症状緩和やスピニチュアルペインなどの治療も行っている。痛みや呼吸困難などの症状緩和を積極的に行っており、他院からの受け入れも行っている。2020年8月より開棟した緩和ケア病棟の運営も麻酔科で行っている。3人の医師で在宅支援、退院支援、在宅療養調整、外来でのサポートなどにより患者の望む療養支援の役割を担っている。現在も新型コロナ感染に対して、感染防御をしっかり行うことで面会は途切れることなく、時間制限も最小限にし、最期の時を家族と一緒に過ごせるように運営している。最近では入院ギリギリまで化学療法を行う方も多く、滞在日数は短くなっている。また、疼痛や呼吸困難のコントロールのための入院も行っており、1週間から2週間単位で再び在宅療養の戻っていただいている。

実績

年度別診療科別年間外来患者数

	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
手術件数	2,434	2,130	1,640	2,009	1,876
麻酔科管理症例	1,896	1,270	1,103	1,220	1,090

麻酔科入院患者数（2022年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	1月	2月	3月	4月	合計	平均
入院	21	22	26	30	31	24	24	21	30	22	22	30	303	25.3

外来神経ブロック	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
星状神経節ブロック	129	155	352	417
胸部硬膜外ブロック	1	17	9	1
眼窩上神経ブロック	17	22	12	30
眼窩下神経ブロック	20	22	4	4
おとがい神経ブロック	4	9	2	3
大腿神経ブロック	0	0	1	3
肩甲上神経ブロック	8	20	6	3
肋間神経ブロック	126	123	130	146
仙骨部硬膜外ブロック	50	104	127	163
腕神経叢ブロック	80	82	67	78
腰部硬膜外ブロック	210	246	328	283
肩甲背神経ブロック	2	2	3	14
浅頸神経叢ブロック	41	51	38	32
椎間関節ブロック	163	104	82	169
トリガーポイント注射	6	20	24	23
トリガーポイント注射	262	267	276	452
硬膜外ブロック持続注入	5	98	6	16
腓骨神経ブロック	1	0	1	2
後頭神経ブロック	2	4	1	0
仙腸関節枝神経ブロック	7	0	2	0
坐骨神経ブロック	0	0	0	1
三叉神経ブロック高周波熱凝固神経破壊薬	7	10	0	0
合計	1,145	1,360	1,471	1,846

部位	透視下ブロック	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	
頸部	硬膜外洗浄（頸部）	0	0	3	0	
	神経根パルス（頸部）	8	10	4	14	
	C2ガングリオンブロック	0	0	0	1	
	神経根ブロック（頸部）	5	7	11	5	
胸部	神経根パルス（胸部）	6	7	16	14	
	神経根ブロック（胸部）	19	13	19	20	
	持続硬膜外カテーテル挿入	0	1	0	0	
腰部	腰交サーモ	0	0	1	0	
	神経根パルス（腰部）	42	43	49	44	
	神経根ブロック（腰部）	17	21	18	25	
	椎間関節サーモ（腰部）	0	0	1	0	
	椎間関節ブロック（腰）	9	5	6	7	
	硬膜外洗浄（腰部）	0	0	0	1	
	脊髄刺激装置埋め込み術	0	1	0	1	
	脊髄刺激装置トライアル	1	1	1	0	
	仙腸関節ブロック	2	3	0	0	
	硬膜外カテーテル埋め込み術	0	3	0	0	
	腰部持続硬膜外カテーテル	0	4	0	0	
	合計		110	119	128	132

# 小児科

部長：北村 勝彦

## 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

主任医長 北村 勝彦(1982年)

## 2022年度総括

新型コロナウイルス感染症の猛威により2022年も小児科医療には大きな負の変化をもたらした。ワクチン接種の拡大が行われ、従来の武漢株からオミクロン株に流行が変化したこと、さらに小児へのワクチン接種率が低く抑えられていたことから、感染流行の刃が小児へ拡大した年でもあった。こうしたことから発熱外来を訪れる小児患者が増え、小児科外来は主に発熱外来へとその主軸が移行した年度であった。こうした中でも小児慢性疾患とくにアレルギー性疾患の需要は大きく、月2回開設されている小児アレルギー外来受診者は平均10人/回前後とほぼ予約がいっぱいとなっている。このアレルギー外来は需要の大きさがあるものの、平均単価が低く抑えられているため病院収益への大きな貢献に寄与しえない歯がゆさがあり、国家的小児医療への無理解がうかがわれる。また、新型コロナウイルス感染症は小児の心身症の増加をもたらしていることから当科においても、不定愁訴を訴える初診患者が増えた年度でもあった。小児科領域の心身症専門医が圧倒

的に不足している現状では当院のような小回りのきく検査態勢を有した小児科は大変貴重な存在となるため、保土ヶ谷地域以外の市内各地からも心身症、発達障害疑いの患児が訪れている。当科では特に夜尿症への啓蒙を従来から行っており、口コミ評価から一定数の初診患者が訪れる。

小児科の数字上の経営上の寄与が低いことは全国的な傾向であるが、そうした点を補う意味で当科は新型コロナワクチン接種に参加して今年度末までに15000人を超える地域住民や職員、その家族に対して接種を行ってきた。この点は実績には可視化されていないものの、当科による地域医療への貢献と自負している。

当科は常勤医師1名であることから入院対応が原則不可能であり、横浜市立大学附属市民総合医療センター、横浜市立市民病院、横浜みなと赤十字病院などのご協力を得て入院対応を行っている。新型コロナウイルス感染症の流行で小児疾患もその疾病構造は変化するものと考えられ、後遺症への対応や心身症への対応などが当科のような体制の小児科では求められるものとする。今後こうした点に注目して外来体制を立て直していくつもりである。

## 実績

### 年度別診療科別年間外来患者数

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022
小児科		5,093	4,387	2,333	2,347	2,811

### 年度別診療科別年間外来患者数

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022
小児科		17.5	15.6	8.7	8.8	10.6

### 小児アレルギー科

年度	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021	延べ数	-	-	-	-	-	-	4	5	4	5	7	6
2022		15	4	4	7	10	3	13	8	11	9	16	10

# 眼科

主任医長：榮木 尚子

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

主任医長	榮木 尚子 (1997年)
医長	原田 里美 (2012年)
医員	露木 文 (2012年)

## 概要

当院眼科では地域に根ざした幅広い診療を行っている。大学病院とも連携し必要に応じて専門医に紹介を行っている。

### ・一般外来

当院眼科では白内障手術を中心とした診療を行うとともに、結膜炎などの前眼部疾患、緑内障、糖尿病網膜症など幅広い診療を行っている。

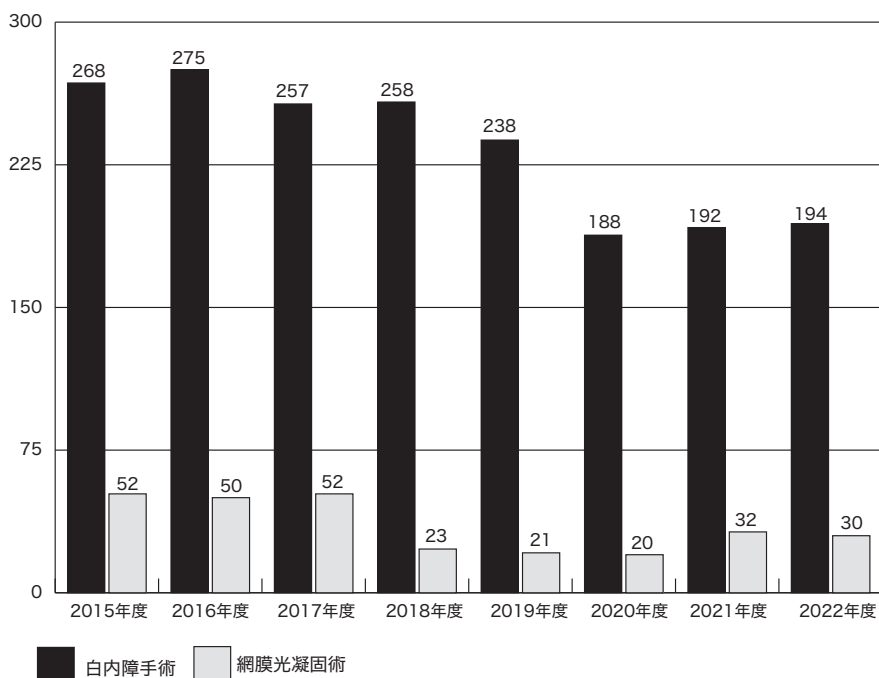
### ・白内障手術について

毎週火曜日に白内障手術を行っている。入院は片眼で1泊2日を基本に行っているが、患者希望に応じて2泊3日の入院対応が可能である。全身状態がよい方は、日帰り白内障手術もできるようになった。手術は約1～2月程度で予定できる状況となっている。

## 2022年度総括

超音波白内障手術装置（センチリオン）が新しくなった事により、さらに安全・正確に手術を行うことが可能となった。

## 実績



# 放射線診断科

部長：新美 浩

## 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

副院長兼部長 新美 浩(1985年)  
主任医長 石川 牧子(1990年)  
主任医長 宮川 天志(2011年)

## 概要

- 当科は画像診断専門医による画像診断や臨床各科とのコンサルティングを主とする診療科で、特に地域医療機関との連携やモダリティの相互利用に最も注力していることを特色とする
- 日本医学放射線学会・放射線科専門医修練機関(画像診断・IVR 部門)
- 画像診断管理加算2、及び冠動脈CT、心臓MRI 施設基準、乳房MRI 施設基準
- 聖マリアンナ医科大学放射線医学講座 教育関連病院

## 2022年度総括

1. 常勤医9名で、月間合計約2100～2200件のCT・MRI検査の約90%の迅速読影とコンサルティングに対応し、画像診断管理加算2の体制を維持した。

2022年度も非常勤医の派遣体制は引き続き、聖マリアンナ医科大学病院及び同横浜市西部病院放射線科からと医局出身者が主体である。

2. 地域医療機関から依頼された全てのCT・MRI検査の読影診断を行い、地域の画像診断基幹施設の一つとして貢献している。

画像診断紹介数は、昨年はやや減少、今年度は横ばいで、新型コロナウイルス感染症の遷延化による患者減少の影響を受けている。2022年度、月間紹介件数はCTとMRIの合計約170～180件で、漸減状態が持続している。

3. 2017年にオンラインでの画像検査予約と画像レポート閲覧のシステム導入を行い、利用医療機関も順調に増加している。今後はさらに幅広い地域医療機関とのオンライン連携を強化する必要がある。

4. 2019年7月に新外来棟がオープンし、超高精細CTの導入(Precision)と3テスラMRIの増設を行い、外来診療は256スライスCTと160列の超高分解能CT、及び2019年時最新型の3TMRIによる三台体制で診療を行っている。また、2022年度末には、入院診療専用に使ってきた64列CTが、AI再構成機能を有する新型64列CTに更新することができた(神奈川県新型コロナウイルス感染症対策の補助金事業)。

5. 超高精細CTは160列のマルチスライスCTであるが、解像度、空間分解能が従来CTに比して飛躍的に向上し、特に肺・縦隔や腹部骨盤領域を中心に種々の臓器で極めて高精細な画像が得られるほか、一部の領域でAIを利用した再構成が導入され、特に低被ばく撮影時における高画質の画像再構成に力を発揮している。

6. 2022年度は、当科では引き続き新型コロナウイルス肺炎の影響が大きく、放射線診断科の紹介患者数は、度重なる新型コロナ感染増加に起因する紹介元の地域医療機関の外来患者減少に連動し、昨年比横ばい状態であった。

7. 当院では2022年度下半期から、新たに神奈川県重点医療機関の一角として、数床規模の新型コロナウイルス感染症専用病棟を設置した。しかし、年間を通じて第7波、第8波の感染流行により外来患者は減少し、外来検査件数は減少傾向にあった。MRI検査は、脳神経外科の人員減少や救急診療体制の縮小により減少した。

8. 最近5年間、特に3年間の画像診断実績推移(表)をみると、CT検査MRI検査ともに検査総数は漸減または横ばい状態を認めている。

当院ではコロナ禍の中でも一切一般診療の縮小は行わず、厳密な感染対策の元に急性期診療は最大限の診療サービス提供を維持してきたことが大きいと考える。しかし、紹介患者数は紹介元である地域医療機関の患者数回復遅延などの影響が大きく、減少横ばい傾向を示した。

今後は、コロナ後を見据えて、地域医療機関との連携を強化するために様々な施策を考え、迅速に実行していく必要があると考える。



実績

		2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	対前年度比 (%)
		月平均	月平均	月平均	月平均	月平均	2022 / 2021
一般撮影	件数	4,409	4,280	3,505	3,999	4,002	△ 0.1
造影	件数	123	115	127	144	140	▼ 2.8
CT	件数	1,615	1,541	1,742	1,831	1,617	▼ 11.7
	紹介件数	167	165	172	159	159	△ 0.0
	心臓 CT	96	88	92	77	73	▼ 5.2
	造影率	24.3%	22.3%	18.0%	16.6%	20.8%	△ 25.3
	紹介率	10.3%	10.7%	9.9%	8.7%	9.8%	△ 12.6
MRI	件数	515	568	531	549	530	▼ 3.5
	紹介件数	18	18	17	15	14	▼ 6.7
	心臓 MRI	4	3	4	4	5	△ 25.0
	造影率	6.00%	5.20%	5.10%	5.00%	5.2%	△ 4.0
	紹介率	3.50%	3.20%	3.20%	2.80%	2.7%	▼ 3.6



# 救急科

部長：山口 裕之

人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

部長 山口 裕之(1993年)

## 2022年度総括

2022年度はSARS-CoV2感染症に対する対処法がある程度確立され、救急車受け入れ数は年間4072台となった。救急科単独での平均患者数は9.1人/day 平均在院日数は15.1日であった。

入院症例に関して、高齢者の方の搬送が増加している。社会背景が複雑な症例もあり、救急搬送と共にMSWの方々の協力を得て、地域の福祉関係の方とのコミュニケーションを依頼する症例もしばしば経験している。そして入院の契機となった救急疾患が治癒してもご帰宅できない症例が散見される状況が続いている。このような退院困難な症例は院内の地域包括ケア病棟に転棟するとともに他科医師が治療に当たる体制が構築されたが十分に機能できず、救急科としての慢性期医療に対する仕事量は必ずしも軽減しなかった。

研修医教育に関しては患者のバイタルを安定化しながら、身体学的所見をしっかりと取ることを重視しつつ、当院の診断機器を駆使して診断する方法を教授している。また2020年に続いて他院からの研修医の受け入れも行うことができ、研修医同士での連携も生まれつつある。

当院は診断機器に恵まれているため画像診断に頼る傾向が生じてしまうが、今後の医師としての成長のため診断機器がない医療施設でも対応できるよう病態把握や理学所見をしっかりと取りながら患者の重症度、緊急性を判断するよう努めている。研修医には画像は理学所見などの答え合わせのつもりで検査を行うように指導を行った。時に研修医からの指摘で診断に至ることもあり、日々お互いに研鑽した。また、off the job trainingとして日本救急医学会認定ICLSコースを3回開催した。新型コロナ蔓延前

には近隣医療機関、横浜市消防局とも連携し開催できていたが2022年度に関しては他機関からの参加を集うことはできなかった。

当院に救急搬送された重症症例に関しては当院で提供できる医療は当院で行い、対応困難な疾患に関しては当院で診断を行ったうえでより高次の施設に依頼する形をとっている。特に2022年度は高次医療機関の医療体制が逼迫したが高次医療機関での入院症例の重急性期治療を積極的に受け入れることで診療を乗り切った状況であった。

(横浜市立大学市民総合医療センター 11件  
聖マリアンナ医科大学病院 5件  
横浜市立市民病院 2件)

## 2023年への展望

(2023年4月より赴任 主任医長 入江 康仁(2008年))

2次病院としての救急科の在り方として、単に救急疾患を見るだけではなく、総合診療的な要素を取り入れ、救急総合診療としての体制を整えていく。

5月から新型コロナウイルスも5類以降となり、本格的に一般救急車の受け入れが拡大してくると思われる。輪番病院であるため、夜間も日勤帯と同様の受け入れ体制を維持することはできないが、聖マリアンナ医科大学 救急医学講座からの重厚なサポート体制の下、日勤帯の受け入れ率の増加と、昨年まで16時以降の受け入れ低下が見られたが、それも改善するよう努力する。

また、いわゆるレスパイト入院となる患者受け入れも積極的に行っており、地域包括ケア病棟への直接入院率を増加させるようにする。

キズ・やけど外来も再開させ、外傷後のfollowも当科で行っていくことで、夜間外科当直医の負担軽減にも貢献する。

当科の入院期間は入院後の診療・精査を順次行っていくことで、転科後の各専門化科や慢性期医療を担う科に負担軽減を図りつつ、短縮を心がけていく。また、学術的な業績も対外・対内向けに発信していけるよう、学術集会への参加、発表、論文執筆などを積極的に行っていく。研修医教育に関しても、働き方改革で制限を受けることになるが、できるだけかわりを持ち、また彼らにも医師としての基本的な医療者としての気質、態度を身につけてもらえるように心がけていく。

# 病理診断科

委員長名：末松 直美

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内：医籍)

病理専門医研修指導医	末松 直美 (1978年)
臨床検査技師	日比野 智博 (2010年卒/細胞検査士2013年取得)
	小川 健一 (2019年卒)
	牧田 佳奈 (2019年卒)
	上野 貴博 (2020年卒)
医師事務作業補助者	柴崎 修一
医師事務作業補助者	宇治野 綾香

## 概要

病理医二人体制でこれからと考えていた矢先、また一人病理医になり、仕事に追われた1年であった。臨床検査技師も四人のフルメンバーだったが、最後の四半期は、また三人に減るなど、人の動きが目まぐるしい1年でもあった。新人を加えての中、事故もなく終えることが出来たことに、メンバー一人ひとりに感謝したい気持ちである。

## 2022年度総括

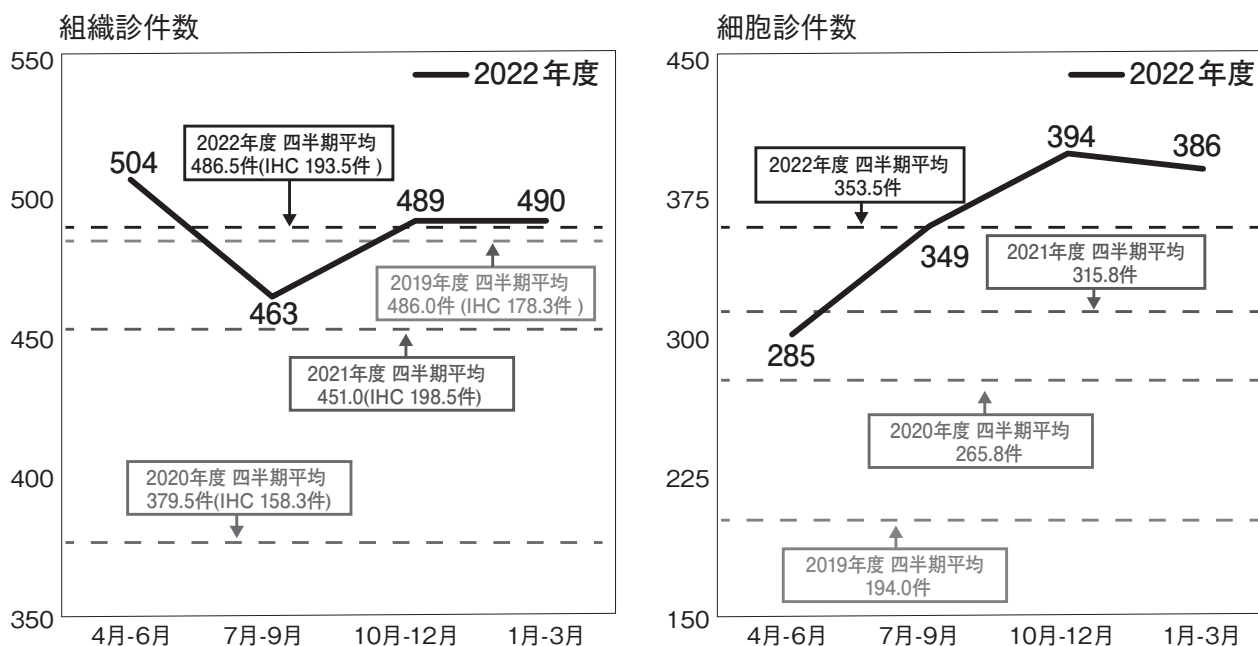
- ・小菅 則豪 病理医は、一身上の都合により2022年度をもって退職された。
- ・2021年に欠員補充のため採用された臨床検査技師 上野 貴博は、2022年3月より正職員となった。ルーチンの業務を担えるところまで成長し、土曜の業務も一人で対処している。
- ・臨床検査技師 牧田 佳奈の細胞検査士資格取得は、来期に期待する。
- ・臨床検査技師 日比野 智博は病理学会と日臨技が協同して認定する認定病理検査技師の資格取得に向けて準備中である。
- ・臨床検査技師 小川 健一は、結婚を機に、2022年12月31日をもって退職し、新小山市民病院へ異動した。
- ・「図1」に、2022年度の組織診件数、細胞診件数の四半期ごとの推移を折れ線グラフで示した。また比較のため、過去3年の年度別四半期平均値を入れた。
- ・組織診の2022年度件数は、四半期平均が486.5件で、コロナ禍前にほぼ戻ったようである。今後、四半期

平均が500件を超えることを期待する。

- ・組織診断に必須の免疫組織化学 (IHC) の件数は、2021年度とほぼ同数であり、ルーチンで実施される IHC の項目がほぼ定着してきたものと思われる。DISH など、プローブによる遺伝子検査が増えつつあり、これらは今後増加するものと考えているが、さらなる増加にも院内実施により対応できる体制にある。
- ・細胞診は、婦人科健診の検体が順調に伸びたこともあって、四半期平均 353.5 件で、昨年をさらに大きく上回った (2021 年度：315.8 件)。婦人科件数が、全細胞診件数に占める割合は 50.4%(712 件 / 1414 件) で半数を超えた。
- ・2019年3月から院内化された、遺伝子変異自動解析装置 i-densy による遺伝子検査は、2022年度も引き続き実施されている。2022年度に院内で実施された検査件数は EGFR : 0(20) 件、RAS/BRAF : 41(36) 件、IDH1/2 : 2(0) 件、UGT1A1 : 4(6) 件で、計 47(62) 件である (カッコ内は昨年度値)。次世代シーケンサーによる遺伝子検査の集中化により、EGFR が 0 件となったこともあり検査件数は明らかに減少した。機器の刷新なども含め今後の対応について、アークレイ社に検討依頼している。
- ・今年度の剖検数は 5 例であった (表 1)。剖検は、医療を検証する唯一の手段であり、医療の現場にあってこそ、死亡例という負の結果から学ぶ姿勢を絶やすべきではない。少しでも、その機会が増えることを切に願う。
- ・CPC の開催も今年度は 4 回であった (表 2)。CPC の司会は、中立の立場にある人物に託すべきとの考えから、院長がその任を負っていたが、林前院長が退任されてからは、決まらない状態であった。大内現院長から、小児科部長 北村 勝彦先生が適任であるとの発案があり、北村先生にもご快諾いただいたので、2023年1月24日に開催された第129回CPCからお願いしている。
- ・臨床とのカンファレンスの開催状況を「表3」に記した。
- ・外科術前朝カンファレンスと乳腺科朝カンファレンスは、画像所見や病理所見を交えながら discussion できる場で、臨床医にとってだけでなく、病理医にもなくてはならないカンファレンスとなっている。研修医にとっても、通り一遍の知識ではなく、多角的な意見を聴くことができ、出席して勉強になる会であると思う。
- ・消化器内科とのカンファレンスは、2022年8月から、月2回朝の開催となった。病理医にとって、内視鏡所見を見ることは、組織との対比の上で、より興味をそそられ勉強になる。

実績

2022年度 四半期ごとの検体数の推移および過去3年の検体数四半期平均



2022年度 剖検症例一覧

剖検番号	死亡月日	剖検月日	執刀医	出所	担当医	患者年齢	患者性別	臨床診断
0088	06/09	06/09	末松	消内	豊水	62	M	びまん浸潤型の細胞癌の疑い 非代償性肝硬変
0089	07/24	07/25	末松	呼内	小西	62	M	細菌性肺炎 侵襲性アスペルギルス症疑い
0090	08/11	08/12	末松	心血	長谷川	56	F	虚血性心不全 冠動脈三枝病変 2型糖尿病
0091	09/12	09/13	末松	膠リ	児島	79	M	敗血症(尿路感染症) 関節リウマチ 原発性胆汁性肝硬変 多臓器不全
0092	01/18	01/19	末松	救急	山口	69	F	消化管出血 高度貧血 急性腎不全 精神発達遅滞 腎不全

2022年度 C.P.C. 開催の一覧

開催回数	開催月日	剖検番号	患者年齢	患者性別	臨床診断	病理診断
127	9/27	0086	90	男	肝硬変 腹水貯留 低栄養 貧血	菌血症 膿瘍形成を伴う新旧の誤嚥性肺炎 食道咽頭部の憩室 NRHを伴うアルコール性肝硬変症とその随伴所見
128	11/22	0087	65	女	窒息と考えられるCPA後 呼吸不全 原因不明の発熱 肥満	前立腺癌 両心室の拡張を伴う肥大心 急性うっ血 + 肺出血 慢性うっ血による肝中心域の線維化と中心域の出血
129	1/24	0088	61	男	びまん浸潤型の細胞癌の疑い 非代償性肝硬変	C型肝硬変症 + 肝細胞癌
130	3/28	0089	62	女	細菌性肺炎 侵襲性肺アスペルギルス症疑い	Aspergillus niger 肺感染と pulmonary oxalosis Ca oxalate による急性尿細管障害 Oxalosis に伴う諸臓器の多発梗塞と左鎖骨下静脈内の fibrin 血栓

2022年度 臨床科とのカンファレンス開催状況

剖検番号	開催回数/年	定例開催頻度
外科 術前朝カンファレンス	50	週1回 木曜日 8時～
外科 術後検討会	4	不定期
消化器内科 内視鏡カンファレンス	18	月2回 第2,4水曜日 8時～ (2022年8月から 月1回を月2回とした)
乳腺科 朝カンファレンス	51	週1回 火曜日 8時～



# 総合診療科

部長：平野 進

人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

部長 平野 進(1991年)

## 概要

2016年1月1日に当科が開設され、同年4月から地域包括ケア病棟における訪問診療医からの在宅サポート入院(レスパイト入院)および高次医療機関や周辺急性期病院からの継続リハビリや退院調整を主とした転院依頼を基本的に当科が担当する方針として入院受け入れを開始した。例年同様年間を通じて概ね5~10名程度の入院患者で推移したが、時に15名程度までの入院患者数となった時期も認められた。

2016年5月から隣接する有料老人ホーム横浜エデンの園の入所者訪問診療を週2回行い継続している。

外来診療は当科の性質上再診がないため、小職の前医からの担当患者の予約外来のみ継続した。

## 2022年度総括

2021年度転院受け入れ21件、サポート入院(レスパイト入院)71件であったが、2022年度は転院10件、サポート入院件数は59件と前年より減少した。減少の要因としては2022年10月の院長交代に伴い病態が安定しきっていない症例の転院・レスパイト入院を相当数外科に受け入れて頂いたことが要因であった。

昨年より救急科の急性期加療が終了し退院調整が主となった患者を地域包括ケア病棟に転出するタイミングで当科が受け入れることにより救急診療の効率化を図る試みが開始され今年度も引き続き行った。

訪問診療医からの新規の定期的レスパイト入院患者は例年同様の件数で引き続き地域連携を強化して症例数の増加を図った。

患者や血液内科疾患などを有し当院での受け入れが困難なケースや、急性期から脱していない症例の申し込みも例年同様にあり全例受諾はできなかったが、前述のとおり外科の協力を得て年間を通じて安定した受け入れが例年同様にできた。

入院診療における急性期症状に関する対応は例年同様院内ほぼ全ての科のご協力をいただき行った。当科の入院患者は基本的にかかりつけ医に戻り当科の再診がないことから、外来受診者数の増加は見込めないが、入院症例に関してはこの数年で緩やかな増加傾向を維持している。

関東に点在するエデンの園をはじめとする聖隷事業団の関連施設との連携強化・発展が総合診療科設立の際の目標であったため、隣接する横浜エデンの園入所者の定期診療や当院専門外来への適時紹介、日中の往診対応などを継続して行った。居室への訪問診療は非常に好評で継続している。また2017年4月より関連施設の横須賀愛光園への産業医業務出張を開始し継続している。

## 2023年度への展望

2023年4月から小職が総合診療科部長を外れ、当該業務のすべてを救急科部長山口先生に委譲することになり、今後もこれまでと同様に地域医療機関からのレスパイト入院受け入れに受諾100%を継続し、内科医である山口先生が対応することから転院依頼症例に関してもこれまで以上に受け入れの幅が広がるものと考えます。

入院管理患者数に関しては引き続き地域連携強化を強めてさらなる受け入れ症例数増加を目指す方針を継続する。

# アレルギー内科

科長：渡邊直人

## 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

医長 渡邊 直人(1988年)

## 2022年度総括

2021年4月より、アレルギー科(アレルギー内科)を新設し、1年が経ち、2022年度は外来患者数の増加および外来診療の充実を目指して取り組んできました。他施設ではなかなか行えない、診断や治療を取り入れており、看護師や医師事務の方々への検査(特殊血液検査、皮膚試験、負荷試験など)や治療(特異的・非特異的免疫療法、生物学的製剤自己注射など)の指導・教育を行いながら、特に診療点数が加算されたアレルギー免疫療法に力を注ぎました。また、禁煙外来や睡眠時無呼吸症候群の診断検査やC-PAP治療にも前向きに取り組んできました。

各科との診療連携および各都道府県との連携を試み、依頼やご紹介などで協力し合いながら、総合診療内科にも協力しております。特に、小児科、皮膚科、耳鼻科との連携を強化し、小児アレルギー外来からの相談や協力にも努めております。

近隣の医師会との協力連携にも普及活動を行ない、地域連携を含めた講演会の座長や演者も担ってきました。

アレルギー内科に関連する種々スタッフの協力もあり、外来患者数としては増加傾向をたどり、2021年度の1年間総外来受診者数2032名から2022年度は2862名まで増え、1日平均患者数では7.6から10.8人に増加しました。具体的な診療内容は、気管支喘息をはじめ、食物アレルギー、薬剤過敏症の診断・治療やアレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、慢性蕁麻疹に対する免疫療法や

生物学的製剤治療を行っています。また、コロナワクチンを初め、各種ワクチン接種後の副反応の対応や、副反応を心配されてのワクチン接種相談にいられた患者様も少なくありませんでした。そのように不安を抱えた一般市民の患者様を含め、当科に通院加療中の患者様(食物アレルギー、薬剤過敏症、アスピリン喘息など)には、アレルギー性の副反応を発症させないように、個人個人にあった対応方法を指導しました。

インフルエンザワクチンにおいては、フルービックというチメロサル(殺菌作用のある水銀を含む防腐剤)を含まないものも利用しています。

入院においては、月平均0.8人で、主には各種経口負荷試験やアレルギー(スギ・ダニ)の急速皮下免疫療法を目的に入院され、診断(治療効果判定)や治療を行っております。また睡眠時無呼吸症候群の診断確定のための精密PSG検査入院も少なからずおられました。

一方、今年度も1人ではありますが、研修医が当科での研修を希望され、1ヶ月間の研修・教育指導を行いました。当科は2021年度に、日本アレルギー学会認定の専門医教育研修施設に認定されております。

その他、タカノ株式会社における「同時多項目アレルギー検査用体外診断用医薬品の開発」治験に100症例以上の協力をし、ツムラ株式会社依頼の「補中益気湯市販後調査」も規定の15症例を登録しました。また消費者庁主導の「即時型食物アレルギーによる健康被害に関する全国実態調査」や日本温泉気候物理医学学会研究プロジェクト「COVID-19下の医療従事者の行動制限と主観的健康感の変化の実態把握に関する研究」にも協力しました。

最後に、アレルギー・喘息関連学会や研究会、講演会において、座長や当院所属での演題発表を数多く活動し、当院におけるアレルギー科の存在を、全国的にアピールしてきております。

## 実績

### アレルギー内科平均患者数)

年度	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021	外来	2.7	5.3	6.2	7.5	9.0	9.9	6.8	7.5	9.0	6.7	9.2	11.8	7.6
2022		14.6	15.1	15.2	18.4	20.8	19.2	9.6	10.6	13.8	9.5	12.5	11.7	10.8
2021	入院	0.2	0.4	0.2	1.1	0.6	0.8	0.9	0.2	0.6	0.4	1.5	0.7	0.6
2022		0.3	1.3	0.4	0.5	1.2	1.4	0.9	0.4	0.0	0.6	0.8	1.3	0.8

### アレルギー内科患者数

年度	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
2021	延べ数	62	106	149	165	207	217	157	165	197	141	184	282	2,032
2022		163	222	255	223	250	271	212	233	303	200	249	281	2,862

# 泌尿器科

部長：波多野 孝史

人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

部長 波多野 孝史(1987年)

## 業務内容

常勤医師1名、非常勤医師4名が診療に従事している。

外来診療：毎日終日診療を行っている。

手術：水曜日午前、金曜日午後

オンライン診療：毎週木曜日

検査：尿路内視鏡検査、造影検査、  
エコー検査、ウロダイナミック検査を毎日  
行っている。

## 2022年度総括

### ①オンライン診療の導入

当科では2021年1月からオンライン診療を導入した(写真)。オンライン診療は、通常対面で行われている問診、診察、処方、予約をインターネット上で行う診療形態である。

オンライン診療は通院に要する時間的負担や経済的負担がなく、自宅で診療を受けることができる。また公共交通機関を利用し、待合室で待つ必要がないため、新型コロナウイルス感染予防にもなり、現在の患者ニーズに即した診療形態である。当科は聖隷福祉事業団が推奨する「聖隷DX計画」の一環として、オンライン診療を拡充する予定である。これにより外来患者数の増加および当院のファンを増やすことに貢献するであろう。



### ②結節性硬化症専門外来の実践

当科では2020年12月より結節性硬化症に対する専門外来を毎週月曜日午後に行っている。結節性硬化症は常染色体優性遺伝の希少疾患であるが、専門的診療を実践している医療機関がほとんどないため、患者さまはほぼ全国から当科に受診されている。結節性硬化症は全身の臓器に病変が出現するとともにてんかんや精神発達遅滞を伴うことが多く、当院の各科と連携して診療を行っている。加えて精神発達遅滞により、適切にマスクを装着できない患者に対しては、看護課や検査課と連携して対応している。

ハンディキャップを有する患者さまに対する当院スタッフの献身的な配慮に感謝する。

### ③その他

当科常勤医は1名であるが、悪性腫瘍に対する治療を重点的に行い、手術、化学療法、免疫療法等の集学的治療も行っている。

また、泌尿器領域における遺伝性疾患として常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)、フォン・ヒッペル・リンドウ(VHL)病、リンチ症候群、遺伝性前立腺癌の診断、治療および遺伝カウンセリングを積極的に行っている。

## 実績

平均外来患者数：27人

平均入院患者数：5人

主な手術件数

手術名	2021年	2022年
経尿道的膀胱腫瘍切除術	29	28
経尿道的止血術	3	2
経皮的腎瘻造設術	4	4
経皮的膀胱瘻造設術	2	1
尿管ステント留置術	19	30
尿管拡張術	0	2
膀胱結石破碎術	0	2
精巣水腫根治術	0	1
尿道狭窄切開拡張術	4	3
環状切除術	3	2
経直腸前立腺針生検	44	47



# 看護部

総看護部長：兼子 友里

## 2022年度看護部運営方針目標

1. ケアミックス病院の機能を活かし、  
患者の病期に応じた基本的看護を充実させる
2. 患者を護るシステム・組織作り
3. ケアを充足するための業務改善と  
多様な働き方の維持
4. 感染対策を交えた院内防災訓練の実施

新型コロナウイルス感染者が増加する中、外来・入院医療の提供や在宅看護提供を停止することなく第7波、第8波を乗り越えた。一時は6つの病棟が新規入院や転入棟不可の事態となり病床運営が危機状態となったが、限られた病床を活用し職員ひとり一人の行動努力によって入院・外来診療を継続することができた。管理者は、利用者の声とベッドサイドスタッフ等の医療現場の声を俎上に載せること、また、感染拡大期と減少時で感染対策の検討をしては体制整備の工程を繰り返した。何事も皆で話し合い結論を得て周知し実行することが組織を強固させると、第7・8波を体験してあらためて周知の重要性を実感した。この危機を乗り越えた全職員の奮闘に敬意と感謝の意を表す。

2023年3月、聖隷横浜病院は20周年を迎えた。これまで培ってきた病院理念、看護部理念のもと、歴代の看護部長が大切にしてきた理念の継承と更なる発展を遂げていきたい。

### 看護部運営方針評価

1. 患者の病期に応じて急性期ケアユニット、地域包括ケア病棟、回復期病棟等の病床を活用し、患者・家族が必要なケアを受けることができる体制が確立した。各病棟で意思決定支援、口腔ケアの推進、身体行動制限ゼロを目指した活動は当院看護部の当たり前のケアとなった
2. 心臓リハビリに続き、2023年度から透析中の運動指導、排泄管理支援が活動できるチーム医療

体制が整備された

3. 看護業務が増加する中で、看護補助者の確保は必須であるが難しくなっている。雇用を増やすのみでなく業務の工夫、AIの活用など仕事を整理していく
4. 防災訓練に留まらず、2023年度は災害に備えた早期復旧への取り組みが必要である

## 2023年度看護部運営方針目標

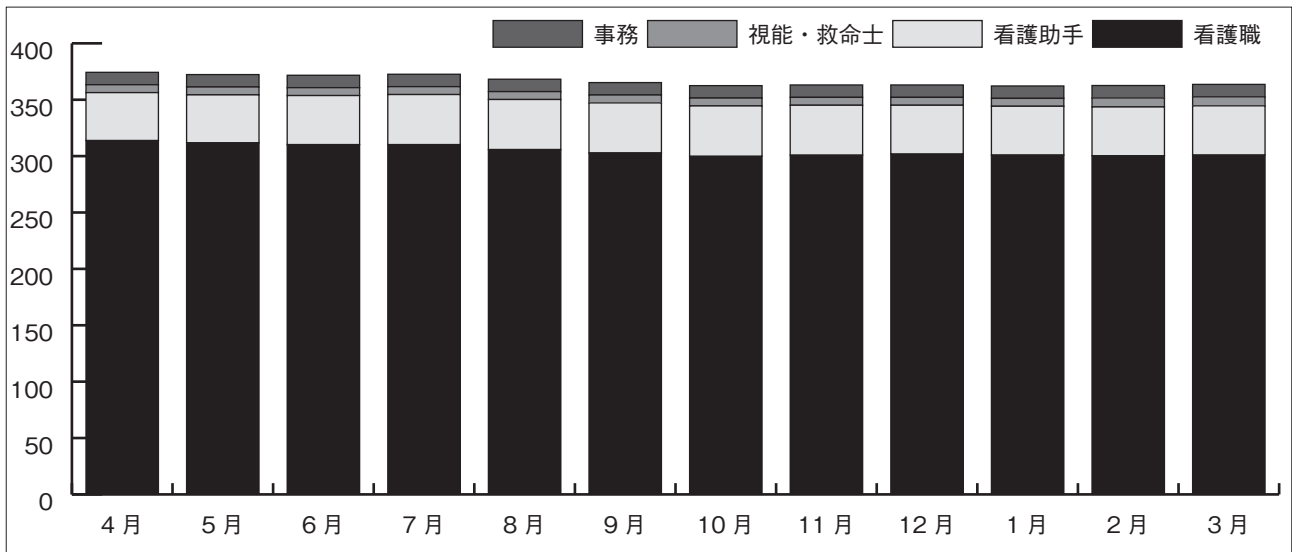
聖隷ファンを増やそう！

(利用者、スタッフ、関連業者、地域住民など当院を利用するすべての方々)

1. ひとり一人の看護の質をあげ、シームレスな入退院を可能にする体制づくり
2. 安全な医療の提供
3. 地域包括ケアシステムを好循環させるために多職種連携を極める
4. 多様な働き方・業務担当人材の受け入れ体制整備
5. 聖隷DXの推進・活用

2022年度看護部運営方針目標

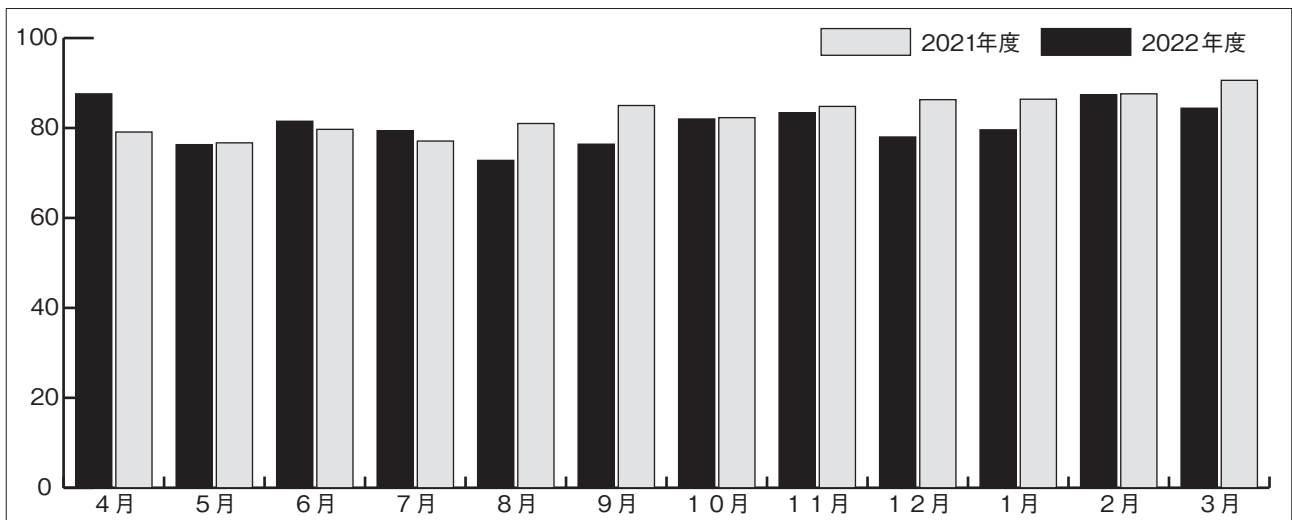
2022年度 看護職員数（人）



	看護師	看護助手	救急救命士	視能訓練士	クランク事務
2022年4月	349	45	4	3	12
2023年3月	329	47	5	3	12

（産休育休取得者、非常勤職員含む）

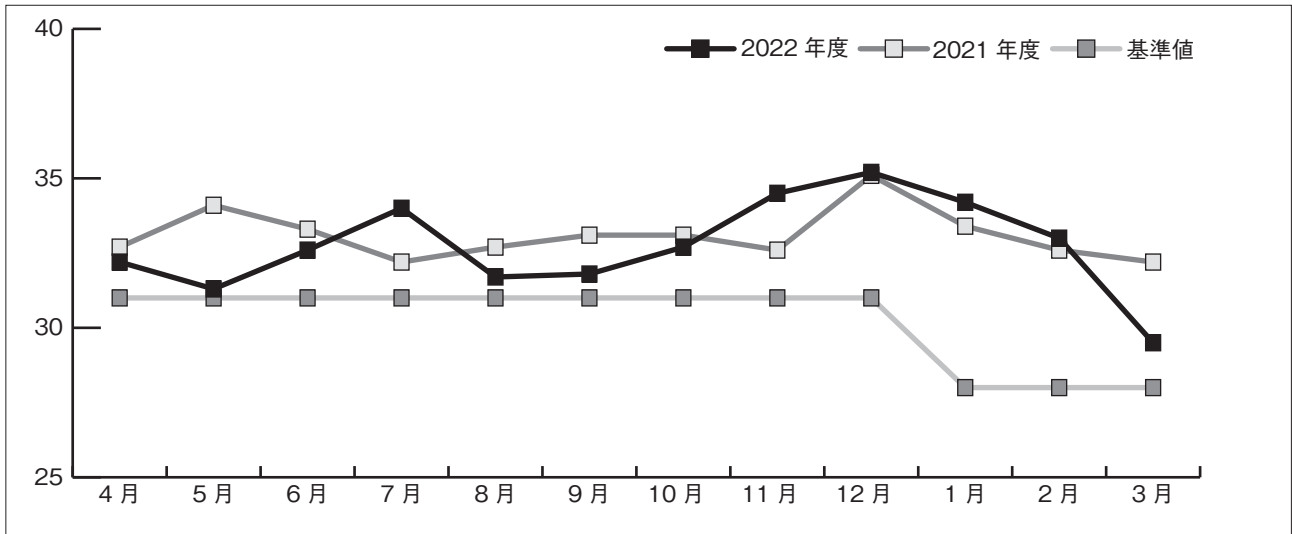
病床稼働率（％）



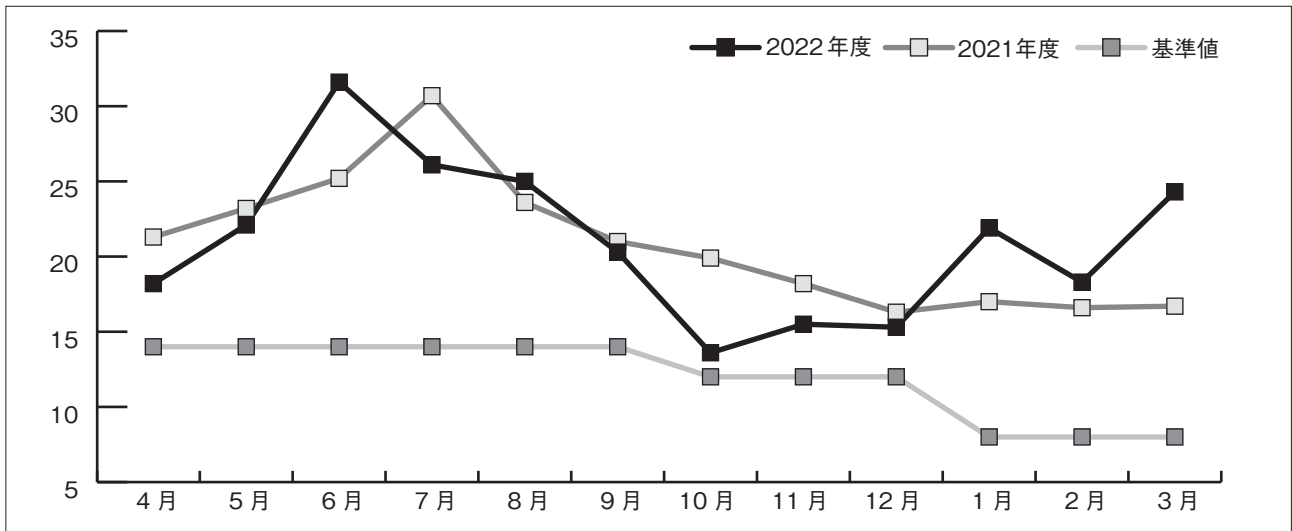
	平均病床稼働率（％）
2021年度	90.7
2022年度	80.7

重症度、医療・看護必要度(看護必要度Ⅰ)

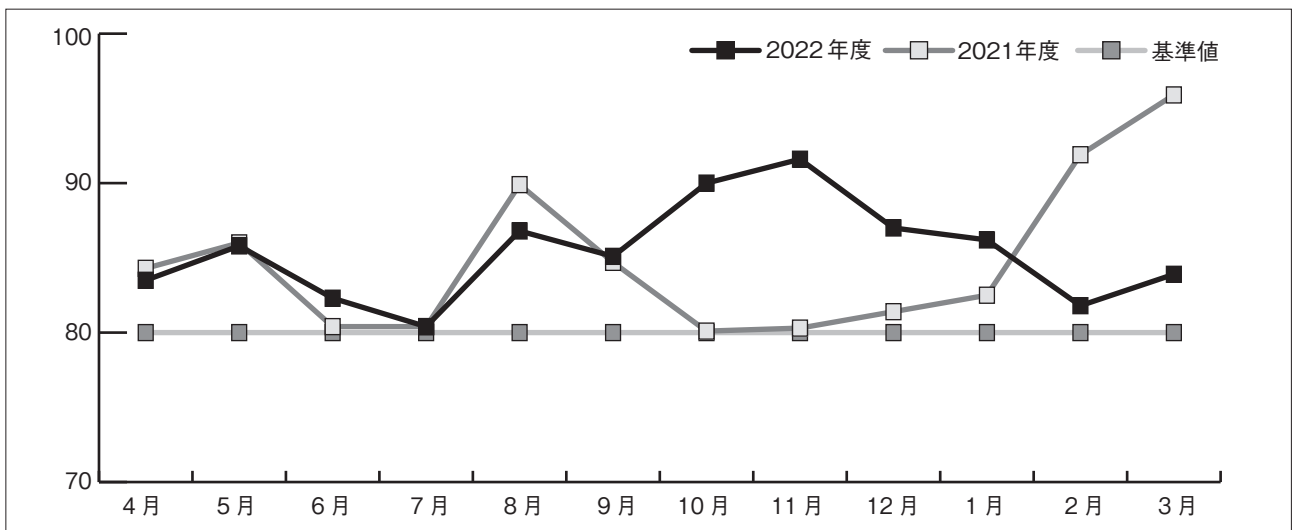
一般急性期病棟



地域包括ケア病棟



ハイケアユニット



看護部

# 血液浄化センター看護室

課長：鮫島 芳江

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師	10名
看護助手	1名
クラーク	1名

## 運営方針

腎臓病患者の生活を充実させる看護を実践しよう！

## 2022年度総括

1. 基本的技術・知識の統一と看護の質を向上する  
今年度は新規導入患者も多く病棟と統一した患者指導の実践を行った。PD 導入を機にPDの基本的知識技術の習得を行いPD 外来も開設することができた。
2. 腎臓病患者のより良い生活につなげる看護を実践する  
多職種連携でフレイル予防の実践とし、フットケア、腎臓リハビリへの取り組みを行った。  
患者のセルフケア意識の向上の一助に透析レターを毎月配布した。定期的な ACP の意思決定支援を行い、腎移植に対しても意思確認と腎移植登録患者の支援を継続した。
3. 自ら考え、行動できるスタッフを育成する  
各グループ活動を主体的に行い、カンファレンスを実践した。災害対応としてオフライン透析トレーニング、DIEMAS（緊急時透析情報共有マッピングシステム）を取り入れた  
防災マニュアルの改訂を行った。

## 実績

項目	2020年度	2021年度	2022年度
維持透析件数	6,293	5,806	6,992
入院透析件数	276	980	1,531
出張透析件数	73	142	232
合計	6,642	6,928	8,755
3月末外来維持患者数	40	44	50
新規導入件数	1	18	23

フットケア		
糖尿病疾患加算（170点）	221件	37,570点
胼胝・鶏眼削り（170点）	27件	4,590点
下肢末梢動脈加算（100点）	512件	51,200点

# 手術室・中央材料室

課長：佐藤 典子

## 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師	14名
看護助手	1名
クラーク	1名

## 運営方針

コロナ時代に、より多くの患者が安心して手術を受けられるよう稼働率を維持しながら安全で効率的な手術環境を提供しよう

## 2022年度総括

1. 患者のニーズに対応し、治癒力を高め基本的看護能力を発揮できる手術室人材の育成
  - ・手術室として術中の急変症例を経験し、看護としてスタッフ個々が様々な思いや看護観を考える機会となった。スタッフの思いの表出の場として、ナラティブを活用し語りを実践した。

## 実績

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2021	138	130	149	126	155	156	157	152	150	141	140	163	1,757件
2022	168	154	174	167	155	163	176	166	154	151	174	188	1,990件

予定：1596件 準緊急：289件 緊急：105件

- ・術後疼痛管理チームを発足し、医師、看護師、薬剤師での術後患者への介入を開始した。今後は介入の幅を広げるべく、新たな人材の育成にも取り組んでいく

### 2. 多職種と協働し安全な手術環境を提供する

- ・SSIカンファレンスを実施し、器械の見直しと運用について検討し導入した。
- ・手術室内での防災訓練を行い、スタッフの役割と初動行動の確認を行う事ができた。また、手術室内の情報共有について、実際の動きとともに確認することが出来た。次年度は今回の訓練を基にマニュアルを修正し、多職種を含めた訓練を実施していくことが課題である。
- ・2022年度は手術室に関しても、新型コロナウイルス感染症の対策に追われる一年であった。感染対策とともに手術室の運用変更を実施し、手術患者を安全に受け入れていくことができた。

### 3. 働きやすい職場づくり

- ・看護補助者の配置により、業務のタスクシフトを目標に取り組むことができた。
- ・中央材料室業務では委託業者との検討がなされ、課題は多くあるものの役割の明確化と業務内容の再検討につなげてい

# 外来

課長：亀井 由紀

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師	25名
助産師	1名
准看護師	1名
看護助手	3名
視能訓練士	3名
救急救命士	5名
外来医療秘書	19名

## 運営方針

地域に選ばれる病院を目指し、質の高い安全な医療と看護を提供します

地域とともにある救急外来を目指し、チーム医療を実践します

## 2022年度総括

新型コロナウイルス感染症に関して感染対策を徹底し、体調確認や発熱外来での診察を継続して実施してきた。2023年5月から感染症法上の分類が5類に変更になるため、安全に安心して受診できるよう外来として環境を整え、対応について検討・実施した。

### 1. 地域住民の暮らしを支える看護外来の実践と患者を支えるスタッフの育成

外来看護師を中心に、救急救命士の専門性を活用しながら急変対応シミュレーションを実施した。また、外来で働く医療事務や看護助手を交えての地震対策訓練も実施した。

心不全外来開始に向けて心不全療養士を中心に、看護介入の準備を整えた。また、RRS（院内迅速対応システム）の研修に2名参加し、RRSの視点で外来待合をはじめ外来を利用する方を観察し、安全な看護の提供に努めた。

### 2. いたわり合い働き続けられる環境を整える

看護を語る会を開催し、お互いの価値観を認め合う活動や、他部署へクリスマスカードを作成し配布し、お互いをいたわり合う活動を実施

した。

また、多職種が協働している場でもあるため、コミュニケーションを大切にし、承認し合いながら働きやすい職場環境の維持に努めた。

## 実績

### 看護外来実績

	2019年	2020年	2021年	2022年
糖尿病看護外来	462	601	878	1,107
慢性腎不全看護外来	336	134	381	358
リウマチ看護外来	2,284	1,724	1,702	734
ストマ看護外来	239	261	316	297
がん電話相談	35	40	34	102



# 画像診断・内視鏡センター看護室

課長：高井 千晶

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師 15名  
看護助手 1名

## 運営方針

「専門性を発揮し、安心・安全なケアを提供する」  
～チームで考え、改善していく～

## 2022年度総括

### 1. 予測できる看護：患者を護る

- 急変対応シミュレーションの実施  
心臓血管センター主催急変対応@プラネックスに複数参加、病棟および多職種合同のCTシミュレーションを実施し各部署での問題点を共有することができた。またB棟CT/MRIでのフローチャート作成・共有することができた
- 急変対応時の技術トレーニングの実施：気道管理（挿管・BVM）、除細動器取り扱いを実施し、急変対応への知識・技術の向上に努めた
  - RRSリンクナースによる急変徴候の学習会を実施。呼吸状況を確認することの重要性を再認識することができた。「何か変」と感じた時、NEWSやQuickSOFAを指標として医師や病棟に状況報告、また患者観察ポイントを共有する機会となった
- 急変事例の振り返りを実施
- 専門性を活かした情報発信：検査情報の提供、院内健康講座の実施

### 2. 現場教育を通してともに成長を目指す

- 教育マニュアルを活用しOJTの継続：新たな治療の開始（心外：腹部大動脈ステントグラフト内挿術、動脈血栓除去術）、勉強会およびマニュアル作成し看護の標準化が図れた
- 月1回カテ室・内視鏡のコメディカル会の実

施（IA事例の振り返り含）、脳外科カンファレンスの実施

- 日々の出来事を共有、振り返る場としての夕方ミーティングの継続

### 3. 患者の安全のための職務遂行

- 患者誤認0、誤薬0を目指し、マニュアル遵守6Rの徹底に努めた
- 確実な検体取り扱いの継続：検体間違い0達成
- 5S、物品管理を行い、安全に検査、治療ができる環境づくりが図れた
- タイムアウトの拡大  
ERCP、上下部ESDタイムアウトの定着、TV室検査での導入に向けて運用基準を作成、上下部内視鏡タイムアウトの改正

### 4. 慣例にとらわれない業務改善

- DX推進に向けたペーパーレス申し送りノート、検査のコスト伝票の廃止
- 看護記録の充実  
テンプレートの見直し
- 内視鏡検査説明方法の改善  
説明用紙の改訂

### 5. 災害に備える

- 防災訓練  
カテ室防災マニュアルを作成、CEと放射線技師とともに読み合わせを実施
- 火災発生時の避難経路、消化器・消火栓の使用方法の確認を実施
- 多職種（CE・放射線技師）とCOVID19感染対策における血管造影室、内視鏡室対応マニュアルの改正と周知
- TV検査室の手指衛生の使用状況の把握、配置場所の見直し
- PPEの装着着脱の再確認、周知

## 実績

項目	件数
上部消化管内視鏡検査（内視鏡治療含）	1,641件
下部消化管内視鏡検査（内視鏡治療含）	1,331件
乳頭の胆管膵管造影（内視鏡治療含）	112件
心臓カテーテル検査（経皮的冠動脈形成術含）	712件
アブレーション	60件
ペースメーカー留置	35件
脳血管造影検査（血管内治療含）	135件
CT造影検査	4,036件
MRI造影検査	331件

## B3 病棟

課長：小林 明日香

### 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師	14名
看護助手	2名
クラーク	1名

### 主な担当科

麻酔科・緩和ケア

### 運営方針

人生最期の瞬間まで「その人らしい」人生や生活が継続できるように看護しよう

### 2022年度総括

1. 終末期の患者に応じた基本的看護を充実させる  
平均患者数は増加しているが、褥瘡発生数は、2021年度よりも減少している。日々の体位交換やスキンケアが継続できていると評価できる。

### 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院患者数	21	19	23	26	30	22	20	20	27	19	20	27	274
退院患者数	22	26	22	31	33	28	25	31	27	26	26	24	321

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
病棟稼働率	84%	67%	80%	82%	82%	90%	92%	70%	81%	84%	77%	80%	81%
平均在院日数	24	20.9	22.4	15.7	20.6	20.6	26	18	19.2	22.4	18.1	20.2	20.7

2. 緩和ケア病棟としての教育体制の強化を行う  
2022年度教育体制の整備は進まなかった。2023年度、中途採用者の教育プログラムも合わせて、整備を進めていく。
3. ケアの質を落とすことなく、効率的な業務改善を行う  
カンファレンスが定着し、短時間での開催ができたことで、超過勤務時間の削減に繋がっている。病棟会やグループ会を2ヶ月に1度の開催へ変更したが、メール機能を活用して意見交換、情報共有を行うことができた。
4. 大災害を見越した防災訓練の実施  
2022年度は病棟内で火災が起きた場合の訓練を行うことができた。2023年度は、地震を含む大災害に対する防災訓練を行い、実際の場面で対応できることが課題。

## 東1病棟 (回復期リハビリテーション病棟)

課長：酒井 志乃

### 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師	16名
看護助手	6名
クラーク	1名

### 2022年度総括

脳神経外科、整形外科

### 運営方針

多職種チームで患者の持てる力を引き出し、共に喜べる

～チームでともに考え創造し見つけ出す～

### 2022年度総括

1. ケアミックス病院で回復期リハビリ病棟としての役割を果たす

判定会議(毎週)での情報共有により、整形外科患者を術後早期から回復期へと転棟調整することができ、患者の病期に合わせた看護の提供につながられた。また、多職種で患者の持てる力を引き出すような関わりを継続でき、実績にもつながった。

2. 多職種と協働しながら基本的看護を充実させる

骨粗鬆症予防、転倒転落予防を意識した患者教育と患者ケアの充実にむけて新たな業務体制を構築した。多職種でのカンファレンスを増やし記録に残すことで、統一したケアの提供につながった。看護補助者へFIM「整容」をタスクシフトすることで、看護師だけでなく、看護補助者が中心となり「整容」のFIMを上げようとする関わりができています。FIMに沿った看護計画の導入を開始したことで、FIM利得を意識した看護の提供ができるようになった。

3. ポジティブな職場感情をはぐくみ、強みを活かす、補完し合うチームづくり

チーム力向上のために、看護・リハビリスタッフでチームビルディングを意識した。

ワークショップ(2回/年)、チームワークを高めるゲーム、チームでの成果発表(毎月の病棟会)、急性期看護師とリハビリスタッフのシャドーイングなどを取り入れた。各グループで個人のアクションプランを設定し、目標を可視化した。

### 実績

2022.10月～2023.3月までの6ヶ月平均

重症者率	46.6%
実績指数	66.9
平均在院日数	57.6日
稼働率	79.2%
1日当たりリハビリ提供単位数	4.6

## 東2病棟

課長：小川 実花

### 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師	24名
看護助手	4名
クラーク	1名

### 主な担当科

呼吸器内科、呼吸器外科、乳腺科

### 運営方針

多職種協同で実践力を高め 患者の肺・乳(むね)によりそう看護を提供する

### 2022年度総括

新型コロナ感染第7波において、院内外発生の陽性患者を受け入れながら、一般病床の患者受け入れを継続した。また、10月より新型コロナ感染症協力医療機関から重点医療機関へ変更となり、感染対策強化と業務調整、スタッフの精神的支援などを行うことでケアの質を維持した。

#### 1. 患者の病期に応じた看護の提供

感染対策のため、配信機能を活用し、課長・係長・リーダーなどからの情報提供やスタッフ同士の知識提供をタイムリーに行った。また、技術的な学びについては、感染状況が落ち着いている時期に実施し、可能な限り学びの機会を確保した。

#### 2. 質の高い医療を提供し続けるためのスタッフ育成

目標参画面談の実施・陽性病床の労働環境改善・病棟会でポジティブフィードバックを実施し、スタッフのモチベーション維持に努めた。乳腺手術見学(5件)・急変勉強会(3回)・CE勉強会(HOT・人工呼吸器)を実施した。

#### 3. 防災訓練の実施

防災についての病棟環境の確認を1回実施した。

### 実績

平均在院日数	13.8日
看護必要度	28.6%
乳腺科 手術件数	80件
呼吸器外科 手術件数	58件
陽性病床 転院スクリーニング対応	114件
陽性病床 陽性患者受け入れ	116件
新型コロナ陰性化患者受け入れ	23件

## 東3病棟

課長：伊東 路子

### 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師	31名
助産師	30名
看護助手	6名
クラーク	1名

### 主な担当科

消化器外科、消化器内科、泌尿器科

### 運営方針

多職種交えて連携し、チームで医療・看護の提供をしよう  
～患者とチームの輪を作ろう～

### 2022年度総括

平均102件/月の患者の受け入れを行っている。病棟稼働率は87.3%を維持している。また地域連携部門と協働し地域包括ケア病棟への転棟なども積極的に行っている。外科の術後の離床支援と退院支援に取り組み平均在院日数は13.6日を維持している。

#### 1. 侵襲的な検査・治療・周術期看護を根拠に基づき実践する

術後の早期離床や回復力を高めるために、術後離床ケアの標準化に取り組んだ。リハビリと協働しチームで他職種の役割や専門性を発揮しながら支援した。侵襲的な消化器治療や周術期はせん妄の発症リスクが高く、予防ケアの早期介入や早期の離床ケアがドレーンや様々なチューブの事故抜去予防にもつなげることができた。RRSリンクナースの活動により「なにか変」を察知しNEWSの記録により職場の急変予知のアセスメント力の向上や観察力の強化につながった。NEWS記録数は

2021年度の約3倍となり、年間65件の記録数となっている。

#### 2. 患者の意向を尊重しチームで支える看護の提供

早期の退院とDPCを意識した地域包括ケア病棟への転棟も目標とし、医師参画による退院支援活動が出来た。診療科別のカンファレンスは定着しており、退院支援看護師や医療相談員との連携により様々なケースに対応できた。また、患者の意思を尊重したケアを重視し「もしもの話し合い」を積極的に行った。ACP記録は年間237件となった。

#### 3. ケアを充足するための業務体制を確立する

看護補助者のフロー化を継続し、清潔ケアのタスクシフトをした。毎月一回フローの会議を開催し問題解決しながらフロー化を推進した。クラーク業務の見直しを行い業務体制の再構築をした。

## 東 4 病棟

課長：利根川 綾

### 人員構成(2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師	28名
看護助手	10名
クラーク	1名

### 2022年度総括

総合診療科他

### 運営方針

こっからはど派手にいくぜ！

### 2022年度総括

#### 1. つないでつなげて TUNAGANAI

地域包括ケア病棟であるため、退院支援に関する情報は関係各所とつなぎ、調整をした。また、患者の療養環境はストレス過多とならないよう、2021年に引き続き入院環境を生活環境にと目標に、それぞれの患者の過ごし方、嗜好に合わせながらベッドにつながれた環境でなく『身体拘束は行わない』とモットーに自由にかつ安全に過ごせるよう、カンファレンスを繰り返しながら療養環境を整える事に努めた。

#### 2. ケア・ミックス病院の機能理解と活用

病棟パンフレットを作成し病棟での拡大カンファレンス時に患者家族やケアマネージャーに配布した。また、地域連携の退院支援看護師やMSWに協力を頂き該当する利用者に配布した。当院を退院し自宅療養中の患者のレスパイト入院につなげることが出来た。

退院支援を行っていくにあたり患者の意向が大切であるため、ACPを確認し、今後どうやって生きていきたいか、何を大切に療養先の検討をしたいか確認した上でカンファレンスを

行い患者の意向に添った退院支援を進めることが出来た。

#### 3. THINK ABOUT KNOWING ILLNESS ～病気について考える～

時期毎のトピックに沿って、スペシャリスト・研修終了者・PTなどに依頼し勉強会を開催した。病棟でのトピックを題材としたためスタッフの関心度も高く学習を進めることが出来た。KYTカンファレンスを定期開催に変更し、病棟内IAを検討し原因と対策を明らかにすることで事例の共有をした。

#### 4. お互いを認め合う助け合う

超過勤務時間の短縮のため、時短やパート勤務者の働き方を検討し一部機能別にする事で超過勤務を短縮する意識付けを行い実践することができた。

アサーティブなコミュニケーションを目標にお互いがお互いを思う声掛けに努めた。

防災訓練の実戦訓練と机上訓練の2回行う事ができた。

### 実績

病床稼働率	平均77.6%
在宅復帰率	平均84.7%
拡大カンファレンス・リハビリ見学	140件/年
転院(東4直接入院)	58件/年
レスパイト	115件/年



# 西 1 病棟

課長：岩瀬 猛之

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師	22名
看護助手	5名
クラーク	1名

## 主な担当科

脳神経外科、整形外科

## 運営方針

ひとりひとりの持っている力をチームの力につなげよう

## 2022年度総括

1. 患者の病期に合わせた患者のニーズを満たす基本的看護の充実  
脳疾患患者の退院パンフレットを作成し、統一した退院指導が可能となった。指導対象疾患を拡大しパンフレット作成および指導の強化を図る必要がある。手指消毒剤の使用量目標を立案し、5つのタイミングで手指消毒ができるように介入したが目標値には届かなかった。
2. 個々からチームにつなげる人材育成と活用  
職場内での急変シミュレーションの実施。定期的な勉強会の開催およびKYTカンファレンスの実施。  
患者誤認事例対策として、マニュアルの読み合わせおよび小テストを実施した。  
今後OJTを実践する中でチームリーダーのさらなる育成が今後の課題である。
3. ケアを充足するための業務改善  
看護補助者との助手会を通じ、意見交換を行いながら看護業務の委譲、整理を図った。

## 4. 感染対策を考えた、多職種との防災訓練の実施

看護師・看護補助者を交えての防災訓練は実施出来たが、多職種との合同訓練は実施できなかったため次年度の課題である。トリアージの学習会を開催した。START法について事例を通して学び、今後は実践が必要である。

## 実績

項目	2021年	2022年
病床稼働率	82.2%	82.4%
平均在院日数	21.2日	19.9日

---

---

## 西 2 病棟

課長：田口 和美

---

---

### 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師	31名
看護助手	6名
クラーク	1名

### 主な担当科

膠原病・リウマチ科、耳鼻咽喉科、  
内分泌・糖尿病科、整形外科、麻酔科

### 運営方針

チーム力を強め変化を乗り越えよう 2022

### 2022年度総括

2022年度は、COVID-19の影響を受けながらも、病床稼働率90%以上を目標に、多くの入院患者の対応を行った。また、整形外科の手術件数の増加により、術後管理や合併症予防など看護師のスキルアップにもつながる1年であった。

院内でも高稼働の病棟であるが、地域の急性期医療を担う病棟として、急性期看護だけでなく、早期退院に向けての取り組みにも着目をして、新しい取り組みを開始した。

退院後、患者が望む生活の場にもどるために必要な病床を提供できるように、入院早期からスクリーニングを行い、それを通して、当院のケアミックス病院の特徴である、回復期リハビリテーション病棟の紹介をした。

また、生活環境・退院後の望む姿など、患者の退院後・地域での生活に視点をおき、情報収集を行い、チームで共有できるように記録に残す事を強化した。

それにより、退院支援の促進にもつながっている、他の活動としては、2021年度に引き続き、西2病棟看護師が考案した「リハビリダイアリー」の活動も推進し、病棟看護師のみでなく、

多職種とも共同できるものとなってきた。それらの成果をもとに、日本運動器看護学会のシンポジストとして参加ができた。

整形外科患者を中心に、OLS（骨粗鬆症リエゾンサービス）の活動にも整形外科病棟として参加を行った。現在病棟での活動は定着しつつある。今後もより効果的に活動できるよう、病棟として取り組んでいく予定である。

2022年度は、COVID-19の対応など、これまでの看護の世界では経験できない事が多く起こった。しかし、運営方針にもあるように、チーム力で乗り切りそして新しい活動に繋げることができた1年であった。

---

---

## 西 3 病棟

職場長名：内野 友美

---

---

### 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師	27名
看護助手	5名
クラーク	1名

### 主な担当科

心臓血管センター内科・血管外科・腎臓内科・救急科・アレルギー科

### 運営方針

一人ひとりがやりがいを感じ互いに高め合いながら看護実践を行おう

### 2022年度総括

2022年度は、COVID-19 第7波の影響を受け一時病床稼働率 62.1% まで落ち込んだが、冬場の稼働回復にも助けられ病床稼働率年間平均 87.8% を維持することが出来た。また、緊急心臓カテーテル治療の必要な COVID-19 罹患患者の受け入れ体制を整え、より感染予防を意識した看護提供を行った1年でもあった。

2020年より取り組んでいる心不全療養指導では、昨年まで心不全療養指導士を中心に行ってきた心不全患者の療養指導を、スタッフ全員でテンプレートを活用し情報収集する新しい取り組みを開始している。現在、心不全入院の患者全員にテンプレートにて記録を残し、その情報を元に療養指導を行なうことができおりセルフケア支援の強化となった。また、ハートサポートチームと協働し教育入院患者の療養指導を始め、入院加療後の患者に対してもチームで介入し患者の生活環境・退院後の地域での生活に視点を向けカンファレンスを用いて外来へつなぐことが出来ている。

また、2022年度は血管外科・腎臓内科による外科的治療も増加し、術前後の管理や術後合併症予防などスペシャリストを活用し専門的な視

点を持ち看護提供できるようスキルも強化した。

その他では、看護補助者のフロアー化を本格導入し3階フロアーの看護補助者業務内容を東3、B3病棟課長とともに作成し実施した。結果的に安定した看護補助者の供給が可能となり、限られた人数の中でも各病棟に看護補助者を配置できるようになった。まだ、フロアーの業務統一や直接ケアができない看護補助者の活用などの課題はあるがフロアー化は定着しつつあり、効果的な活用方法となっている。

---

---

# 急性期ケアユニット

課長：野上 智子

---

---

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師	14名
看護助手	1名

## 主な担当科

全診療科 (ハイケアユニット運用規定の入室基準に則った患者)

## 運営方針

「命を守るため」質の高い医療・看護の提供  
「患者のため」できることを考えられる個からチームへ

## 2022年度総括

ハイケアユニット入院加算の算定可能な全科の重症患者の受け入れを行い、チーム医療を実践している。また、今年度はクリティカルケアだけでなく、患者・家族の精神的ケアにも視点を向けカンファレンスで話し合いの場を設けケアの強化を図った。

### 1. 急性期患者の早期回復に向けた基本的看護技術の提供

MDRPUは有効な体位変換、保湿、圧迫部位のケアを行うことで、8件から4件へ減少している。また、WOCと連携し褥瘡ハイリスクケア加算を46件取得している。肺炎予防として腹臥位など排痰ケアを実施しVAPは0件であった。看護カンファレンスを導入しACPや家族ケアについてチームで話し合いを行った。ACPの記載率は58件と2021年度より上回っている。安全管理面では、リスク感性を高める取り組みとしてKYTや事例検討を実施した。

### 2. 一人一人を尊重し活躍できる人材の育成

人員の入れ替わりに伴い、質の維持・向上のため教育プログラムを作成し、教育体制の強化を図った。

### 3. 病棟の特性を踏まえた適正な病床管理と退院支援

ACU入室時から退院支援に着手し、患者の病識・生活・服薬・経済面などの情報を一般病棟につなぎ、切れ目のない支援体制の構築が必要である。そのため、退院支援スクリーニングシートの記入を強化し、記入率は85%と2021年より上昇した。

# 脳卒中ケアユニット

係長：森谷 のり子

人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師 13名

## 主な担当科

脳神経外科

## 運営方針

ひとりひとりの持っている力をチームの力につなげよう

## 2022年度総括

2022年度病棟目標

1. 脳卒中患者へ安全に治療を受けられる環境を提供できる
2. 患者の病期に合わせた患者のニーズを満たす基本的看護の充実
3. 個々からチームにつなげる人材育成と活用
4. ケアを充足するための業務改善
5. 感染対策を考えた、多職種との防災訓練の実施

脳卒中ケアユニット（以下 SCU）は、脳卒中を発症早期から24時間体制で集中的に治療する病棟である。この病棟で治療することにより、症状の早期回復、入院期間の短縮、自宅への退院率の増加、さらには重症患者の死亡率の低下などが得られ、長期的な日常生活能力や生活の質（QOL）の向上が見込まれる。2022年度は重症患者の受け入れを継続、その中で専門性の高いケアを提供する為のスタッフ教育に努めた。また、脳外科・リハビリ・退院支援カンファレンスを通し患者個々に必要な方針を多職種で定めている。

2023年度の取り組みとして、SCUの役割は何かという事を改めて考え、「集中的な治療と早期からのリハビリテーションを計画的かつ組

織的に提供する」ということに着目している。24時間必要に合わせてできるリハビリを目標に、セラピストと今まで以上に協働できる取り組みを行う。患者個々に合わせた課題へ看護とセラピストが共通認識し、同じ目標を達成できるようなケアを提供していきたいと思う。

## 実績

病床稼働率	98.9%
平均在院日数	9.4日

疾患	総数	脳梗塞	脳出血	くも膜下出血	その他
人数	247人	189人	48人	6人	4人

転帰先	自宅	回復期	その他
人数	141人	58人	48人

在宅復帰率 57%（SCUから直接在宅復帰）、  
回復期経由を含め総数 191人・77%

# 看護相談室

課長：根岸 恵

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師 2名  
がん看護専門看護師 1名  
精神看護専門看護師 1名(非常勤)

## 運営方針

- ・エンドオブライフケアの質向上
- ・多様な人材育成に向けたキャリア支援

## 2022年度総括

がん看護専門看護師の活動は今年度も緩和ケア病棟関連の面談がほとんどを占めた。緩和ケア病棟の入棟相談外来と入院調整を担当し、入棟相談外来件数は555件、入棟患者数334名であった。ACPに関しては、年間で2,418件の事前指示書が提出され、1,948件のもしもの話し合いが診療録に記載されていた。質の高いもしもの話し合いをまとめた「ACP Letter」を毎月発信し、啓発活動を行った。

精神看護専門看護師(非常勤)はコロナ禍のストレスフルな状況であったため、スタッフのメンタルケア、新入職員のケアを中心に関わった。

## 実績

〈がん看護相談件数：678件〉

相談内容 (延べ件数)	
緩和ケア病棟入棟	379
症状マネジメント	209
在宅療養の調整	100
がん診断・治療	85
家族問題	10

〈精神看護相談件数：224件〉

相談内容 (延べ件数)	
患者の精神症状	19
職員メンタルヘルス支援	94
復職支援	27
体験カウンセリング	29
その他	53



# せいい訪問看護 ステーション横浜

所長：平川 聡恵

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

看護師	13名
事務	1名

## 運営方針

- 1) 経営指標に基づいた事業運営
- 2) 聖隷横浜病院との更なる連携
- 3) 質の高いサービスの提供
- 4) 感染症対策の確実な実施と継続
- 5) 働きやすい職場環境づくり

## 2022年度総括

2022年度は看護師の退職が2名あり、利用者数や訪問件数が予算に未達で収支も下回った。職員の補充ができず、新規利用者獲得のための営業ができなかった。

利用者や利用者家族のコロナ陽性者は出たが、職員に感染拡大することなく、感染拡大による事業を縮小することなく訪問を継続できた。

外来看護師との連携会議を月1回開催し、定期的に情報共有や意見交換ができた。

2023年度は院内からの紹介件数を増やし、病棟との連携も強化していきたい。

## 実績

	収入 (千円)	支出 (千円)	訪問 単価	介護訪問 件数	医療訪問 件数
予算	148,627	108,000	10,381円	10,665件	3,285件
実績	121,231	103,202	10,350円	9,262件	2,422件

看護部委員会 2022年度 実績報告(年報用)

委員会名称	開催回数	年間活動目標 (大項目のみ)	活動実績
在宅療養支援(TUNGU)委員会	9回	<ol style="list-style-type: none"> <li>在宅療養支援において中心的役割を担うことができる： ロールモデルになる</li> <li>リンクナースの活動を通し病院と地域の「TUNAGU」をひろげる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>介護者が見やすい介護ケアパンフレットを作成した。</li> <li>退院支援における成功事例共有や ACP 実践報告などを行い院内での各部門の役割、連携を深めた。</li> <li>地域包括ケア病棟の院内転棟 60%以下の目標達成のため急性期病棟からの退院支援を実践した。</li> </ol>
看護リスクマネジメント委員会	9回	<ol style="list-style-type: none"> <li>転倒転落に伴うレベルⅢ b以上の有害事象を7件以下に削減する</li> <li>確実な「照合(情報と情報を一致させる)」をすべての看護スタッフが実施する</li> <li>医療事故、急変予知、気づき力、対応力の向上</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>転倒にともなう有害事象の分析と看護計画の立案と対策の関連性を検証した、発生時間からせん妄予防対策の充実が課題と見いだした。</li> <li>搬送時の情報伝達方法の現状確認・標準化にむけて取り組みが課題となった。ポンプ動作確認の記録監査を行った。</li> <li>①委員会内で3事例検討し分析方法について学習した。 ②鎮静テンプレート運用後の評価を行い各部署の傾向をフィードバックした。 ③看護医療安全研修Ⅰ～Ⅲ、看護補助者研修(医療安全)の企画と開催</li> <li>医療安全管理マニュアル10種類を見直した。</li> </ol>
せん妄認知症ケア向上委員会	10回	<ol style="list-style-type: none"> <li>認知症ケア・せん妄ケアにおける知識・技術を習得する</li> <li>リンクナースとしての役割を職場内で発揮できる</li> <li>「認知症サポートチーム」の運用を軌道にのせる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>リンクナースの育成として、リハビリ・薬剤課による学習会を実施</li> <li>院内への研修を「基礎編・実践編」に分け、e-ラーニングにて実施した。また、せん妄カンファレンスを各職場で実施できるよう、アセスメントシートを作成した。</li> <li>サポートチームとしてラウンドを1回/週実施し、様々な視点での介入が出来ている。「認知症レター」の発行をし、活動の周知を行った。</li> </ol>
看護パス・記録監査委員会	8回	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護記録の質の向上を図る</li> <li>看護記録マニュアル改訂と整備</li> <li>クリニカルパス運用マニュアルの修正と整備</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>質的・量的記録監査(52症例)</li> <li>新人対照電子カルテ操作訓練</li> <li>看護計画の使用状況・重複ケア項目の洗い出し・整理</li> <li>監査表・マニュアル改訂(クリニカルパス、ACP記録)テンプレート承認</li> </ol>
看護感染予防委員会	11回	<ol style="list-style-type: none"> <li>職場の特性を踏まえた感染対策に取り組む</li> <li>感染予防委員としての知識・技術の習得</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の流行により、全部署で感染予防対策の手技の訓練と再確認に繋がった。手指消毒剤の目標使用量を各部署で立案し、客観的に職場内を評価できるツールとした。</li> <li>リンクナースに向けた学習会を6回/年開催した。委員会内で職場内ラウンドを行い、改善点を共有した。各職場の取り組み内容を共有し、参考点を職場の改善につなげた。</li> </ol>
褥瘡予防委員会	11回	<p>褥瘡発生 1.0%未満 院内発生 60人以下 ステージⅢ以上 0件目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>褥瘡予防ケアの知識・技術を身につけ褥瘡対策周知活動を実践</li> <li>事例検討の実施</li> <li>褥瘡診療計画書監査</li> <li>摩擦とずれを最小限にする患者移動とポジショニングスキルの周知活動</li> <li>正しいオムツの装着と評価</li> </ol>	<p>2022年度の褥瘡発生率は1.59%、褥瘡発生患者は85名、ステージⅢ以上症例は0件と目標の一部達成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>知識・技術普及の為にリンクナースを中心に各職場で学習を行った。</li> <li>褥瘡発生事例をもとに委員会でカンファレンスを行い、原因・対策を共有・検討した。</li> <li>監査を毎月継続して実施した。</li> <li>褥瘡回診にリンクナースが同行し、現場で必要なポジショニングスキルを学習した。</li> <li>毎月オムツに関する悩みを共有し解決の為に知識学習に努めた</li> </ol>
共育委員会	12回	<ol style="list-style-type: none"> <li>習得した知識・技術を患者理解につなげる力を育む(研修の学びをOJTに!)</li> <li>e-learningなどのデジタル教材を活用した研修スタイルを始める</li> <li>クリニカルラダーの内容と運用の見直しを行う</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>研修の中でのアセスメント力を育む内容の研修(例えば関連図の作成、職場カンファレンスでの分析など)を実施</li> <li>e-learning導入が決定、2023年度の研修には導入・活用していくことを企画している</li> <li>日本看護協会の共通ラダーにおいて、当院のものとの照合を開始、次年度中に改訂予定</li> </ol>

# 薬剤部

部長：塩川 満

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

薬剤師	25名
薬剤助手	2名

## 運営方針

1. 医療者、患者から必要とされる薬剤師となること
2. 安全で質の高い医療を提供すること

## 業務内容

調剤業務、製剤業務、病棟業務、薬剤管理指導業務、医薬品情報業務、手術室業務、外来業務、医薬品購入管理業務、抗癌剤混注業務、高カロリー輸液混注業務、持参薬鑑別業務

## 2022年度総括

### ①業務の効率化

- ・超勤時間の短縮

2021年度平均残業は19.5時間/人(当直を除くと15.8時間)であったが、2022年度は21.9時間/人(当直を除くと17.8時間)であった。前年度より増えたのは、2022年度に2名の薬剤師(8月、9月)が退職したことの影響が考えられた。

### ②業務の質の向上

・2020年度から開始した連携充実加算算定(化学療法)における院外薬局との連携勉強会は2回開催した。1回目は2022年8月25日に開催し、当院の呼吸器外科の竹内健先生から「肺がんに対する最新治療と保険薬局薬剤師への期待」、また、2回目は2023年2月16日に開催し緩和ケア科 高橋 紗緒梨先生から「緩和医療における保険薬局への期待」と題した講演を行った。

・2022年6月から保険薬局との連携による「院外処方箋に関する疑義照会簡素化プロトコール」を導入した。

つまり、保険薬局が病院へ事前に問い合わせる

ことなく処方変更できるように6プロトコールに対して事前に契約するものであり、2022年度は近隣薬局を含め6薬局と契約を結んだ。当院の疑義照会は全体の5%の300枚程度であるが、その内14%が対象となった。今後はさらに契約薬局を増やし、そしてプロトコール内容を精査し、業務の効率化を図るようにする。

・麻薬管理における業務量軽減を図るために2022年8月から「麻薬管理システム(TOSHO)」を導入した。導入前にかかっていた麻薬処理業務が36時間18分/月から15時間12分/月と大幅に減少した。また、在庫管理がシステム化したことにより、帳簿記載ミスも削減し、また返却状況の把握も容易となり安全性も向上した。

### ③医療安全セミナーの開催

・2022年度はコロナ禍となりWEBにてセミナーを開催した。

テーマは、「不眠症の治療薬」とし、全職員対象で2023年2月27日～3月13日にeラーニングにて開催した。受講率は91.6%であった。

### ④薬剤師の人材育成について

・薬剤部内の勉強会は、薬剤部門長会主催の勉強会として、専門性の向上を目指し、感染・DIの領域で行った。また、院内では、病棟担当者勉強会の中で専門領域の知識を強化するために、今年度はE病棟、W病棟に分かれて毎月開催した。

・実務実習生受け入れを8名行った(星薬科大学薬学部8名)。コロナ禍であったが、受け入れを行った。

## 実績

	2021年度	2022年度	前年度比(%)
外来院内処方箋枚数	1,868	2,791	149.4
外来院外処方箋枚数	77,672	76,531	98.5
外来注射箋枚数	20,209	21,037	104.1
一般名処方枚数	49,417	48,567	98.3
入院処方箋枚数	59,669	58,207	97.5
入院注射箋枚数	109,300	112,322	102.8
薬剤管理指導料 2 (ハイリスク薬品) 件数	2,375	2,082	87.7
薬剤管理指導料 3 (その他) 件数	4,522	4,393	97.1
薬剤管理指導件数 (合計)	6,897	6,475	93.9
退院時薬剤情報提供件数	2,909	2,829	97.2
外来抗癌剤混注件数	901	740	82.1
入院抗癌剤混注件数	109	136	124.8
TDM 解析報告件数	93	113	121.5
製剤件数	2,846	2,201	77.3
持参薬鑑別件数	6,040	6,384	105.7

# 検査課

課長：弘島 大輔

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

臨床検査技師	22名
うち認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師	1名
医療情報技師	1名
栄養サポートチーム専門療法士	1名
日本不整脈心電学会認定心電図専門士	2名
心血管インターベンション技師	1名
超音波検査士 (消化器)	4名
超音波検査士 (体表臓器)	3名
超音波検査士 (循環器)	3名
超音波検査士 (血管)	2名
超音波検査士 (泌尿器)	1名
乳房超音波検査講習会認定	1名
聴力測定技術講習認定 (一般)	3名
聴力測定技術講習認定 (中級)	2名
緊急臨床検査士	4名
二級臨床検査士 (呼吸生理学)	1名
二級臨床検査士 (微生物学)	1名
二級臨床検査士 (病理学)	2名
細胞検査士	2名
国際細胞検査士	1名
ピンクリボンアドバイザー (初級)	1名
有機溶剤作業主任者	1名
特定化学物質及び四アルキル鉛作業主任者	1名
毒劇物取扱者	4名
受付事務	4名

## 運営方針

専門性を高め、新しいことにチャレンジする。精度と迅速性を追求した臨床検査情報を提供する。

知識・技術を常に高め、地域医療に貢献する。医療人として広い視野を持ち、バランスのとれた行動思考を持つ人材を育成する。医療情勢を知り変化に迅速に対応する。多職種と協働しチーム医療に貢献する。

## 2022年度総括

・リハビリテーション課の協力を得て患者移乗勉強会を開催した。ベッドや車椅子からの患者の

移動について実技を交えたトレーニングを行い、より安全に検査を受けていただける環境を整えた。

・検査試薬を見直し、より質の高い検査が実施できる体制を整えた。定期的に見直しを行い、時代に合った検査を提供していきたいと考えている。

・新型コロナウイルス検査について、入院前全例検査や陽性者発生時の接触スタッフ・患者の検査への対応など、当院の新型コロナウイルス感染対策におけるゲートキーパーとして貢献できたと考えている。今後も、病院の体制変更に応じて柔軟に対応していきたい。

## 運営方針

項目	2022年度(件)	2021年度(件)	前年度比(%)
外来採血	38,823	36,258	107
検体検査	1,528,366	1,481,477	103
生理検査	16,675	15,458	108
超音波検査	10,863	10,128	107
耳鼻科検査	7,554	7,692	98
輸血検査	3,238	2,822	115

チーム医療参加回数	回数
NST (栄養サポートチーム)	340回
ICT (感染制御チーム)	50回
AST (抗菌薬適正使用支援チーム)	50回
SMBG (自己血糖測定) 指導	22回

# 栄養課

課長：仲戸川 豊

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

管理栄養士	7名
内 NST 専門療法士	2名
日本糖尿病療養指導士	2名
心不全療養指導士	1名
調理師	4名
内 製菓衛生士	1名
介護食士	1名

## 業務内容

1. 視覚的に美味しそうに見える食事の提供
2. 災害時でも滞りなく食事提供出来る体制作り
3. アレルギー、禁止食材の誤提供防止
4. 栄養指導件数のさらなる増加

## 1. 視覚的に美味しそうに見える食事の提供

全ての料理を見直し、美味しく見える量の調整、盛り付け方の変更を行った。また、見栄えの良い食器の選定や、盛り付けの勉強会も実施した。残食量は前年度比 8.3% 削減。

## 2. 災害時でも滞りなく食事提供できる体制作り

課内での災害時の食事提供勉強会を開催。一部の担当者しか把握していない災害備蓄について理解は深まった。

## 3. アレルギー、禁止食材の誤提供防止

過去3年間のアレルギー食材誤提供事例から対策をまとめ、マニュアルを整備した。また、病棟に掲示している写真付き献立にアレルギー 28 品目の表示を実施した。

## 4. 栄養指導件数のさらなる増加

管理栄養士が行っている厨房業務をパートに振り分け、栄養指導業務に従事出来る時間が増えた。栄養指導件数は前年度比 16% 増加。

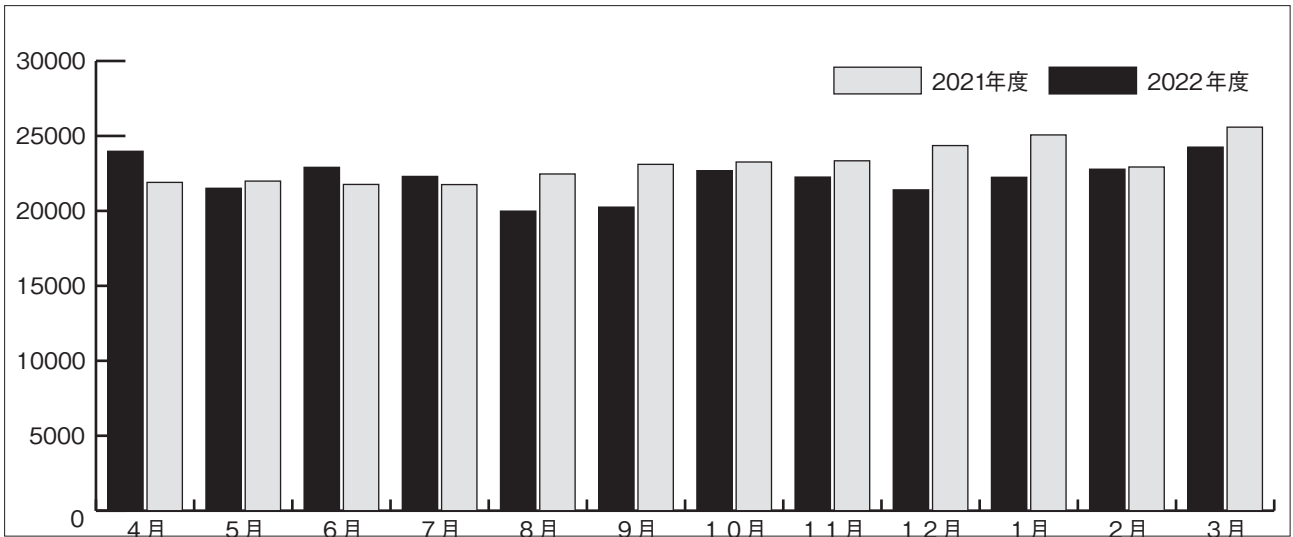
## 実績

食数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2022年度	23976	21508	22905	22299	19983	20250	22683	22255	21404	22241	22780	24252	266536	22211
2021年度	21901	21988	21765	21755	22462	23104	23261	23341	24357	25067	22928	25586	277515	23126
(昨年度比)	109%	98%	105%	103%	89%	88%	98%	95%	88%	89%	99%	95%	96%	96%
食材料費	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2022年度	¥767	¥699	¥760	¥729	¥787	¥778	¥807	¥780	¥811	¥722	¥742	¥729		¥759
2021年度	¥718	¥660	¥616	¥723	¥697	¥670	¥696	¥680	¥716	¥657	¥690	¥688		¥684
(昨年度比)	107%	106%	123%	101%	113%	116%	116%	115%	113%	110%	108%	106%		111%
特別食比率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2022年度	50.4%	53.8%	54.7%	50.6%	46.8%	48.0%	50.7%	51.3%	48.7%	51.4%	49.9%	49.8%		50.5%
2021年度	32.5%	32.6%	34.7%	34.1%	35.0%	37.5%	41.9%	43.8%	48.3%	48.8%	45.3%	49.8%		40.4%
(昨年度比)	155%	165%	158%	148%	134%	128%	121%	117%	101%	105%	110%	100%		125%
栄養指導件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2022年度	253	236	292	251	269	278	299	324	269	252	281	313	3317	276
2021年度	229	208	228	240	246	227	255	259	260	247	205	250	2854	238
(昨年度比)	110%	113%	128%	105%	109%	122%	117%	125%	103%	102%	137%	125%	116%	116%

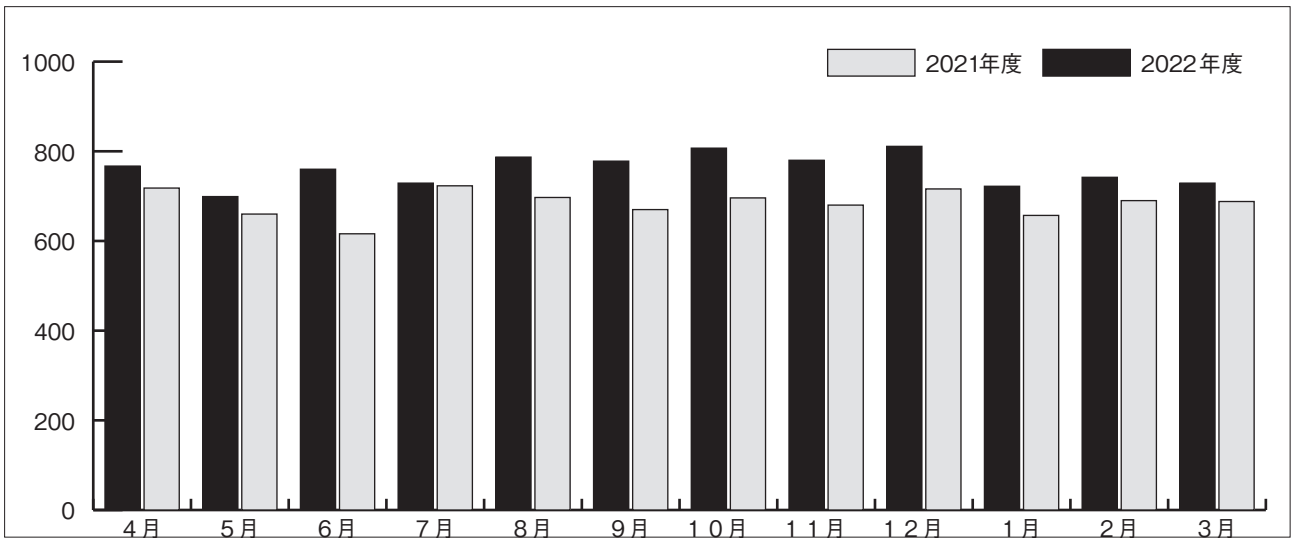
年度平均値	食数	食材料費	特別食比率	栄養指導件数
2022年度	22211	¥759	50.5%	276
2021年度	23126	¥684	40.4%	238



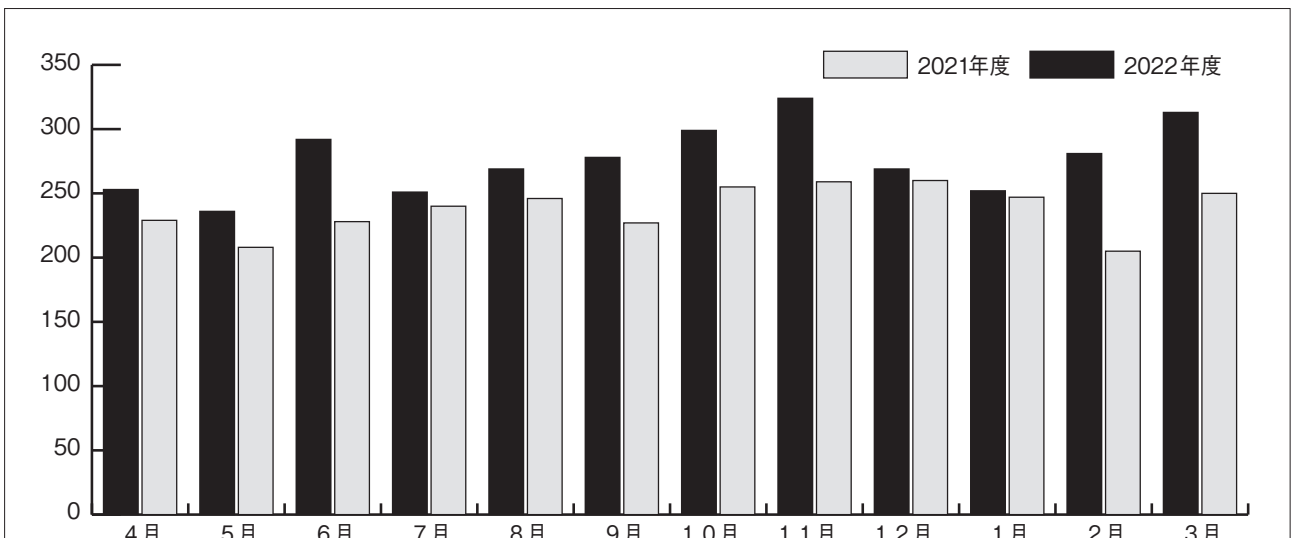
食数



食材料費



栄養指導件数



# リハビリテーション課

課長：向井 庸

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

理学療法士	25名
作業療法士	11名
言語聴覚士	5名(アルバイト1名含む)
リハビリ助手	1名

## 運営方針

地域住民のために急性期を中心としたリハビリテーション・サービスを提供し、健康と自己実現に貢献する。

コロナウイルスによる院内クラスターに対応した。感染拡大時の1療法士、1病棟担当制によるリハビリ介入制限の弊害に対して、複数病棟リハビリ介入の条件を整理し病院の承認を受けて運用した。

脳血管疾患リハビリ対象患者が減少し、運動器疾患リハビリが増加している。

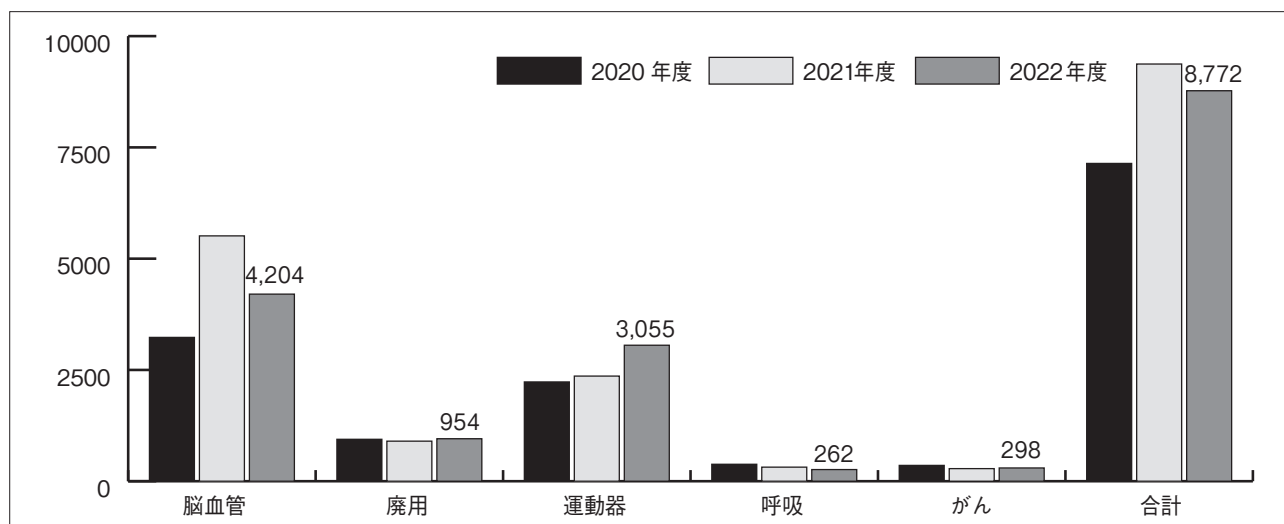
1～3年目スタッフへの育成シートを導入し、運用することができた。2022年度に当院リハビリテーション課で実習を受けた学生が、2023年度採用試験エントリーにつながった。

## 実績

対応指示件数 (摂食機能療法指示含む)

	2020年度	2021年度	2022年度
理学	2,368	2,928	2,748
作業	1,319	1,308	1,326
言語	822	1,059	846
計	4,509	5,295	4,920

疾患別リハビリ単位数 (月平均の年度比較)



# 臨床工学室

課長：物江 浩樹

## 人員構成 (2022年4月1日時点 括弧内:医籍)

臨床工学技士 19名  
うち 認定血液浄化臨床工学技士  
認定集中治療臨床工学技士  
認定医療機器管理臨床工学技士  
透析技術認定士  
3学会合同呼吸療法認定士  
臨床ME 専門認定士  
消化器内視鏡技師  
臨床検査技師  
心血管インターベンション技師  
CPAP療法士 など

## 運営方針

医療機器を介し、利用者にとって最大限のベネフィットを提供する

1. 医療機器の機能を最大限に活用し、質の高い医療サービスを提供する
2. 医療機器を安全に使用できる環境を構築し、安全な医療サービスを提供する

## 業務内容

1. 生命維持管理装置を含む医療機器の保守点検
2. 生命維持管理装置を含む医療機器の操作及び介助業務
3. 医療機器の安全使用のための研修業務
4. 臨床補助業務

## 2022年度総括

### 1. 新たな取り組み

CKD 外来でのシャントエコー業務、新しく導入した自己血回収装置の操作及び保守管理業務を開始した。修理が多い医療機器の搬送・保管時の運用を見直し、安定に稼働できるように努めた。他施設とのオンラインミーティングを定期的に開催し、業務改善に繋がる意見交換を

行った。

### 2. 人材育成

- ・シャントエコー及びエコー下穿刺者 (3名)
- ・内視鏡 ERCP 直接介助者 (2名)
- ・心臓アブレーション業務 (2名)

### 3. 災害対策

- ・防災対策の一環として各分野でのアクションカードの作成を行った。

## 実績

表.1 直接介助業務件数

項目		2021 年度(件)	2022 年度(件)	前年度比 (%)
消化器内視鏡	ERCP	205	171	83
	検査・治療	2,982	2,807	94
心臓カテーテル (大血管含む)	EVAR	3	12	400
	検査・治療	484	483	99
脳血管カテーテル	検査・治療	157	140	89

表.2 ペースメーカー検査件数

項目	2021 年度(件)	2022 年度(件)	前年度比 (%)
ペースメーカー検査 (外来)	338	357	105
ペースメーカー検査 (遠隔モニタリング)	1,245	1,494	120

表.3 医療機器保守件数

項目	2021 年度(件)	2022 年度(件)	前年度比 (%)
定期点検	730	753	103
日常点検	26,045	29,704	114
人工呼吸器使用中点検	758	1094	144

表.4 医療機器研修件数 (臨床工学室主催)

項目	2021 年度(件)	2022 年度(件)	前年度比 (%)
医療機器関連(eラーニング含む)	16	26	162

事務部 2022年度 実績報告

職場名称	人員構成 (2022年4月時点)	業務内容	2022年度総括
医療情報管理課	課長 1名 課長補佐 1名 外来医事係 3名 入院医事係 6.5名 情報システム係 3名 診療録管理室 3.5名 エルダー 1名 (委託・派遣除く)	・外来医事係：外来受付、外来会計計算 ・外来診療報酬請求、予約変更受付等の業務 ・入院医事係：入院受付、DPC分類コーディング、入院会計計算・入院診療報酬請求等の業務 ・情報システム係：電子カルテ等の各種システム保守管理、データ抽出等の業務 ・診療録管理室：診療録の管理・点検、がん登録業務、DPCデータ作成管理、スキャナーセンター運営等の業務 ・課全体：施設基準管理、診療情報分析等の業務、増床対応	・新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取り扱い対応 ・適時調査対応 ・2022年診療報酬改定(4月10月)対応 ・施設基準監査 ・実習生受け入れ ・地域包括ケア施設基準届出 ・医事業務として、請求止めや保留、査定返戻などの適正化
経理課	一般会計 3名 支払窓口 5名 (内訳) 常勤職員 5名 非常勤職員 3名	・出納業務 ・月次、年次決算業務 ・予算管理 ・患者自己負担金の授受 ・資金調達事務 ・資産保全業務(登記事務)	【特記】 ・10月 経理課長人事異動 ・11月 退職に伴う採用(1名) ・11月 簡易原価計算書作成(共働) ・02月 消費税改正対応(共働) 【通年コロナ対応】 ・スクリーニング(共働) ・ワクチン接種(共働) ・入院前LAMP検体採取 ・面会受付補助(3月から) ・補助金処理(共働)
施設資材管理課	課長 1名 資材係 4名 施設係 3名	■資材係 院内のあらゆる『もの』に関する管理全般(予算管理、購入管理、在庫管理) ■施設係 施設管理業務 建築物、電気、空調設備、給排水 防災、医療ガス、環境設備管理業務 増改築・改修工事計画に関わる業務 ・工程、予算、図面、既存改修調整	■主な備品整備実績 X線TV装置、64列CT、自動血球分析装置、超音波診断装置、手術台 他 ■主な施設管理実績 ○エネルギー使用量前年度比 電気 97.3% ガス 99.9% 灯油 100.2% ■改修工事等実績 ○病棟Ns系統エアコン更新工事 ○既存棟LED更新計画立案
総合企画室	室長 1名 課員 2名	・病院経営分析 ・経営向上に資する業務 ・予算作成 ・病院中期事業計画の策定 ・横浜市輪番病院事業および疾患別救急医療体制にかかる業務 ・新型コロナウイルス感染症に関連した業務(院内の感染予防対策、診療対策、行政との調整、行政からの新規事業の受託、新規事業の運用構築、補助金申請・実績管理 等)	・診療部長と患者数増加のための重要指標を設定し、達成のために関連部署とともに様々なアクションを実行した ・毎週火曜日の幹部連絡会にて各診療科の状況を共有する機会を設けた その情報を元に病院と診療科で経営に対する意識のすり合わせを行った ・新型コロナウイルス感染症に関連した業務に感染管理委員会と協働して対応した ・新型コロナウイルス感染症に関連した補助金を漏れなく、遅滞なく申請した ・2022年9月13日開催の聖隷横浜病院 市民公開講座の事務局を務めた
総務課	課長 1名 課長補佐 1名 係長 1名 課員 7名	・人事(採用活動、実習受け入れ) ・労務(給与全般、社会保険) ・庶務(補助金、施設基準、免許管理、院内保育園管理など) ・広報(対外的な広報、患者サービス、イベントに関する業務) ・医局事務、電話交換、事務当直	・引っ越し、結婚などに伴う、身上異動届の電子化を実施 ・病院長交代などに伴う、施設基準など各種届出を実施 ・コロナの状況に合わせた施設基準届出と管理を実施 ・YouTubeを利用したオンライン市民公開講座を隔月開催

# 医師臨床研修委員会

委員長名：新村 剛透

## 開催実績

開催回数：年 12 回

※内、「医師卒後臨床研修管理委員会  
(外部委員招聘の会議)」3 回を含む

定例開催日：毎月第 2 週水曜日

## 目標・開催目的

初期臨床研修医の研修内容をさらに向上し、より優秀かつチーム医療を大切にする人材の確保および育成を図る。

初期臨床研修人気地区である横浜において、選ばれ続ける病院となり、募集定員の充足を継続する。

## 2022年度総括

### ●医師臨床研修委員会

(院内会議)

9 回開催

2022 年 4 月 13 日

2022 年 5 月 11 日

2022 年 7 月 13 日

2022 年 8 月 10 日 (メール会議)

2022 年 9 月 14 日

2022 年 11 月 9 日

2022 年 12 月 14 日

2023 年 1 月 11 日

2023 年 2 月 8 日

### ●医師卒後臨床研修管理委員会

(外部委員招聘の拡大会議)

3 回開催

2022 年 6 月 8 日 (期首・ハイブリッド会議)

2022 年 10 月 12 日 (中間・ハイブリッド会議)

2023 年 3 月 8 日 (期末・ハイブリッド会議)

### ●研修全般

今年度もコロナ禍の影響は続いており、外部委

員を招聘する管理委員会は Web を利用したハイブリッド会議となった。各学会への参加・発表および院外の対面勉強会も減少傾向のままであったが、当院の内科専門医研修プログラム管理委員会が主催する研修セミナー (全 9 回) に参加するなどして、診療科の基礎や専門的な知識を学ぶことができた。

剖検数も各科担当医の協力により年間 4 件となり、病理診断科 末松医師に協力していただき CPC を 4 回実施できた。また、臨床・病理症例検討会も膠原病・リウマチ内科 山田医師に協力していただき 1 回開催することができ、2021 年度採用研修医 (5 名) 全員が、修了要件である病理症例を経験することができた。

2022 年度も 5 名全員が無事初期臨床研修を修了することができた。

### ●採用活動

コロナ禍の影響で病院見学の一部受け入れを中止せざるを得ない状況であったが、年度を通じて 112 名と多くの見学者を受け入れた。また、過去最高となる 45 名の採用試験受験者を確保することができ、結果的に募集定員の 5 名をマッチングで充足することができた。

### ●第三者機能評価の受審

2022 年度は、JCEP (卒後臨床研修評価機構) 第三者評価書面調査の受審があり、前回の指摘事項であった (退院サマリ作成 1 週間以内 100%、IA レポート作成率向上) を委員会で月次報告する等改善を行い、2024 年 4 月 1 日付で認定を受けることができた。

## 2023年度目標

### ●研修医向け勉強会参加の継続と参加率増加

臨床・病理症例検討会を、内科系だけでなく、外科系やその他の診療科の医師にも協力していただき、広く症例が報告でき、院内の診療科や年代などの垣根を超えた教育の場として活用できるよう病院の公式行事としていく。

### ●後期研修までイメージできる広報の刷新

初期研修医あるいは採用試験を控えた医学生に当院の後期研修まで視野に入れた研修先として選択してもらえるよう、ホームページや各メディアに掲載している情報の充実を図る。

# 医療ガス設備安全委員会

委員長名：木下 真弓

## 開催実績

開催回数：年1回  
定例開催日：不定期

## 目標・開催目的

医療で供するガス及びガス設備の安全を確保し、医療ガスの安全な取り扱いと正しい基礎知識の普及活動の実践

## 2022年度総括

### 【活動報告】

#### 保安講習

医療ガス設備やボンベの安全な取り扱い等の保安講習を関連職員対象に実施

医療ガス設備取り扱い講義（対象：新人看護師）

実施日：2022年4月21日（木）

内 容：医療ガス取り扱い方法

#### 医療ガス設備講習会の開催

（関係職員対象：アンケート機能）

期 間：2023年3月23日（木）～3月31日（金）

内 容：医療ガス取り扱い方法

参加率：（2021年度 44% 2022年度 54%）

#### 医療ガス設備定期保守点検について

##### 点検実施日

4月26日～28日 [12ヶ月点検]

7月28日～30日 [3か月点検]

10月12日～14日 [6か月点検]

1月11日～13日 [3か月点検]

病棟圧縮空気供給装置の検討

シャットオフバルブにおける操作ルールの見直し



# 衛生委員会

委員長名：兼子 友里

## 開催実績

開催回数：年 12 回

定例開催日：毎月第 1 週水曜日

## 目標・開催目的

- ①職員健診受診率 100%の維持
- ②職員本人の健康意識向上のための取り組み
- ③メンタルヘルスケアへの取り組みの継続
- ④労働環境改善のための活動
- ⑤時間外労働の上限規制に対応した取り組み
- ⑥年次有給休暇の確実な取得に係る取り組み

## 2022年度総括

- ①職員健康診断・特殊健康診断の実施
  - 夏 2022 年 4 月～ 5 月
  - 冬 2022 年 10 月
  - 長期休職者・病欠者を除く  
(ドック受診者含める)
- ②職員に対する予防接種の実施
  - HBワクチン
    - 1 回目接種月：2022 年 7 月～ 8 月
    - 接種者：26 名
    - 2 回目接種月：2022 年 8 月～ 9 月
    - 接種者：21 名
    - 3 回目接種月：2023 年 1 月～ 2 月
    - 接種者：21 名
  - 風疹・麻疹ワクチン
    - 接種月：2022 年 7 月
    - 接種者：38 名
  - インフルエンザワクチン
    - 接種月：2022 年 10 月～ 12 月
    - 接種者：646 名
  - T-spot 検査
    - 医師・研修医・看護師の新入職員全員に対し  
て実施 受検者：47 名

その他、当院ならびに横浜エデンの園、聖隷藤沢ウェルフェアタウンなどの職員に対して新型コロナウイルスワクチン接種を実施

- ③職場巡視
  - 巡視記録を作成。
  - 設備故障や棚の整理整頓の指導など、職場環境の改善などに努めている。
- ④メンタルヘルスケア担当者会議の開催
  - 衛生委員会内にメンタルヘルスケア担当者を置き、職員のメンタルヘルスを推進するため開催している。ストレスチェックの結果分析、メンタル不調者の情報共有とサポート体制の検討を実施している。
- ⑤新卒入職者対象のストレスマネジメント研修、体験カウンセリングの実施
  - 対象者：2022 年度新卒入職者、異動者、中途採用者
  - ストレスマネジメント研修
    - 2022 年 5 月 26 日
    - 参加人数：29 名（2022 年度新卒）
  - 体験カウンセリング
    - 2022 年 5 月 12 日より 1 人 15 分程度
    - 参加人数：36 名
- ⑥全職場におけるノー残業デイ実施
  - 毎月末に各職場より提出されるノー残業デイ報告書の取りまとめと報告。
  - 各職員が毎月 1 日以上設けることを目標としている。
- ⑦時間外労働の上限規制への対応
  - 毎月の時間外労働時間が 30 時間を超えた職員を委員会で把握。
  - 年間 360 時間以内を目標に各職場への働きかけを実施。
  - 36 協定特別条項（年 720 時間未満、月 100 時間未満）違反の該当者なし。
  - 月 45 時間以上が年 6 回を超えた職員が 1 名あり。
  - 職場長と原因、今後の対処については確認し衛生委員会でも共有している。

⑧年次有給休暇の確実な取得への対応

有休消化実績表を活用し、職員の有休消化状況を把握。有休取得義務対象者について、年間取得数が5日未満の該当者なし。

2023年度目標

- ①職員健診受診率 100%の維持
- ②職員本人の健康意識向上のための取り組み
- ③メンタルヘルスケアへの取り組みの継続
- ④労働環境改善のための活動
- ⑤時間外労働の上限規制に対応した取り組み
- ⑥年次有給休暇の確実な取得に係る取り組み

# 栄養委員会

委員長名：永井 啓之

## 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：奇数月第4週木曜

## 目標・開催目的

個々の適切な栄養管理と食事提供のために、食事療養の内容及び安全な食事の提供方法について検討を行う。

## 2022年度総括

1. 食事・栄養関連実績報告
2. 栄養課内発生 of IA レポート報告と分析
3. 嗜好調査の結果報告
4. 残食量調査の結果報告
5. 検食の実施
6. 病棟掲示メニュー表の改訂  
2022年9月より、献立の料理名・料理写真に加え、アレルギー表示を記載したメニュー表に変更を行った。
7. とりみ剤の変更  
2022年8月より、病棟で使用するとりみ剤をソフティア1SOLからソフティアSに採用変更。価格が低下し、牛乳やメイバランスなどにもとりみがつきやすい商品となった。
8. 劣化・廃番に伴う食器（ご飯茶碗）の新規購入
9. 食品成分表改定（八訂）に伴う、食事提供量の変更  
食品成分表八訂にてエネルギー算出方法に変更があったことにより、食品のエネルギー量が全体的に低下する傾向にあったため、2022年9月より食事全体量を増やし栄養成分調整を行った。

## 2023年度目標

- ・他部署と連携し、食事提供における安全性を保持
- ・IA レポートの分析と対策検討
- ・検食簿の意見を反映した食事提供
- ・より良い食事サービス提供につながる嗜好調査の実施

# 化学療法委員会

委員長名：野澤 聡志

## 開催実績

開催回数：年9回

定例開催日：毎月第2週火曜日

## 目標・開催目的

化学療法を安全かつ適正に推進することを目的とし、レジメンの妥当性の評価や承認、治療計画書の作成、化学療法運用方法の検討、スタッフへの啓発・教育などを行う

## 2022年度総括

申請レジメンの検討や承認、血管外漏出の発生報告・検討について年間を通し行った。化学療法を施行した診療科は外科、乳腺科、呼吸器外科、消化器内科、泌尿器科、脳神経外科、膠原病・リウマチ内科の計7科であった。

その他に下記の取り組みを行った。

- ・研修医向けに化学療法勉強会開催した。

- ・化学療法マニュアルの改訂作業を開始した。

## 2023年度目標

- ・化学療法マニュアル 2022 年度改訂版を完成する。
- ・免疫チェックポイント阻害薬の適応拡大・採用レジメン増に伴い、免疫関連有害事象対応運用の再検討を行う。

## 実績

	通常申請	患者限定申請	既存レジメン改訂
レジメン承認件数	10 件 (11)	1 件 (0)	2 件 (15)

	入院	外来	入院外来合計	前年比
化学療法施行件数	194 件 (146)	1,459 件 (1,601)	1,653 件 (1,747)	94.6%
化学療法混注件数	282 件 (209)	1,953 件 (2,464)	2,235 件 (2,673)	83.6%

( ) は前年値

# 感染対策委員会

委員長名：野澤 聡志

## 開催実績

開催回数：年 12 回  
定例開催日：毎月第 4 週水曜日

## 目標・開催目的

院内感染予防及び感染防止対策の充実と強化を図る

## 2022年度総括

### 1 職員対象院内感染対策勉強会開催

第 1 回：「新型コロナウイルス感染症対策  
～当院の取り組み～」(受講率 91.9%)

第 2 回：「クロストリジオイデス・ディフィシ  
ル (CD) 感染症」(受講率 95.9%)

### 2 月毎の検出菌分離状況・耐性菌検出状況・結核 陽性患者の把握

### 3 特殊抗菌薬使用状況

1) 想定される感染症に対して必要な培養  
を採取している 82.1%

2) 培養の結果に基づいて適切な抗菌薬が  
選択されている 58.3%

3) 抗菌薬投与中に、継続の妥当性につい  
て評価が行われている 78.0%

### 4 針刺し切創及び血液体液曝露状況の把握と対策

・針刺し切創 24 件、皮膚粘膜曝露 1 件

### 5 手指衛生実施回数 8.47 回 / 患者日 (病棟)、 28.01 回 / 患者日 (急性期ケアユニット)

### 6 ICT/AST ラウンドの実施 (週 1 回)

・環境ラウンド

・抗菌薬適正使用ラウンド 497 件

・特殊抗菌薬使用者数 519 件

うち AST 介入件数 195 件 (37.5%)

・全抗菌薬に対して AST が介入を行い、  
カルテに記載した件数 127 件

### 7 血液培養 2 セット率 99.1%

### 8 横浜市立市民病院との年 4 回の合同カンファレ

ンスに参加した。

9 新型コロナウイルス感染症対策として、各所と  
情報共有を図り、連携して感染防止に努めた。

## 2023年度目標

- ・新型コロナウイルス感染症対策
- ・院内感染防止対策の徹底及び推進
- ・抗菌薬適正使用支援チーム (AST)  
活動充実 ～外来抗菌薬の使用状況介入～
- ・地域との連携を図り、感染対策向上加算 1 を算  
定する
- ・サーベイランス還元情報の活用

# 緩和ケア委員会

委員長名：木下 真弓

## 開催実績

年 10 回  
毎月第 2 週月曜日

## 目標・開催目的

- 緩和ケア病棟へのスムーズな移行
- 心不全チームとの連携強化
- 一般市民・医療者・研修医への緩和ケアセミナーの開催
- 緩和ケアマニュアルの改訂

## 2022年度総括

2020 年 7 月に緩和ケア病棟が開棟したことにより、2021 年度は一般病棟から緩和ケアチームへの依頼件数が減少したが、2022 年度は介入依頼が増えた。依頼内容は緩和ケア病棟の申込が多く、一般病棟で緩和ケアチームが介入した後、34 名の患者が緩和ケア病棟に入棟した。さらに、緩和ケア外来を利用する患者も増加し、年間 87 名の患者が緩和ケア外来を利用した。コロナ感染症の影響により市民や職員対象の緩和ケアセミナーが今年度も開催できなかったため、次年度は開催を検討する。

## 2023年度目標

- 緩和ケア病棟へのスムーズな移行
- 心不全チームとの連携強化
- 一般市民・医療者・研修医への緩和ケアセミナーの開催
- 緩和ケアマニュアルの改訂

## 実績

[入院患者緩和ケアコンサルテーション実績]

依頼件数		61
区分	がん	60
	非がん	1
がん患者・非がん患者の症状		
依頼の時期	診断から初期治療前	6
	がん治療中	14
	積極的がん治療終了後	40
依頼時の PS	0	0
	1	3
	2	18
	3	20
	4	19
転帰	終了（生存）	0
	退院（うち在宅ケア導入）	23(15)
	死亡退院	2
	緩和ケア病棟転院	34
	その他の転院	1
	入院中	0

非がん患者について		
病名	神経疾患	0
	呼吸器疾患	0
	循環器疾患	1
	腎疾患	0
	消化器疾患	0
	膠原病・免疫疾患	0
	内分泌・代謝・血液疾患	0
	感染性疾患	0
	慢性疼痛	0
	その他	0
がん患者・非がん患者の症状		
依頼内容	疼痛	47
	疼痛以外の身体症状	27
	精神症状	2
	家族ケア	5
	意思決定支援	7
	地域との連携 / 退院支援	8
	その他（緩和ケア病棟依頼）	32



# 救急委員会

委員長名：芦田 和博

## 開催実績

開催回数：年 11 回

定例開催日：毎月第 4 週月曜日

## 目標・開催目的

聖隷横浜病院における、救急患者の受入強化、院内急変対応の強化など、救急業務全般の効率化を検討することを目的として開催する。

## 2022年度総括

救急委員会が現場に直結する委員会であることを鑑み、診療現場に対する問題点には迅速に改善するよう取り組んだ。特にコードブルー症例においては feedback を強化した。

### ○救急車受入強化対策

1. 搬送患者の報告書を作成し各救急隊へ持参。  
その際、意見・要望を把握し委員会の議題に取り上げ改善を行った。
2. 救急車の受入状況について月次で情報分析を図った。
- 3) オンラインにて教育講演会の実施。

### ○院内急変対応の強化

1. 院内救急対応システム（RRS）の活動  
入院患者の急変を早期に気づき対応できるように、特定行為研修を履修した認定看護師が対応。  
計 126 回(月平均 10.5 回)の要請があり、う

ち 82% の患者が軽快した。

患者急変におけるアセスメントの一つとして NEWS の記載を促進し、記載率も委員会内で

## 2. 救急救命士の業務拡充

CPR コーチ (急変対応時の質の管理役)

JTAS による救急患者のトリアージ実施。

診療・処置介助、患者の問診実施。

BLS 講習の実施 (対面 6 回 /e-learning 2 回)

防災・搬送訓練、急変対応勉強会の開催。

救急カートの管理・点検。

### ○特別顧問 相馬一亥 先生

2015 年度より特別顧問として着任。救急体制や救急救命士の教育など幅広い見地からご助言・評価をいただいた。

### ○ICLS 講習会

3 回開催し院内より 14 名が受講。

### ○救急フォーラム

2 回開催 (オンライン) し、合計 241 名の隊員が受講。

### ○コードブルー対応

7 件の要請があり、各々事例について報告を行い適切な対応を検討した。

## 2023年度目標

### 救急診療体制の充実

- 1 救急医療の体制を充実し地域医療への貢献  
救急車受け入れ：年間 4,500
- 2 「急性心疾患」、「脳血管疾患」、  
「外傷 (整形外科) 救急」の受け入れ体制の強化

## 実績

### 救急車受入実績

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
2017年度	415	387	371	453	429	396	412	423	500	560	458	445	5,249
2018年度	418	399	410	520	447	400	477	418	501	558	390	388	5,326
2019年度	430	396	387	452	536	484	462	479	521	526	360	324	5,357
2020年度	279	274	261	254	325	285	334	339	397	366	357	343	3,814
2021年度	308	330	318	377	404	346	381	356	394	459	418	453	4,544
2022年度	312	365	362	494	331	296	298	313	343	406	280	272	4,072

---

---

# クリニカルパス委員会

委員長名：田渕 かおり

---

---

## 開催実績

開催回数：年 11 回

定例開催日：毎月第 3 週月曜日

## 目標・開催目的

疾患に対して科学的根拠に基づいた質の高い水準で保たれた医療を提供できるクリニカルパスの作成を行っていくとともに、情報を共有化しチーム医療を実現、患者および家族と医療を提供していく中での問題点の共有、診療報酬の適正化を図っていくためにクリニカルパスの審査や普及に向けた取り組みを行う。

## 2022年度総括

1. クリニカルパスの導入支援。心臓血管センター内科に運用開始の支援を行い新たに 1 種類のクリニカルパスが運用を開始している。
2. 院内の関係部署に協力を依頼し、クリニカルパス運用マニュアルの更新、新規作成を行った。
3. バリエーションの集計を実施した。クリニカルパスの精度を高めるために 3 月に 1 回バリエーションの集計結果を報告している。また、集計結果は院内で共有されている。
4. クリニカルパス関連統計の分析を行った。年間のクリニカルパス使用率推移比較、クリニカルパス使用傾向分析などを行った。
5. 2022 年度は、クリニカルパス使用患者数 2321 名(入院患者数 5434 名)使用率 42.7%であった。(参考：20 年度 39.9%、21 年度 40.4%)

## 2023年度目標

- ・ バリエーションの分析  
昨年度に引き続きバリエーションの集計を行う。集計結果を分析・報告してパスの精度を高める。

- ・ パス使用率の向上（使用率 40～50%）  
バリエーションの分析を行い、クリニカルパスの精度を上げて使用率 40% から 50% を目指す。
- ・ パスの整理・見直し  
電子カルテ内の患者用パス含めた、使用状況・内容の確認・クリニカルパスの整理を行う。

# 血液浄化センター委員会

委員長名：物江 浩樹

## 開催実績

開催回数：年 12 回

定例開催日：毎月第 2 週火曜日

## 目標・開催目的

血液浄化センター委員会（以下委員会）は、血液浄化センターの運営を円滑にするため、また人工腎臓を用いた治療（以下血液浄化療法）に関する機器および使用される透析液の安全管理を行う事を目的に設置されるものである。

## 2022年度総括

外来維持透析患者 50 名目標とし、透析コンソールの安定稼働を目指し年度内に目標達成した。外来維持透析、入院透析、新規透析導入において昨年を上回る件数となった。PD 導入 2 事例（2 名以上の PD 患者の獲得）により次年度導入期加算 2 の取得を目指したが APD 導入 1 名であった。腎移植は 1 件あり引き続き導入期加算 2 の取得を目指していく。

新型コロナウイルス感染症罹患者は東 2 病棟での出張透析とし、血液浄化センター内感染拡大はなかった。

### 透析機器安全管理委員会

- ・徹底した水質管理を実施し、超純粋透析液の基準を維持した。
- ・定期的に機器の保守点検を実施し、機器の安全性の確保に努めた。
- ・自施設で生菌測定ができる体制を構築した。

## 2023年度目標

- ・外来維持透析患者 55 名を目標とし、透析コンソールの安定稼働を目指す。

- ・ PD 導入 2 事例（2 名以上の PD 患者の獲得）により引き続き導入期加算 2 の取得を目指す。

## 実績

対応指示件数（摂食機能療法指示含む）

	2020年度	2021年度	2022年度
外来維持透析件数(件/年)	6,293	5,806	6,992
入院透析件数(件/年)	276	980	1,531
出張透析件数(件/年)	73	142	232
合計(件/年)	6,642	6,928	8,755
外来維持患者数(3月末)	40	44	50
外来維持患者数(平均)	41.3	39.4	44
透析導入件数(件/年)	1	18	23

---

---

# 研修委員会

委員長名：中村 真弓

---

---

## 開催実績

開催回数：年 12 回

定例開催日：毎月第 4 週火曜日

## 目標・開催目的

病院理念を基盤に、職員一人ひとりが、チームおよび組織の中で自己の役割を自覚し、立案した目標に対して責任をもって遂行することができ、よりよい医療を提供できるようになることを目的に教育活動（階層別研修）を行う。

## 2022年度総括

<新人職員研修>

2022 年 6 月 17 日

研修参加者：研修生 29 名

<2 年目職員研修>

第 1 回：2022 年 7 月 15 日

第 2 回：2023 年 2 月 17 日

研修参加者：研修生合計 24 名

<中堅職員研修>

9 月 15 日～9 月 16 日

10 月 14 日、11 月 11 日、2023 年 2 月 8 日

研修参加者：研修生 11 名

<アドバンス研修>

2022 年 11 月 18 日

研修参加者：研修生 8 名

- ・各階層統一で学習の循環過程を常に意識し、日常の体験を通して自分や他者との関わり方に気づき、自分やチームのありようを考えられる環境を提案した。また、階層別に研修生の特性を考慮したプログラムを構成することで、自職場に立ち返った時に役割や将来を各階層で落とし

込めるよう努めた。

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2 年目職員研修の第 1 回目が半日で中止となった。年度内に追加で半日開催ができず次年度に半日開催予定とした。

## 2023年度目標

病院理念を常に意識し、変わり続ける人材の特性と、社会のありように応じて、より効果的な研修内容を探求する。さらに、研修を行う委員自身のスキル研鑽にも取り組む。

## 減免・無料低額診療委員会

委員長名：山本 功二

### 開催実績

開催回数：年 6 回  
定例開催日：毎月第 2 週火曜日

### 目標・開催目的

生活困窮者の医療費の一部または全額を免除し、必要な医療を受け自立した日常生活を営めるよう支援する。

### 2022年度総括

今年度の減免率は 10% だった。ソーシャルワーカーが介入し無料低額診療事業の対象となったのは 4 件であった。内 3 件が生活保護制度につながるまでの支援となっており切れ目ない支援ができた。また、区役所生活困窮者支援より「無料低額診療事業 連絡票」を利用した相談が 1 件あった。患者配布用チラシを制度の目的、利用の流れが分かりやすいよう変更した。

今後は、無料低額診療事業の認知度向上にむけて院内外への発信方法を検討していきたい。

### 2023年度目標

- ・無料低額診療事業を行うための条件となる基準を全て満たし、当該事業における減免実績が患者総数の 10% 以上となるよう努める
- ・院内外に対する「無料低額診療事業」について周知方法について検討していく

## 広報委員会

委員長名：齋藤 徹

### 開催実績

開催回数：年 12 回  
定例開催日：毎月第 2 週金曜日

### 目標・開催目的

利用者および職員に当院を理解していただき、また当院と利用者および職員をつなぐものとしての広報活動を目的とし広報委員会を開催する。

### 2022年度総括

- ・季刊誌「聖隷よこはま」(No.136～139) を年 4 回、各 2,500 部発行
- ・外来診療担当表を毎月 1 日に 3,000 部発行
- ・季刊誌および外来診療担当表の企画立案・執筆・校正作業
- ・2021 年度年報（第 13 号）43 部 2021 年度より近隣医療機関への発送廃止
- ・ホームページの「聖隷よこはま～スタッフブログ～」の継続更新、アクセス解析およびモバイル利用件数の把握（毎月）
- ・社内報「SEIREI」の企画立案・執筆
- ・院内掲示管理（年 1 回）

### 2023年度目標

- ・広報活動を通し聖隷横浜病院のファンを院内・院外に増やし、「集患」へ繋げる

---

---

# 購入委員会

委員長名：山本 功二

---

---

対効果、使用満足度、廉価性、標準化)に基づいた審議を行っていく。

## 開催実績

開催回数：年 12 回

定例開催日：毎月第 4 週木曜日

## 目標・開催目的

3 千円以上 20 万円未満の医療消耗備品・消耗備品の購買及び設備修繕における妥当性・必要性・公平性・汎用性等を、多職種からの考察をもって適正に判断するために行う

## 2022年度総括

### ○医療消耗備品の部

申請総数 300 件のうち新規は 61 件、増数は 63 件、消耗交換は 176 件の申請であった。

新規の多くは、2023 年度開始となる心臓リハビリテーションに必要な機材の購入であり、全体の 4 分の 1 程度を占めた。消耗交換の多くは、破損や老朽化による交換であり、交換対象となった器械の中には国立病院時代から使用している器械類も散見された。

また、上記件数とは別に新型コロナウイルスなどの感染防止を目的とした補助金を利用し、6 件の購入を行った。

### ○消耗備品の部

申請総数 149 件のうち新規は 56 件、増数は 31 件、消耗交換は 62 件の申請であった。

また、上記件数とは別に新型コロナウイルスなどの感染防止を目的とした補助金を利用し、4 件の購入を行った。

## 2023年度目標

経年劣化が進んでいる備品の更新検討を計画的に行い、購入の価値分析（必要性、効用性、費用



# 呼吸ケアサポートチーム (RST)

委員長名：大内 基史

## 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：不定期第1週火曜日

## 目標・開催目的

院内の人工呼吸器装着患者に対して、安全で適正に呼吸管理できることを前提としたラウンドと人工呼吸器からの早期離脱を目指すために現場でアドバイスすることを目標とした。また患者の苦痛が少ない呼吸に関する治療やケア、最新の治療や器具に関して検討する会とする。

## 2022年度総括

院内の人工呼吸器装着患者は ACU にほぼ搬送するため、ACU において主にラウンドを実施。ARDS 患者に関しては呼吸器内科医師との協働で離脱への対応を行った。また、脳外科における人工呼吸器装着患者は SCU で患者を管理しているため、SCU における離脱等の評価と実践も行った。

2022 年度は、敗血症からの ARDS により離脱困難患者も多く、人工呼吸器装着期間も長く、VAP (人工呼吸器関連肺炎:ventilator-associated pneumonia) 院内発生件数は3件であった。

## 2023年度目標

- ・人工呼吸器使用患者の安全面での注意点や離脱に向けたケアを多職種で提案し、人工呼吸管理における合併症の発生を最小限にする。
- ・最新の治療や器具などを検討し、より安全で安楽な呼吸管理を目指す。

## 実績

RST ラウンド総数	31 回
内離脱成功者	18 名

VAE サーベランス年間集計	
人工呼吸器導入患者数	63 名
述べ人工呼吸器使用日数	767 日
VAC	8 人
IVAC	4 人
PVAP	3 人

# NST 委員会

委員長名：仲戸川 豊

## 開催実績

開催回数：年 4 回

定例開催日：奇数月第 4 週木曜日

## 目標・開催目的

当委員会は NST(栄養サポートチーム)の活動、運営に関する事項の審議や養成セミナー、合同カンファレンスの企画開催など、NST 全体のマネジメントを行う。

## 2022年度総括

### 1. NST セミナーを年 1 回開催

【第 1 回】NST 合同カンファレンス デスクネットアンケート機能での配信にて、症例報告を実施。参加者は 103 名であった。

症例内容は「多職種でカンファレンスを重ね栄養改善した脳出血患者」。西 1 病棟での急性期から、東 1 病棟での回復期までの継続的な栄養介入について報告された。

【第 2 回】消化管周術期の栄養管理

新型コロナウイルス感染拡大のため中止

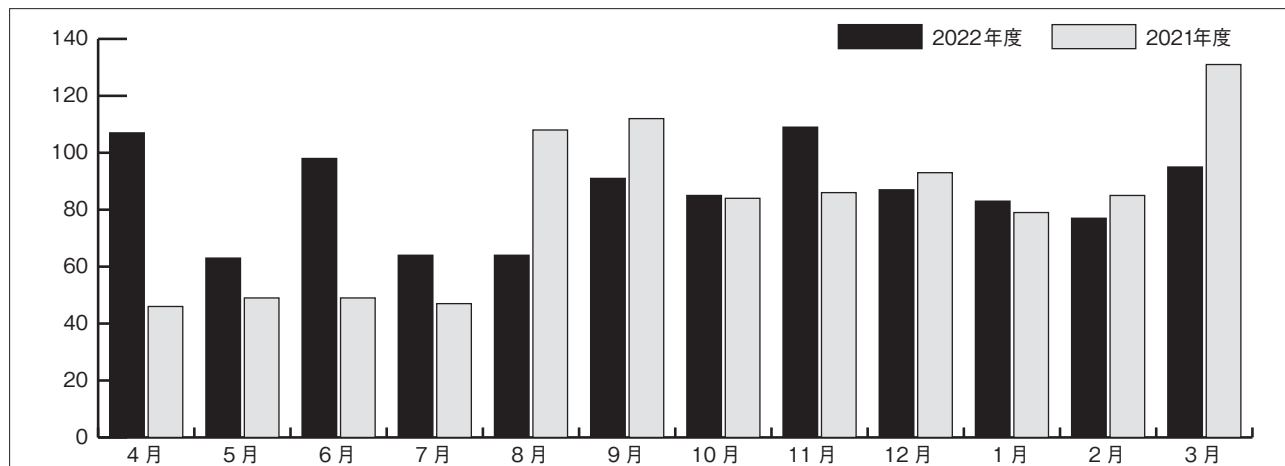
- 2.NST 加算算定病棟での積極的な栄養介入（東 2 病棟・東 3 病棟・西 1 病棟）
- 3.濃厚流動食「リカバリー-K 5」の採用  
濃厚流動食の価格高騰のため、E-7Ⅱの切り替え品としてリカバリー-K5を採用。テトラ・プリズマボトルにすることで、高性能でありながら類似の他製品と比較し価格を抑えられた製品である。
- 4.各種濃厚流動食の検討
  - ・森永 高栄養流動食 MA-ラクフィア 1.5
  - ・森永 消化態流動食 ネクサス ST
  - ・森永 半固形流動食 ラクフィール
  - ・ネスレ アイソカルクリア
  - ・ネスレ アイソカルファイブケア
- 5.NST 稼働施設の認定更新
  - ・日本臨床栄養代謝学会 (JSPEN)
  - ・日本栄養療法推進協議会 (JCNT)

## 2023年度目標

- ・栄養管理にかかわる所定の研修を修了した、常勤医師・看護師・管理栄養士・薬剤師の拡大と各病棟への配置
- ・栄養管理における最先端の知識の普及
- ・より実践に活かしやすい内容の勉強会実施
- ・急性期病棟での早期栄養介入
- ・採用濃厚流動食の見直し

## 実績

### NST 算定件数



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	107	63	98	64	64	91	85	109	87	83	77	95
2021年度	46	49	49	47	108	112	84	86	93	79	85	131

# 褥瘡対策委員会

委員長名：齋藤 徹

## 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月第4週水曜日

## 目標・開催目的

推定褥瘡発生率 1.0%未満、ステージ3以上の褥瘡発生ゼロ、院内褥瘡発生患者数60名以下

## 2022年度総括

2022年度の推定褥瘡発生率は1.59%、褥瘡発生患者数は85名。推定褥瘡発生率は2021年度より上昇したが褥瘡発生患者数は減少した。また、ステージ3以上の褥瘡発生はなかった。医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）の発生率は0.23%と低下した。院内褥瘡発生患者数は減少したが、推定褥瘡発生率が増加した要因は、院内発生した褥瘡の治癒期間が延長したことが考えられる。早期に褥瘡を発見し治療を開始することで褥瘡の治癒期間を短縮し推定発生率の減少へ繋がると考える。また入院時に褥瘡発生リスクを判定し褥瘡発生する要因をもつ患者への予防対策を継続しておこなっていく。「予防できる褥瘡」を発生させないことが課題である。

## 2023年度目標

推定褥瘡発生率 1.0%未満、ステージ3以上の褥瘡発生ゼロ、院内褥瘡発生患者数60名以下

## 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/合計
推定褥瘡発生率全体	1.86	1.78	1.72	1.69	1.58	1.56	0.77	1.35	1.83	2.18	1.30	1.42	1.59
褥瘡保有率全体(%)	5.60	5.64	4.96	4.94	3.15	4.49	2.63	3.57	4.48	5.66	4.97	5.30	4.62
推定褥瘡発生率(褥瘡のみ)	1.38	1.42	1.12	1.57	1.37	1.28	0.77	1.27	1.73	2.02	0.98	1.26	1.35
推定発生率MDRPU(%)	0.481	0.36	0.60	0.12	0.16	0.28	0.00	0.08	0.09	0.16	0.33	0.16	0.2339629
褥瘡院内発生数(人)	7	5	9	4	12	6	6	9	9	4	5	9	85

# 役割分担推進委員会

委員長名：野澤 聡志

## 開催実績

開催回数：年8回

定例開催日：毎月第3週木曜日

## 目標・開催目的

医師および看護職員の負担軽減などを目的として、多職種による役割分担を推進・調整する。

診療支援室が行う医師事務作業補助業務の妥当性を評価・検討する。

## 2022年度総括

診療体制の変更や業務整理を進めていく中で生じる課題について、タスクシェア・タスクシフトの視点を含めて多職種で検討し、安全な医療サービスの提供に努めてきた。また医師・医療従事者の負担軽減計画や看護職の負担家現計画を策定し、目標達成に向けた活動を推進してきた。

- ・新任常勤医師オリエンテーションの実施（3回）
- ・病院勤務医、看護師の負担軽減計画の立案と評価、次年度計画の検討
- ・放射線課スタッフによる検査説明範囲の拡大（患者からの質問や追加説明に応需）
- ・看護師の負担軽減に対し、検査課による心電図の往検対応件数が前年度比1.5倍へ増加
- ・看護部対応のLAMP、ID-NOW入院前検査に対し、予定時間外来院分の検査を一部検査課で実施
- ・リハビリテーション課によるリハビリ総合計画書の説明
- ・臨床工学室（CE）による人工呼吸器使用患者の気管チューブ内吸引実施

# 個人情報管理委員会

委員長名：平野 進

## 開催実績

開催回数：年 12 回

定例開催日：毎月第 2 週木曜日

## 目標・開催目的

個人情報保護法と厚生労働省のガイドラインに基づき定められた聖隷横浜病院個人情報保護方針に従って、個人情報の正しい管理と運用を行うことを目標とする。

## 2022年度総括

個人情報管理委員会では、個人情報の提供（診療情報の開示）に関する審査を随時実施し、個人情報の適正な管理のため、院内システムのセキュリティ対策について検討を行っている。

以下に 2022 年度の主な活動内容を挙げる。

- ・個人情報提供（診療情報の開示）審査
- ・個人情報の取扱いに関するインシデントの報告と対策検討
- ・入職者への個人情報取扱いに関するオリエンテーションの実施
- ・全職員を対象とした個人情報・院内セキュリティ勉強会（e-learning）の実施

2023 年 3 月 6 日～2022 年 3 月 19 日開催『2022 年度個人情報・プライバシー勉強会・ランサムウェアの脅威と個人情報保護対策について～』

- ・迷惑メール、インターネット利用における注意喚起
- ・職員への個人情報保護に対する注意喚起
- ・ファイルサーバなどの活用による USB メモリ利用数の削減の推進
- ・貸出 USB メモリ棚卸し
- ・厚生労働省のガイドラインに準拠した各種規程の改版

2022 年度は全国の病院で「ランサムウェア」によるサイバー攻撃が多発した年だった。当院・事業団においてもセキュリティ対策・個人情報保護の対策を行っているが、さらなる対応が求められる。2023 年度は情報システムの運用を検討する情報システム運営会議などと協力し、サイバー攻撃発生時のシミュレーションを行う。

## 診療情報管理委員会

委員長名：平野 進

### 開催実績

開催回数：年 12 回

定例開催日：毎月第 2 週木曜日

### 目標・開催目的

診療情報管理業務の効率的な運用のために、診療録に関する事項を検討、討議する活動を行い、質の高い診療録の管理および診療記録を用いた適切なインフォームドコンセントを達成することを目標とする。

### 2022年度総括

- ・新規診療記録審査。
- ・インフォームドコンセント成立のための説明書・同意書作成基準の設定
- ・診療記録の量的監査実施と結果報告
- ・診療記録の質的監査実施と結果報告
- ・診療録管理体制加算 1 の算定に向けた取り組み
- ・退院サマリーの退院後 14 日以内記入に向けた取り組み
- ・死亡解剖統計報告
- ・ICD 分類別疾病統計表の作成・報告
- ・適切な診療記録記載の一環として、身体行動制限実施記録の記載方法の変更を行った

### 2023年度目標

- ・病院機能評価受審に向けて診療録の管理等に積極的に取り組んでいく。
- ・診療録管理体制加算 1 の算定条件である退院後 14 日以内の退院サマリー記入率 90% 以上の継続に向けた取り組みを行う。
- ・診療記録の量的・質的監査を実施し、各診療科へ結果報告を行い診療録の規定に基づいた診療記録の質向上を図る。

## 図書委員会

委員長名：河合 慧

### 開催実績

開催回数：年 6 回

定例開催日：偶数月第 3 週木曜日

### 目標・開催目的

- ・図書利用の周知
- ・定期購読雑誌の継続確認
- ・各部署の図書管理
- ・図書の整理

### 2022年度総括

- ・古書の清掃
- ・電子ジャーナルの入れ替えと契約更新
- ・現図書の整理整頓（図書室内の各部署）

### 2023年度目標

- ・ジャーナル以外の書籍の充実化



# 診療報酬適正化委員会

委員長名：波多野 孝史

## 開催実績

開催回数：年 12 回

定例開催日：毎月第 4 週金曜日

## 目標・開催目的

診療報酬請求の適正化を目的として、以下の取組を行う。

- ・ 毎月の返戻・減点・再審査請求の傾向分析
- ・ DPC 出来高差上位・下位事例からの傾向分析
- ・ 適切な DPC コーディングの理解
- ・ 診療報酬制度のより深い理解と適正な請求を推進するための勉強会を開催

## 2022年度総括

- ・ 査定事例を毎月報告・検討し、最新の査定傾向を理解するとともに、多職種視点で査定対策を行い当該診療科に指導および助言を行った。
- ・ 再審査請求事例の検討を強化し、復活率の向上に取り組んだ。  
(提出件数における復活率：2021 年 14.9% → 2022 年度 28.9%)
- ・ DPC コーディング確認の取組みを継続し、部位不明コードについて、10% 未満を維持した。
- ・ 保険診療に関する講習会を下記日程で実施した。  
第 1 回 2022 年 6 月 29 日  
(対面開催)  
「令和 4 年度診療報酬改定の概要」  
第 2 回 2023 年 3 月 1 日～15 日  
(e-Learning 開催)  
「適時調査結果報告と施設基準」  
感染対策の観点から、対面と e-learning それぞれ 1 回ずつ、あわせて年 2 回開催した。

- ・ 査定・返戻傾向を分析し、適正な診療報酬請求を多職種間で検討する。
- ・ 積極的な再審査請求に取り組み、請求復活率の向上を目指す。
- ・ 診療報酬制度の勉強会を開催し、院内へ啓蒙する。
- ・ 令和 6 年度診療報酬改定の情報を収集し、院内へ周知する。
- ・ DPC 制度と傷病名コーディングについて、事例をもとに検討し理解を深める。

## 接遇委員会

委員長名：竹下 宗徳

### 開催実績

開催回数：年9回

定例開催日：毎月第2週木曜日

### 目標・開催目的

職員の接遇マナーを向上させることで、利用して下さる方々の安心感・満足感につなげる。また、職員の快適な職場環境の形成を目的として聖隷横浜病院接遇委員会（以下、委員会）を開催する。

### 2022年度総括

#### 1. 全部門への接遇巡視

2022年度は、新型コロナウイルス感染拡大により1回のみの実施となったが、巡視グループや巡視場所の振り分けを見直して巡視を行い、次回につなげることができた。

#### 2. 接遇だよりの発行

「利用者の声」や職員からの指摘や意見により、改善すべき内容とアドバイスを記載したものや、「接遇マニュアル」より抜粋した内容を記載したものを接遇だよりの発行として月1回配信を実施。親しみやすい内容にこだわった「ワンポイント接遇」や「接遇マニュアル」の抜粋を各部署に回覧掲示することで、接遇を毎月違った内容で定期的に意識してもらえようはたらきかけた。結果、職員から「接遇に対して意識するようになった」「接遇マニュアルを見直す機会になった」という声が上がリ、接遇について考えるきっかけとすることができた。

#### 3. 次回巡視案内の発行

次回巡視の案内を配布し、接遇の巡視への意識を高めてもらうことができた。

2023年度も巡視と接遇だよりと次回巡視案内を継続。また、「接遇マニュアル」を見直し、修正をして、新しい「接遇マニュアル」を2024年度の配布を目指す。全職員が全ての利用者・患者に対する接遇、および職員同士の接遇への理解を深め、相手を気遣った言葉をかけることや、笑顔で接するなど相手の立場に立った行動ができるよう、接遇のスキルを身につけ向上するよう推進していく。

# 病院安全管理委員会

委員長名：大内 基史、波多野 孝史

## 開催実績

開催回数：年 12 回

定例開催日：毎月第 3 週水曜日

## 目標・開催目的

当院利用者の安全性の確保および向上を図るため、医療行為、その他業務における危険性の認知、分析と対策、実行を統合して行う

## 2022年度総括

### 1. 安全管理体制の評価と職員間での共有

- ・ 14 件の事例検討を行い、マニュアルの運用方法や再発防止策などを決定し、職員へ周知した。
- ・ 医療安全マニュアルについて、19 のマニュアル・指針について策定、改訂、廃止を行い、セーフティマネージャーと共有した。
- ・ 医療安全標語の募集を行い、職員へ医療安全への関心を高める取り組みをした。

### 2. 研修実施

e-ラーニング SafetyPlus にて研修を実施し、未受講者に対して資料および確認テストを配布し伝達講習を実施した。

- ・ 職員医療安全研修：

「照合と指差呼称」受講率 98.8%

(対象職員 759 名、受講者 750 名)

- ・ 医薬品安全管理セミナー：

「不眠症の治療薬について」受講率 91.6%

(対象職員 730 名、受講者 669 名)

### 3. 医療安全推進週間の取り組み内容

11 月 20 日～ 26 日を当院の医療安全推進週間とし、保健所検査項目と患者誤認防止対策の確認を目的に職場ラウンドを実施した。今回は新たに「防げるミスの予防策を学ぼう！」と題した診断テスト実施し、自身の傾向を分析しミス

の予防策を学ぶ機会とした。また、前回に引き続き「患者安全 GoodJob アワード」を開催し、職員の安全意識向上に努めた。

### 4. 他施設との連携

横浜保土ヶ谷中央病院（加算 1 連携病院）、育生会横浜病院（加算 2 連携病院）との相互ラウンドを 3 回実施した。

## 2023年度目標

1. 患者誤認事例撲滅
2. 転倒転落に伴う有害事象発生予防対策の整備
3. 急変予測、容態変化への早期対応体制整備
4. 医療安全管理体制の再構築と拡充
5. 院内暴力対策と院内セキュリティ体制の再構築
6. 職員医療安全研修の継続
7. 医療安全対策地域連携加算 1 取得継続

## 防災委員会

委員長名：青井 瑞穂

### 開催実績

開催回数：年5回  
定例開催日：奇数月第2週火曜日

### 目標・開催目的

火災予防及び防災対策の強化を図るとともに職員の防災意識、知識の向上を図る。

### 2022年度総括

- 地域防災活動
  - ・ 保土ヶ谷区自衛消防組織連絡会
  - ・ 保土ヶ谷区・南区通信訓練
  - ・ 南区のぼり旗掲出訓練
  - ・ 神奈川県広域災害医療 (EMIS) 訓練
- 防災訓練
  - ・ 火災訓練  
開催日程：10月18日(火)  
開催時間：15:30～16:00  
訓練内容：夜間想定 B3 病棟ラウンジにて火災発生(初期消火・通報・避難誘導訓練)
  - ・ 地震・火災訓練  
開催日程：3月7日(火)  
開催時間：17:30～18:00  
訓練内容：講演形式(地震・火災時の初動行動)

### 2023年度目標

火災予防および防災対策の強化を図り、大規模災害における業務継続ができる体制および防災計画の検討を行っていく。

## 安全運転委員会

委員長名：青井 瑞穂

### 開催実績

開催回数：年3回  
定例開催日：毎月第2週火曜日

### 目標・開催目的

交通ルールの遵守と正しい交通マナーの周知により安全運転意識の推進を図り、交通事故防止の徹底を図る。

### 2022年度総括

- 交通安全講習会の開催(アンケート機能)  
期間：2023年3月6日(月)～3月31日(金)  
内容：神奈川県 of 交通事故実績に関する問題
- 交通安全クイズの実施  
期間：2023年1月4日(水)～1月31日(火)  
内容：交通安全に関するクイズ
- 業務用車両運転前の酒気帯び確認
  - ・ 道路交通法改正に伴い、公用車使用前後の酒気帯び確認の実施
  - ・ 飲酒運転撲滅運動の周知

### 2023年度目標

交通安全関連の法令・マナーに関する情報の発信や安全運転講習会などにより、職員の安全運転意識の向上に努め、交通事故の撲滅を目指す。

# 薬事（治験）委員会

委員長名：塩川 満

## 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月第4週火曜日

## 目標・開催目的

医薬品等選択の審議決定を通し、医薬品の適正使用および薬剤管理の合理的運営に資する。

## 2022年度総括

- ・委員会は隔月（偶数月）の第4火曜日に計6回（第117～第122回）開催され（うち新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み第119回、第121回は書面の回覧審査）、各薬剤の採用・中止などについて討議・決定された。
- ・DPC対策として、経済性、安全性、情報提供の充実度などを総合的に考慮した結果、第117回委員会において3薬剤を、第118回委員会において1薬剤を、第120回委員会において3薬

## 実績

2022年3月31日現在の採用薬剤数

項目	内服	外用	注射	計
採用薬剤数	1,006	408	544	1,958
院外限定	465	166	12	643
用時購入	71	16	138	225
その他採用区分	470	226	394	1,090
後発品目数	190	49	123	362
後発品目数（院外限定）	36	13	1	50
後発品比率（院内）	28.47%	14.88%	22.93%	23.73%

2022年3月31日現在の採用薬剤数

項目	内服	外用	注射	計
採用薬剤数	1,003	410	547	1,960
院外限定	483	180	17	680
用時購入	56	19	151	226
その他採用区分	464	211	379	1,054
後発品目数	182	46	122	350
後発品目数（院外限定）	38	13	1	52
後発品比率（院内）	27.69%	14.35%	22.83%	23.28%

剤を、第121回委員会において3薬剤を後発品へ変更した。

この結果2023年3月度の後発使用の数量割合は基準値の90%を超え、後発品使用体制加算1を算定している。

- ・2022年3月31日現在、後発医薬品採用品目率（院外限定を除く）が23.28%となり、中核的医療機関として使用促進を図った。
- ・使用期限切迫薬剤及び使用期限切れ薬剤の削減のため採用区分変更検討を行い、第118回で2剤、第119回で2剤、第120回で2剤、第121回で1剤、第122回で3剤の採用区分変更が承認された。
- ・医薬品による健康被害情報報告書作成の報告は1件、医薬品安全性情報報告書作成は2件であった。

## 2023年度目標

- ・DPC対策として、後発医薬品採用品目・採用率の増加検討。
- ・医薬品の適正使用、安全使用のための対策を検討。

# 輸血療法委員会

委員長名：永井 啓之

## 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：奇数月第4週金曜日

## 目標・開催目的

1. 輸血運用について検討し、必要に応じて改善する
2. 輸血マニュアルを最新の情報に基づき作成・改訂し、随時更新および啓発することで安全な輸血療法実施を推進する
3. 血液製剤および血漿分画製剤の適正使用を推進し、適正使用加算の再取得を目指す
4. 安全な輸血療法実施を目的とした輸血勉強会を、年1回以上開催する
5. 輸血療法の説明および同意書の取得・輸血実施時の3点認証の徹底を推進する
6. 同意書の取得漏れおよび内容不備件数の減少

## 2022年度総括

1. 院内における血液製剤および血漿分画製剤の使用状況と輸血副作用の把握
2. 輸血適正使用加算の算定基準達成
3. 輸血同意書、血漿分画製剤同意書の取得状況および記載内容不備件数を報告  
また不備件数減少を目的に、必要に応じて診療部へ注意喚起を行った
4. 輸血管理料Ⅱおよび適正使用加算取得状況の把握
5. 輸血マニュアルの改訂（手術準備血液量一覧、輸血同意書および説明書）
6. 製剤間違い事例を題材とした輸血療法勉強会を開催

## 2023年度目標

1. 輸血運用について検討し、必要に応じて改善する
2. 輸血マニュアルを最新の情報に基づき作成・改訂し、随時更新および啓発することで安全な輸血療法実施を推進する
3. 血液製剤および血漿分画製剤の適正使用を推進し、適正使用加算の算定継続を目指す
4. 安全な輸血療法実施を目的とした輸血勉強会を、年1回以上開催する
5. 輸血療法の説明および同意書の取得・輸血実施時の3点認証の徹底を推進する
6. 同意書の取得漏れおよび内容不備件数の減少



# 臨床検査適正化委員会

委員長名：横山 元昭

## 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月第4週金曜日

## 目標・開催目的

1. 外部精度管理調査に参加し、検査精度の向上に努める
2. 医療安全と検査効率を考慮した運用方法を検討する
3. 新規検査項目導入や測定方法の変更などを検討し、関係部署への迅速な啓発を行う
4. 検査依頼件数および診療報酬査定状況をふまえ、臨床検査の適正化を図る

## 2022年度総括

1. 2022年度より、検査室運営状況報告とし以下5点を定例報告し、情報共有を図った
  - ①検査件数および診療報酬請求点数
  - ②内部・外部精度管理調査報告
  - ③ COVID-19 関連検査件数
  - ④ポータブル検査実績
  - ⑤採血室の時間ごとの患者数および待ち時間外部精度管理調査の結果報告
2. 院内実施検査項目および外部委託検査項目の内容変更について報告
3. 白血球5分類の絶対数報告採用の可否および基準範囲の検討
4. 分析装置の更新について報告
5. ホルター心電図装着患者のCT,MRI検査オーダーについて、診療部への注意喚起を実施
6. 採血管および検体採取用綿棒の変更について周知

1. 外部精度管理調査に参加し、検査精度の向上に努める
2. 医療安全と検査効率を考慮した運用方法を検討する
3. 新規検査項目導入や測定方法の変更などを検討し、関係部署への迅速な啓発を行う
4. 検査依頼件数および診療報酬査定状況をふまえ、臨床検査の適正化を図る

# 倫理・臨床研究審査委員会

委員長名：兼子 友里

## 開催実績

開催回数：年 13 回

定例開催日：毎月第 3 週火曜日

## 目標・開催目的

聖隷横浜病院において行う医療行為及び医学研究の実施にあたり、「ヘルシンキ宣言」の趣旨に沿った倫理上の指針を尊重し倫理的配慮を図る。

## 2022年度総括

2022 年度は当院の倫理指針に基づき 35 件の審議検討を行った。

第 1 回：2022 年 4 月 26 日

- ・閉塞性大腸癌に対する大腸ステント留置後の手術成績
- ・多施設における自動算出早期警告スコアの評価～RRS システムでの活用～

第 2 回：2022 年 5 月 24 日（回覧審査）

- ・泌尿器科疾患の治療成績および予後に関する後ろ向き研究
- ・病棟における乳がん看護の実態～今後の課題～

臨時開催：2022 年 6 月 15 日（回覧審査）

- ・同時多項目アレルギー検査用体外診断用医薬品の開発

第 3 回：2022 年 6 月 28 日（回覧審査）

- ・結節性硬化症の治療および予後に関する研究
- ・第 13 回心血管カテーテル治療専門医技能評価
- ・橈骨遠位端骨折を起こしギプスシーネ除去後にリンパ浮腫が増悪した一症例への関わり
- ・ケアミックス病院における整形外科患者転棟の仕組み作り
- ・胸部単純 CT を用いた大動脈弓部 3D 画像の有用性と留意点について

- ・CASPER Rx 留置後の頸動脈 3D Rotation Angiography(3D-RA)における造影剤至適希釈濃度についての検討
- ・前大脳動脈に対する 3DT1WI 矢状断の撮像条件の検討
- ・血栓回収療法時に用いる中大脳動脈描出法の比較検討

## 2022年度総括

第 4 回：2022 年 7 月 26 日（回覧審査）

- ・新規院内製剤作成および患者への投与（院内製剤名：10%フェノールグリセリン注射液）
- ・A 病院における新型コロナウイルスワクチン接種の取り組み
- ・新規院内製剤作成及び患者への投与（院内製剤名：チラーゲン S 坐剤 50  $\mu$ g）

第 5 回：2022 年 8 月 23 日（回覧審査）

- ・マンモグラフィ CAD の精度が放射線技師の読影に与える影響

第 6 回：2021 年 9 月 27 日（回覧審査）

- ・腎代替療法の見合わせに関する撤回書
- ・維持血液透析の見合わせに関する希望書
- ・全国胆道癌の後方視的観察研究
- ・当院における Perfusion+CTA のプロトコール検討
- ・椎骨動脈の破裂解離性脳動脈瘤に対する母血管塞栓術 3D-RA の注入条件の検討

第 7 回：2022 年 10 月 25 日（回覧審査）

- ・「エンハーツ点滴静注用 100mg 特定使用成績調査(乳癌)」患者を登録対象としたトラスツズマブデルクステカン中止後の後治療に関するコホート研究
- ・当院における小児先天性真珠腫新鮮例の検討
- ・東 4 病棟アロマハンドマッサージを用いた病棟デイケア

第 8 回：2022 年 11 月 22 日（回覧審査）

- ・第 7 次循環器撮影実態調査

第 9 回：2022 年 12 月 27 日（回覧審査）

- ・対象の臨床経過に関して臨床データなどを利用し、まとめる。

- ・気管支熱形成術後の後方視的臨床研究  
第10回：2023年1月24日（回覧審査）
- ・多施設における自動算出早期警告スコアの評価  
RRSシステムでの活用（改定）  
第11回：2023年2月28日（回覧審査）
- ・エベロリムス溶出性プラチナクロムステント  
留置後の抗血小板療法をP2Y12阻害薬単剤  
とすることの安全性と有効性を評価する研究  
(PREMIUM)  
第12回：2023年3月28日（回覧審査）
- ・ボストン・サイエンティフィック社製心臓ペー  
スメーカーコレードDRで収集されるハート  
レートスコアに関する研究
- ・肺非結核性抗酸菌症の臨床データベース研  
究
- ・ヒト肺組織を用いた炎症性肺疾患の検討
- ・マンモグラフィにおける乳房構成自動判定ソフ  
トウェア Bda(コニカミノルタ社製)を用いた  
乳房構成 (mammographic density: MD) と  
乳がん発症リスクの関連性を明らかにするコ  
ホート研究
- ・リウマチ・膠原病診療におけるワクチン医療と  
遠隔医療に関する意識調査（別称 神奈川県リ  
ウマチ・膠原病患者アンケート）

### 2023年度目標

病院として検討すべき臨床倫理に関する課題及び臨床研究に関する事項について、2名の外部委員を加え、リスボン宣言やヘルシンキ宣言に示された倫理規範や、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、改定個人情報保護法等を踏まえた審議を引き続き実施する。

また、新たな診療・治療を実施する場合は、倫理面や安全面に配慮しながら組織的に検討および承認ができる体制づくりを目指したい。

## 医療の質改善委員会

委員長名：大内 基史、平野 進

### 開催実績

開催回数：年7回  
定例開催日：偶数月第3週月曜日

### 目標・開催目的

目的

1. 病院機能評価を受けて、改善後の機能を維持し更新できる
2. 院内のマニュアル管理や現場巡視などを行い、改善を行う

目標

1. 病院機能評価更新に向けたタプロジェクトチームの立ち上げ
2. 病院機能評価更新スケジュール策定及び準備

### 2022年度総括

1. 病院機能評価プロジェクトチームの立ち上げ  
病院機能評価更新受審に向けてタスクフォースメンバーを選定し、プロジェクトチームを立ち上げた。また、各職場での担当者も併せて選定した。

2. 病院機能評価更新準備

2023年12月に更新受審日を設定し、受審に向けた準備を進めた。

- ・受審日までのスケジュール作成
- ・機構からの関連資料共有
- ・タスクフォース会議への移行

### 2023年度目標

1. 病院機能評価更新受審後、改善後の機能維持に努める
2. 院内のマニュアル管理や現場巡視などを行い、継続的な改善活動を図る

## 特定行為管理委員会

委員長名：大内 基史

### 開催実績

開催回数：年2回  
定例開催日：不定期

### 目標・開催目的

看護師による特定行為についての実践状況や、安全管理上の問題・有害事象の有無などを院内で把握する。

### 2022年度総括

クリティカルケア関連に関しては、末梢留置型中心静脈栄養カテーテル挿入や動脈血採血などの件数が増加した。血糖コントロール関連では、患者の問診から教育、退院支援など入院生活における全般で特定行為を実施した。医師や看護師等と協働し、昨年より件数も増加している。

新たに、創傷処置関連1名、創部ドレーン関連1名、人工呼吸器関連1名が特定行為実習を当院で実施し取得した。

### 2023年度目標

2023年度は、各分野において特定行為件数を増やし、よりタイムリーに患者対応できるよう、医師、看護師をはじめ多職種協働を推進する。そのため広報と特定行為における体制の再整備を行い、安全に効率的に行えるよう検討・実践していく。

### 実績

特定行為分野	計
クリティカルケア関連 1名	551
血糖コントロール関連 1名	1,288

---

---

# 外来運営会議

委員長名：山田 秀裕

---

---

- ・新型コロナウイルス感染症の情勢変化に伴う対応の共有
- ・外来患者増加に向けた取り組み

## 開催実績

開催回数：年 12 回

定例開催日：毎月第 1 週木曜日

## 目標・開催目的

- ・外来運営に関する現状を共有し、問題点の解消、新規事項の検討を行う
- ・新型コロナウイルス感染症に対する対応の共有

## 2022年度総括

### ○外来満足度調査の実施

実施期間

2022 年 12 月 12 日（月）～ 12 月 16 日（金）

回答数（合計）571 枚

うち 初診：87 枚、再診 484 枚

### ○患者待ち時間調査の実施

実施期間

2022 年 9 月 5 日（月）～ 9 月 10 日（土）

- ・外来受付エリアに到着してから診察開始までの時間を調査した

### ○看護部外来健康講座実施について

毎月テーマを決めて資料を配布し、啓蒙を行った。

### ○初診患者のファイルの色分けについて

初診患者への接遇向上を目的に、初診患者に色付きのファイルを渡し、院内職員が容易に判別でき、積極的な声掛けや案内ができるよう環境を整備した。

## 2023年度目標

- ・外来運営に関する問題点の共有や新規運用についての検討

# 手術室運営委員会

委員長名：木下 真弓

## 開催実績

開催回数：年 10 回

定例開催日：毎月第 1 週水曜日

## 目標・開催目的

1. 手術枠の効率的な運用と緊急手術への対応
2. コロナ感染症を含めた手術室感染対策の検討と強化
3. 新しい術式への安全で迅速な対応

## 2022年度総括

2022 年度は感染対策を図りながら過去最高の 1990 件の手術を安全に提供することができた。

その他以下について検討した。

- ・手術件数報告及び円滑な手術枠の調整・周術期関連同意書書類の修正・ME 機器の検討及び共有方法の検討・術前休薬についての共有・自己血回収装置運用検討、輸血準備血のマニュアル修正、危機的出血時の検討・コロナ対策および資材欠品情報の共有 など

## 2023年度目標

1. 手術枠の柔軟で効率的な運用の検討
2. 手術室感染対策の強化
3. 手術における問題の共有と対策の検討

## 実績

科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年
外科	31	31	32	30	28	29	25	27	30	29	32	33	357	(332)
眼科	17	23	19	17	10	18	20	17	6	6	19	9	181	(193)
呼吸器外科	3	4	6	9	6	4	6	4	2	6	0	6	56	(83)
耳鼻咽喉科	16	14	14	13	17	20	22	22	17	19	21	20	215	(197)
心臓血管	4	2	3	1	9	8	3	6	6	3	5	8	58	(8)
腎臓・血浄	4	1	6	0	2	2	2	6	1	2	6	6	38	(22)
整形外科	66	59	70	74	60	54	77	69	67	64	68	80	808	(638)
乳腺科	8	5	6	8	5	8	8	6	6	7	5	8	80	(63)
脳神経外科	8	7	4	5	5	7	4	4	9	4	5	8	70	(106)
泌尿器科	10	8	14	9	13	13	9	5	10	11	12	10	124	(109)
麻酔科	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3	(6)
合計	168	154	174	167	155	163	176	166	154	151	174	188	1,990	(1,757)



## セーフティマネージャー運営会議

委員長名：清水 宏恵

### 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：奇数月最終週月曜日

### 目標・開催目的

1. セーフティマネージャーの役割に基づき、医療事故および利用者からの苦情・クレーム防止活動を行う
2. 患者および職員・病院を守るとともに医療安全管理および患者サポート体制の充実・改善・強化を目指す

### 2022年度総括

- ・2021年度IAレポート年間報告
- ・2022年度当運営会議の年間計画周知、医療安全管理室重点施策の共有
- ・ワーキンググループ活動  
患者誤認撲滅、転倒転落予防対策検討、急変予測・容態変化早期対応力向上、院内防犯体制再構築（A）不審者侵入対策／盗難・貴重品管理、院内防犯体制再構築（B）院内暴力／虐待防止対策の5グループにて、活動計画を策定し取り組んだ。結果として、各種マニュアルの改訂および周知、シミュレーション実施による課題の気づきなど、セーフティマネージャーの役割に基づいた活動が実践できた。
- ・患者安全管理活動の実施  
各職場の安全に関する目標を「患者安全管理活動計画書」を活用して安全管理室と共有し、共に活動した。

## 糖尿病療養運営会議

委員長名：升田 雅史

### 開催実績

開催回数：年9回

定例開催日：奇数月第1週金曜日

### 目標・開催目的

- ・院内の糖尿病療養指導を担うスタッフの指導内容の刷新や向上、意見交換
- ・関わる患者指導についての医師の指示を主とした情報共有を行い、当院が患者にとってよりよい指導・療養環境となるように話し合う場としている
- ・スタッフそれぞれの実績・実践報告と疑問点について医師に直接相談できる
- ・最新の治療や機器、薬剤に関する勉強会を開催する（医師）

### 2022年度総括

入院患者指導結果の外来評価を病棟へ伝達し、当院の患者層に適する治療や教育内容を検討することができた。それに伴い、外来でも患者教育基準を検討し、継続的な知識教育を開始、予防医療を実現すべく実施することができた。年間外来教育患者6名。院内血糖関連の機器の不備に対する調整を行った。

### 2023年度目標

- ・新しいスタッフの育成に向けての検討
- ・新薬導入、使用に関わる勉強会と評価
- ・引き続き患者情報の共有と起こりうるリスク対策
- ・高齢患者の支援体制を早急に検討し、早めに地域とつなぐよう外来での他部署とのスムーズな情報交換、家族支援を実現する

## ボランティア運営会議

委員長名：兼子 友里

### 開催実績

開催回数：年4回

定例開催日：3ヶ月毎の最終月曜日

### 目標・開催目的

ボランティアの募集、受け入れ、活動支援を行い、ボランティア個人のモチベーションの維持、活性化を促すとともに、職員全体でサポートできる体制の強化を図る

### 2022年度総括

2022年度は、5月より総合案内および縫製の活動を再開している。まだまだ治まらないコロナ禍の中、感染状況に注視しながらの活動である。秋頃に活動中のボランティアの方が、感染や濃厚接触の対象者となるも、活動前に報告があり問題なく対応している。

新たな活動として、季節を感じる「山の上ギャラリー at 聖隷横浜病院」の展示も、2022年3月から開始し、「春」「夏」「秋」「冬」のテーマに沿った写真が好評をいただいている。引き続き、展示を通して患者さまや地域の皆さまに、温かい気持ちや声援の気持ちをお届けできるよう願いを込めて、続けていく方向である。

### 2023年度目標

コロナ禍の状況は緩やかに好転しているように思えるが、まだまだ油断せず、新たな生活スタイルを考慮しつつ、注意深く活動を後押しする。一部再開できていないボランティア活動も再開に向けて準備を進めていく予定である。今後も安全でやりがいのあるボランティア活動の強化と拡大を目指していく。

## リハビリテーション課運営会議

委員長名：山田 寛明

### 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：奇数月第4週水曜日

### 目標・開催目的

リハビリテーション運用の安定・効率向上のため、関連する各部署の職員の参加を要請し、共同（協同）して課題解決に向けて取り組む。

- ・回復期病棟基準I維持安定可能な体制づくり（人員配置）を検討する。
- ・現在リハビリテーション課が係わっている領域の安定運営を図る。

### 2022年度総括

以下について、関連医師および病棟スタッフと情報交換・意見交換を行った。

- ・リハビリテーション実績報告
  - ・新型コロナウイルス感染対策
1. 介入にあたってのN95マスクの装着について
  2. 複数病棟介入にあたってのルール策定・採用状況

### 2023年度目標

- ・回復期病棟 一患者リハビリテーション提供単位6.0単位/日に向けた増員計画
- ・地域包括病棟 疾患別リハビリテーション単位の増の目標値設定と増員検討

## ドック・健診室運営会議

委員長名：平野 進

### 開催実績

開催回数：年4回

定例開催日：3ヶ月毎の第4週水曜日

### 目標・開催目的

私たちは、隣人愛の精神のもと、安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けることを理念とし、利用者の方々が安心して選び続けられる施設である様、関係各課の代表者により円滑な運営の検討を行う。

### 2022年度総括

- ・2022年度の各検査実施件数予測の周知確認
- ・聖隷横浜病院職員健診の運用調整
- ・横浜エデンの園職員健診の運用調整
- ・運用確認と改善案の検討
- ・日曜乳がん・婦人科検診の運用調整、開催日の追加実施
- ・インフルエンザワクチン接種（院内・出張）運用調整
- ・午後健診開始へ予約枠の検討と増枠調整
- ・遺伝子検査開始の運用調整（聖隷CAREプログラムの導入）
- ・婦人科外来開始の運用調整

### 2023年度目標

健診と病院診療が連携できるメリットを生かしながら、予防医学を推進し、ご利用者様に永続的に選び続けていただけるドック・健診室を目指す。

## 地域連携・患者支援センター

委員長名：山田 秀裕

### 開催実績

開催回数：年9回

定例開催日：毎月第3週木曜日

### 目標・開催目的

地域住民、近隣医療機関・施設の医療ニーズに貢献するため、院内関連部署と連携・情報共有を図り活動していくこと

### 2022年度総括

- ・紹介、逆紹介件数報告、検討
- ・紹介元への返信状況の報告、検討  
<2022年度 即日返信実績>  
上半期：97.2%、下半期：99.2%
- ・時間外紹介患者受け入れに関する報告、検討
- ・転院、在宅サポート入院に関する報告、検討
- ・入退院支援に関する報告、検討
- ・地域連携に携わる訪問活動・各行事の報告、検討
- ・市民健康講話 2回開催  
(六ツ川一丁目コミュニティハウス)
  1. 2022年6月4日  
今から延ばす健康寿命～自宅でできる健康体操～
  2. 2023年3月3日  
あなたの心臓どう守る？心不全編  
～知って得する!？明日からできる予防策～

### 2023年度目標

院内関連部署と連携を取りながら、地域住民・近隣医療・福祉・介護機関の医療ニーズを把握し、必要なニーズに貢献できる様、活動内容を具体的に立案し戦略的な活動を行う

# 病床管理センター

委員長名：永井 啓之

## 開催実績

開催回数：年 11 回

定例開催日：毎月第 4 週水曜日

## 目標・開催目的

経営状況を踏まえ患者入退院をコントロールすることを目的とする。

数値目標は病棟稼働率 85%、平均患者数 312 名以上

### 【業務内容】

1. 入院しやすい病棟稼働への支援
2. 空床に関する情報収集と提供
3. 適正な平均在院日数への支援
4. 患者の治療状況に応じた病床環境の支援
5. 地域連携・患者支援センターと連携し、長期に渡る入院患者の転棟・転院等の支援
6. 医療・看護必要度管理の安定的な基準達成に向けた取り組み

- ・ 各月入院患者数報告
- ・ 他院からの転院の受入調整
- ・ 入院患者増加による入退院調整
- ・ 特定入院料病棟の安定稼働
- ・ 地域包括ケア病棟の院内転棟率管理
- ・ HCU、SCU 稼働への取り組み
- ・ 退院予定指示の早期化
- ・ 転棟対象情報の提供
- ・ 診療科別入院経路
- ・ GW や年末年始等の連休対応
- ・ 判定会の実施
- ・ 病棟入退室運用規程の更新
- ・ 重症度、医療・看護必要度と患者数検討

## 2023年度目標

病院理念に基づき、以下をふまえて効果的な病床管理に貢献するとともに、回復期病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟に焦点を立て、総合的に多様なニーズに合わせた病床管理を実践する。

1. 最後の一床まで活用し地域医療に貢献する
2. 地域住民のために急性期を中心とした医療提供と救急医療を提供する

## 実績

病棟別病床稼働率

：%

病棟	定床	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
東1病棟	38	—	—	55.7	85.6	78.8
東2病棟	53	81.1	79.3	37.8	44.5	48.8
東3病棟	52	91.9	88.3	74.9	87.3	90.0
東4病棟	60	95.5	93.7	66.9	92.8	81.3
西1病棟	34	95	89.8	79.5	82.2	82.4
西2病棟	47	96.8	98.6	93.9	99.1	97.4
西3病棟	46	95.8	91.5	70.5	90.1	87.8
急ユニ	8	81.5	73	72.7	82.0	73.4
脳ユニ	9	98.4	99.5	99.7	98.9	93.7
B3病棟	20	—	—	59.2	82.2	80.7
全病棟	367	92.2	89.8	70.2	83.1	80.7

※東2病棟：新型コロナウイルス感染症回復後患者受入病棟

---

---

# 内視鏡センター運営会議

委員長名：吹田 洋將

---

---

## 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月第1週金曜日

## 目標・開催目的

内視鏡センターにおける検査、治療を安全かつ円滑に施行するために、問題点の抽出・解決、関連部署の連携、設備・機器の検討を行う

## 2022年度総括

- ・内視鏡検査枠および業務の検討・整備
- ・内視鏡検査・治療 COVID19 患者受け入れの検討および対応マニュアル（上下部内視鏡・気管支鏡）の見直し
- ・TV 室治療検査におけるタイムアウト拡大に向けた運用基準作成
- ・内視鏡室における IA の共有
- ・内視鏡ネクサスシステム更新
- ・内視鏡修理報告の共有
- ・指導施設における JED 対応義務化に伴い内視鏡チェックリストを追加修正
- ・抗血栓薬・抗凝固薬の再開指示についての検討
- ・鎮静剤使用後の安静解除運用基準の改正

## 2023年度目標

内視鏡センターにおける検査、治療を安全かつ円滑に施行するために、問題点の抽出・解決および関連部署の連携、設備・機器の検討を行う

# 脳血管センター運営会議

委員長名：佐々木 亮

## 開催実績

開催回数：年 12 回

定例開催日：毎月第 3 週水曜日

## 目標・開催目的

脳卒中診療を中心に、脳神経疾患の急性期から回復期までを包括的に、より効率よく行うため、多職種にて情報交換、問題共有し、病院運営にフィードバックしていくことを目的とする。

## 2022年度総括

脳神経疾患患者の包括的治療について多職種で情報交換、方針決定を行った。

## 実績

入院単価

：点

診療科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	今年度平均	前年度平均
脳神経外科	5,255	5,368	5,397	5,607	5,972	5,932	5,123	5,746	6,397	6,368	5,666	5,925	5,730	5,249
全科平均	5,415	5,715	5,685	5,631	6,151	5,871	5,531	5,678	5,480	5,685	5,690	5,543	5,673	5,551

病棟稼働率

：%

病棟	(定床)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	今年度平均	前年度平均
西 1 病棟	34	97.8	76.9	80.4	76.8	83.8	62.1	77.0	84.6	78.6	86.8	92.8	91.7	82.4	82.2
ACU	8	81.7	77.4	67.7	69.8	85.5	60.0	61.7	71.3	88.3	61.7	84.4	71.8	73.4	82.0
SCU	9	100.0	99.3	92.8	77.4	95.7	100.0	100.0	94.8	81.7	95.0	98.0	91.0	93.7	98.9
一般病棟平均	235	87.1	75.5	81.3	80.8	73.1	76.5	79.9	85.4	78.7	82.6	88.8	86.4	81.3	80.6
全病棟平均	367	87.6	76.3	81.5	79.4	72.8	76.4	82.0	83.4	78.0	79.6	87.4	84.4	80.7	83.1

- ・西 1 ・ S C U ・ A C U の稼働状況
- ・リハビリ介入実績、急性期病棟から回復期病棟への介入状況
- ・放射線学的検査（CT・MRI）の実績
- ・地域連携室より紹介実績、救急車受け入れ状況
- ・医療機器購入や機器の情報報告
- ・脳卒中治療に関する薬剤や栄養療法の情報交換・栄養指導について
- ・回復期・地域包括病棟への転棟、早期退院を指しソーシャルワーカーの介入状況
- ・入院単価・稼働率・手術件数等の医事データの報告

## 2023年度目標

- ・救急診療の回復、地域内での病診連携、病病連携の強化により、診療実績を維持しつつ、脳神経疾患診療にてさらなる地域貢献を行う
- ・SCUを含めた急性期から回復期、退院後の外来診療において、「医療の質」の向上を目指す



# 膠原病・リウマチ内科運営会議

委員長名：山田 秀裕

## 開催実績

開催回数：年 10 回

定例開催日：毎月第 3 週金曜日

## 目標・開催目的

- ・スタッフ間の連携を円滑に行い、入外患者さまの診療の室を高める。
- ・毎月第 3 金曜日にセンター運営会議を開催し、情報共有と今後の方針を相談する。
- ・関節リウマチ患者を対象としたリウマチ包括ケアを推進する。
- ・地域連携室や総務課と共同して広報活動やホームページ作成を行う。

## 2022年度総括

多職種が連携したチーム医療を推進するため、我が国初のリウマチ包括ケア外来を 2020 年 5 月に開設以来、金曜午後に診療を行った。そこでは、関節リウマチと診断された患者さんに対し、看護師、薬剤師、リハビリテーション療法士とともに、関節保護や関節の運動療法、薬物療法、感染症などの合併症予防対策、口腔ケア、気道ケア、消化管ケアなどを包括的に指導した。

リウマチ看護外来では、年間 1,077 症例を看護面談し、バイオ導入指導 102 例、JAK 阻害薬導入指導 21 例、自己注射指導 94 例、電話相談 135 例のケアを行った。フットケア外来もこれまで同様に継続した。

また、地域連携室と共同で、各種 WEB 講演会、近隣クリニックとのオンライン面談等による地域連携、ホームページの更新など、広報活動を積極的に行った。

引き続き、多職種連携チーム医療の元、安全性を重視した先端的医療を提供する。近隣クリニックとのオンライン面談を介した病診連携を更に活発化させ、広報活動とともに、新規患者の獲得と逆紹介率を増やす。

# 乳腺センター運営会議

委員長名：徳田 裕

## 開催実績

開催回数：年7回

定例開催日：毎月第4週火曜日

## 目標・開催目的

患者中心の最先端医療を提供するために、多職種スタッフより構成されるセンターのシステム構築とその改良および発展を目標とする。

構成メンバーは、以下のとおりである。

化学療法担当看護師、病棟看護師、放射線課（マンモトームを含む）、検査課（遺伝子検査、超音波検査）、地域連携室（センチネルリンパ節生検用 RI 注射及びリンパ節スキャン）、医師事務作業補助者、医療情報管理課、資材管理課などのスタッフ

## 2022年度総括

米国のガイドラインでは、標準的な診断システムである Exact Science 社が開発した OncotypeDX が 2021 年 12 月 1 日より保険承認されたが、登録システム不備のため承認延期となったため無償提供となり、2023 年 3 月までに 10 例で実施した。2023 年 7 月末にて無償提供は、終了の予定であり、その後は、保険対象となる

2021 年 12 月 24 日術後乳がん症例に対するベジニオ<sup>®</sup> が適応拡大承認された。有害事象の頻度が高く、また、高薬価製剤であるため在庫調整が難しい経口抗がん剤である。そこで、院内処方への適応となり患者は、大変喜んでおられる

## 2023年度目標

乳がん感受性遺伝子 (BRCA1/2) 検査の施設認定を獲得しており、2022 年度の検査数は、43 例であった。（前年度 25 例）

センチネルリンパ節生検実施症例数の増加とともない、新たにみなと赤十字病院に RI 注射を委託し、運用を開始しているが、2022 年度の症例数は 24 例となり、従来の市大センター病院と合わせると合計 55 例であった。

マンモグラフィで発見されたカテゴリ - 3 以上の微細石灰化巣に対するステレオマンモトーム生検を 2020 年 2 月 13 日より開始し、第 2・3 木曜日午後各 2 例の予約で継続している。2022 年度の実績は、39 例であった。

## 開催実績

総合企画室からの提案に基づき、月間紹介患者数を 2022 年度の目標値に設定しているが、概ね目標値を達成した

また、入院外来合計の医療費実績は、2021 年度 224,440,290 に対し、2022 年度は、273,676,440 と 49,236,150(21.9%) の増加となった

# 緩和ケア病棟プロジェクト

委員長名：木下 真弓

## 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月第4週金曜日

## 目標・開催目的

- ・患者獲得へ向けての広報活動の検討
- ・効果的な病床運用の検討

## 2022年度総括

- ・今年度も院外からの入棟相談外来紹介数、入院者数が多かった。

## 2023年度目標

- ・患者獲得へ向けての広報活動の検討
- ・効果的な病床運用の検討
- ・連携医療機関からの実習を伴う研修受け入れ体制についての検討など

## 実績

### 緩和ケア病棟 入退棟データ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入棟相談外来件数	37	42	44	43	48	50	47	49	49	49	48	49	555
院内紹介	6	8	8	2	6	7	6	6	6	10	6	7	78
院外	31	34	36	41	42	43	41	43	43	39	42	42	477
入棟患者数	24	23	28	32	34	27	26	27	31	26	25	31	334
ACU	13	9	14	17	20	12	13	13	15	13	14	23	176
SCU	9	10	12	10	9	11	9	9	12	6	8	5	110
一般病棟平均	2	4	2	5	5	4	3	5	4	7	3	3	47
入棟待機日数	4.0	4.2	4.1	4.8	3.9	3.2	5.4	4.0	3.1	3.8	5.9	2.9	
転帰	18	23	17	22	25	18	18	25	22	18	19	21	246
ACU	0	2	3	8	7	9	5	4	3	7	6	2	56
SCU	2	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	0	15
一般病棟平均	0	0	1	1	1	0	1	0	1	2	1	2	10

---

---

# OLS(骨粗しょう症リエゾンサービス) 運営会議

委員長名：竹下 宗徳

---

---

料3の推進)  
・OLS介入病棟の拡大

## 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：毎月第1週金曜日

## 目標・開催目的

脆弱性骨折を起こしている骨粗しょう症患者に対して多職種連携で治療介入し、骨折の連鎖を止め、ADLの低下、寝たきりとなることの防止を目的とする。

## 2022年度総括

骨粗しょう症患者の再骨折を防ぎ、健康寿命を延ばすことを目標とし、自施設の問題点や現状把握を多職種で協議を実施。また、FLSクリニカルスタンダードに沿い、「大腿骨近位部骨折」および「椎体骨折」の患者に対する治療継続のプロトコルを作成し実施。

2022年度の診療報酬改定にあたり新設された「二次骨折予防継続管理料」算定にあたり協議および体制整備を行った。また病診連携による二次骨折予防継続管理料3の推進のため、関連施設へ治療や処方可否についてアンケートを実施。

### 【年間算定実績】

二次骨折予防継続管理料1：105件

二次骨折予防継続管理料3：46件

### 【OLSチームメンバー】

整形外科医師、看護師、薬剤師、理学療法士管理栄養士、診療放射線技師、社会福祉士事務職

## 2023年度目標

- ・二次骨折予防継続管理料の適切な算定
- ・院内外に対するOLSの取り組みを発信
- ・地域開業医へ手術後の患者の紹介を推進  
(地域医療連携による、二次骨折予防継続管理

# 情報システム運営会議

委員長名：平野 進

## 開催実績

開催回数：年 10 回

定例開催日：毎月第 3 週金曜日

## 目標・開催目的

本運営会議においては、病院の基幹システムである電子カルテを中心とした情報システムの導入や稼働に関わる運用の検討、周知を行っている。電子カルテをはじめとする院内の情報システムのユーザは他職種にまたがり、その運用も複雑となる。このため、本運営会議では医師・看護師・コメディカル・事務と各部署から代表者が集まり、職種間で運用等を議論し集約することにより、安全かつ効率的な運用を目指す。

## 2022年度総括

当年度は 2017 年稼働の現行システムのライフサイクル末期に入り、安定した運用の継続に加え故障率が上がる時期となった。本会議においては、既存システムの運用変更のための議論・周知のほか、機器の取扱いに関する注意喚起などを行った。

1. 電子カルテの機能や運用に関する改善点の議論、周知
  - ・ 緊急の注射オーダーの発行方法に関する運用
  - ・ 注射オーダーのコメント選択に関する運用 ほか
2. 電気設備点検のための計画停電時の対応方法の再検討、システム停止時の運用マニュアルについて継続的な改善
3. 標的型攻撃メールへの注意喚起など情報リテラシー向上のための注意喚起
4. 機器の取扱いや故障対応に関する注意喚起
5. 2024 年度に迫る次期ハードウェア更新に向けた進捗確認

## 2023年度目標

2023 年度は現行システムの稼働から 6 年を超過する。予定される 2024 年度の情報システム機器のハードウェア更新を円滑に進める為の運用検討などを、本会議にて部門横断で検討する。また、本年度は病院機能評価の受審が予定されるため、システム停止時の運用の改善など必要な対策を進める。

# 医師・医療従事者の働き方 改革プロジェクト

委員長名：新美 浩

## 開催実績

開催回数：年0回  
定例開催日：不定期

## 目標・開催目的

医師や医療従事者の働き方に関する事項を検討し、病院で働くすべての職員の働き方の適正化を図る。

2024年4月から施行される医師の働き方改革関連法の中で求められている時間外労働時間や連続勤務時間の適正化、勤務間インターバル時間の確保などの要件を病院として達成するために、勤務時間などの現状の把握、分析、解決策の検討および実行を行う。

## 2022年度総括

2022年4月から他職種と同じように医師の時間外労働時間の申請を電子化した。

2024年4月の医師の働き方改革関連法施行に向けて医師の日当直中の実働時間調査を実施した。この結果を元に労働基準監督署への宿日直許可申請を行う。

また、働き方改革に関する職員の理解を深めるために院内講演会を開催したほか、働き方改革に関する最新の情報を収集するために神奈川県などが主催する説明会や講演会に参加した。

### 【院内で開催した講演会】

・2022年6月2日（木）

「医師の働き方改革の最新動向と院内における効果的な進め方」

（講師：慶應義塾大学特任教授 斐英洙先生）

参加者：89名

### 【参加した説明会や講演会】

・2022年12月23日（金）

「医療従事者等の勤務環境改善のためのオンラインセミナー」（主催：神奈川県）

・2023年2月3日（金）

「第24回 横浜市病院協会 学術講演会 医療機関における働き方改革の最新動向」（主催：横浜市病院協会）

・2023年3月4日（金）

「医師の働き方改革に係る地域での意見交換会」（主催：神奈川県）

## 2023年度目標

2022年度に実施した医師の日当直中の実働時間調査を元に労働基準監督署への宿日直許可申請を行う。

そのうえで以下の対応を順次行い、2024年4月の医師の働き方改革関連法施行に対応する。

- ①時間外・休日労働時間の上限規制の対象となる医師とともに医師労働時間短縮計画を作成
- ②医療機関勤務環境評価センターの評価受審
- ③神奈川県への特例B水準の申請

特に①については、診療科からの意見ヒアリングの他、多職種によるタスクシフト・シェアの可能性を模索するなど病院全体で実現可能な計画を作成する必要があるため、医師・医療従事者の働き方改革プロジェクト内で検討する。



# 教育・症例検討・講演会実績・市民公開講座

## 病院学会

- ・第20回 聖隷横浜病院学会 開催日 2023年2月25日

## 職員研修

- ・新入職員研修  
開催日 2022年6月17日 場所 聖隷横浜病院
- ・2年目職員研修  
開催日 2022年7月15日、  
2023年2月17日 場所 聖隷横浜病院
- ・中堅職員研修  
開催日 2022年9月16日～15、10月14日、11月11日、  
2023年2月8日 場所 聖隷横浜病院
- ・アドバンス研修  
開催日 2022年11月18日 場所 聖隷横浜病院

## 委員会主催研修・講演会・e-learning

- ・病院医療安全管理委員会  
第1回 職員医療安全研修「『照合』と『指差呼称』～  
確認の精度向上をめざして～」  
受講期間 2022年7月1日～7月31日
- ・安全運転委員会  
2021年度交通安全講習会  
受講期間 2023年3月6日～3月31日
- ・感染対策委員会  
第1回 感染対策勉強会「新型コロナウイルス感染症対策  
～当院の取り組みについて～」  
受講期間 2022年4月18日、21日、27日、5月2日  
第2回 感染対策勉強会「クロストリジオイデス・  
ディフィシル(CD)感染症」  
受講期間 2022年12月22日～2023年1月23日
- ・個人情報管理委員会  
2022年度 個人情報・プライバシー勉強会  
開催日 2023年3月6日～2023年3月19日

## 症例検討会

- ・第127回 CPC症例検討会  
症例 発熱、体動困難を主訴に救急搬送され、  
精査加療中の第4病日に死亡した一例  
開催日 2022年9月27日
- ・第128回 CPC症例検討会  
症例 鼻出血を主訴での入院から第12病日に死亡に  
至った一例  
開催日 2022年11月22日
- ・臨床・病理症例検討会  
症例 Collagenous colitisの最近の動向  
開催日 2022年12月27日

## セミナー

- ・医薬品安全セミナー  
講義 不眠症の治療薬について  
受講期間 2023年2月27日～3月13日

## 聖隷横浜病院 健康講和

- ・市民公開講座  
あなたの心臓どう守る？知って得する！？明日からできる予防策  
心臓血管センター内科 芦田院長補佐  
知って得する？！心臓のお話し 看護師 佐藤  
心臓を守る運動 リハビリテーション課 小峰  
心臓に優しい食事 栄養課 物江  
開催日 2022年9月13日 場所 みなみん 南公会堂
- ・オンライン市民公開講座  
聖隷横浜病院 ドック・健診室のご案内 ～コロナ禍でも健診を  
受けましょう～ ドック・健診科 平野院長補佐  
今日からできるフレイル予防 リハビリテーション課 長澤  
開催日 2022年4月22日  
あなたの身体は大丈夫？～無症状でも生命に関わる血管疾患の  
最前線～ 心臓血管センター外科 乗松主任医長  
心臓血管のCT検査～3D処理で立体的に診る心臓の血管～  
放射線課 一木  
開催日 2022年7月22日  
ソケイヘルニアを知り、早期発見・早期治療へ  
消化器外科 永井部長  
今日からできるフレイル予防～自宅でできる運動～  
パート4 リハビリテーション課 中村  
開催日 2022年10月28日  
関節リウマチについて正しく知ろう～一人ひとりにあった  
治療選択～ 膠原病・リウマチ内科 山田部長、  
膠原病・リウマチ内科 児島医長  
関節リウマチの方におすすめ！手指の運動  
リハビリテーション課 前田  
開催日 2023年1月27日

## YouTube動画配信記録

- ・管理栄養士が考える栄養レシピ  
冬に食べたい減塩料理～DHA、EPAを摂って健康な  
身体作り～  
開催日 2022年1月28日  
食事で免疫ケア～季節の変わり目で落ちる免疫力を  
食事の力でアップ！～  
開催日 2023年3月24日

## 実習生受入

- ・看護部  
横浜市医師会聖灯看護専門学校  
横浜中央看護専門学校  
関東学院大学  
横浜未来看護専門学校  
神奈川県立保健福祉大学  
横浜市病院協会看護専門学校
- ・薬剤部  
星薬科大学
- ・検査課  
杏林大学
- ・栄養課  
神奈川工科大学  
関東学院大学  
鎌倉女子大学  
駒澤大学  
東京聖栄大学  
相模女子大学
- ・リハビリテーション課  
帝京科学大学  
文京学院大学  
東京工科大学  
帝京平成大学  
城西国際大学

## 2022年度 学術業績 講演会・学会発表

リウマチ・膠原病センター	
区分	講演会
演題名	症例から学ぶこれからのEGPA診療
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	EGPA Management Seminar in 高知 2022.6.17
区分	講演会
演題名	多職種連携診療チームによるリウマチ包括ケア
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	神奈川RAチーム医療研究会 2022.7.8
区分	講演会
演題名	私のRAとの苦闘の履歴書
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	第9回東大阪リウマチ医療を考える会 2022.7.9
区分	講演会
演題名	リウマチ・膠原病治療の現状と今後について
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	リウマチ・膠原病Expert WEB Meeting 2022.7.27
区分	講演会
演題名	SLEを始めとした膠原病疾患の連携
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	膠原病の診療連携を考える会 2022.8.3
区分	講演会
演題名	JAK阻害薬の位置づけとこれからのRA診療
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	令和4年第2回横浜市西区医師会学術講演会 2022.10.20
区分	講演会
演題名	膠原病内科の立場での肺動脈性肺高血圧症診療について
演者・共同演者	山田秀裕
学会名等	肺動脈性肺高血圧の早期発見・早期治療における地域連携の重要性 2022.11.30
区分	講演会
演題名	関節リウマチについて正しく知ろう
演者・共同演者	児島希典
学会名等	聖隷横浜病院オンライン市民公開講座 2023.1.27
区分	学会発表
演題名	新型コロナワクチン接種後に生じたHyper-inflammatory syndrome
演者・共同演者	先崎香朱実、伊東宏、花岡洋成、吉田雅伸、山田秀裕
学会名等	第66回日本リウマチ学会 2022.4 横浜（オンライン）
区分	学会発表
演題名	抗MDA5抗体 / 抗Ro52抗体陽性の間質性肺炎合併無筋症性皮膚筋炎の1例
演者・共同演者	澤崎のぞみ、児島希典、青木海斗、松下広美、大石真理子、野田翔平、内田木香、山田秀裕
学会名等	第66回日本リウマチ学会 2022.4 横浜（オンライン）

乳腺センター（乳腺科）		
区	分	講演会
演	題	特別発言
演	者・共同演者	徳田裕
学	会名等	第32回日本乳癌検診学会学術総会
心臓血管センター		
区	分	学会発表
演	題	第4回横浜Live Demonstration 座長
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会名等	第4回横浜Live Demonstration 2023.04.23
区	分	講演会
演	題	The Guideline in picking vessels for retrade approach
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会名等	Japanese Perspectives on CTO PCI Thursday 19th May 2022
区	分	講演会
演	題	冠動脈2枝が同時に閉塞したと思われる急性心筋梗塞の1例
演	者・共同演者	長谷川 和喜
学	会名等	第59回日本心臓血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会2022.05.07
区	分	講演会
演	題	心不全連携診療について考える 司会
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会名等	中西南保土ヶ谷地域連携online講演会2022.05.16
区	分	講演会
演	題	ARNIの至適高血圧患者とは
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会名等	世界高血圧デーにエンレストを考える 2022.05.17
区	分	学会発表
演	題	プログラム① 座長
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会名等	Euro PCR Lecture 2023.05.22
区	分	講演会
演	題	動脈硬化性病変への介入の重要性高齢長寿社会を健やかに暮らす為に
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会名等	高齢社会における動脈硬化を再考する 2022.05.23
区	分	講演会
演	題	心房細動合併高齢者心不全診療を考える～フレイルリスクと凝固療法～
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会名等	地域で考える心不全診療セミナー 2022.05.30
区	分	講演会
演	題	石灰化病変への治療
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会名等	Boston PCI Academy 2022 ～Middle Course the First～2022.05.31
区	分	学会発表
演	題	顕微鏡的多発血管炎（MPA）がうっ血性心不全（HFpEF）の発症に影響をもたらしたと考えられた一例
演	者・共同演者	長谷川 和喜
学	会名等	第264回日本循環器学会関東甲信越地方会 2022.05.30-06.04
区	分	学会発表
演	題	顕微鏡的多発血管炎（MPA）がうっ血性心不全（HFpEF）の発症に影響をもたらしたと考えられた一例例
演	者・共同演者	河合 慧
学	会名等	第264回日本循環器学会関東甲信越地方会 2022.05.30-06.04
区	分	講演会
演	題	外科医が行うコイル塞栓術～初心者から中級者への道～
演	者・共同演者	乗松 東吾
学	会名等	Stryker Endovascular Embolization Webinar（共催 Stryker） 2022.07.04

区	分	講演会
演	題	あなたの身体は大丈夫？～無症状でも生命に関わる血管疾患の最前線～
演	者・共同演者	乗松 東吾
学	会名等	聖隷横浜病院 オンライン市民講座 (youtube) 2022.07.22
区	分	学会発表
演	題	冠動脈石灰化病変に挑む
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会名等	第30回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT2022) 2022.07.21-23
区	分	学会発表
演	題	The effectiveness of guide-extension catheter for a bent RCA lesion with severe calcification 例
演	者・共同演者	新村 剛透
学	会名等	第30回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT2022) 2022.07.21-23
区	分	学会発表
演	題	A case of DCA was effective in earlier DAPT termination in PCI which needs LMT stenting associated with AF.
演	者・共同演者	河合 慧
学	会名等	第30回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT2022) 2022.07.21-23
区	分	学会発表
演	題	An AMI case of simultaneous occlusion of two major coronary arteries
演	者・共同演者	山田 亘
学	会名等	第30回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT2022) 2022.07.21-23
区	分	学会発表
演	題	LAD CTOを含むSTEMIで来院し、血行再建に苦慮した1例
演	者・共同演者	山田 亘
学	会名等	Young Generation Doctors Discussion 2022.07.27
区	分	講演会
演	題	座長：大動脈狭窄症の診断と治療のトレンド
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会名等	心疾患を考える会 2022.08.29
区	分	学会発表
演	題	心房細動による腎梗塞に対し血栓溶解療法後、抗凝固療法を導入直後に塞栓性心筋梗塞を発症した一例
演	者・共同演者	長谷川 和喜
学	会名等	第265回日本循環器学会関東甲信越地方会 2022.09.03
区	分	講演会
演	題	地域で見守る心不全患者 テーラーメイド診療は可能か？
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会名等	これからの心不全治療を考える 2022.09.12
区	分	講演会
演	題	司会：心不全治療up data SGLT2阻害薬を含む理論的薬剤選択とチーム医療
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会名等	これからの心不全治療を考える 2022.09.12
区	分	学会発表
演	題	第3世代薬剤溶出型ステント留置術後4年でステント内Neoatherosclerosisに伴う血栓症を発症した一例
演	者・共同演者	河合 慧
学	会名等	第60回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 2022.10.05
区	分	講演会
演	題	進化した心不全薬物治療～治療戦略の変遷とSGLT2阻害薬の効能～
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会名等	中西南保土ヶ谷地域連携online講演会2022.10.24
区	分	学会発表
演	題	A case of stent thrombosis due to in-stent neoatherosclerosis 4-years after 3rd generation stent implantation
演	者・共同演者	河合 慧
学	会名等	CCT2022 2022.10.27

区	分	学会発表
演	題	A case that IVUS guide wiring and culottes stenting were effective for a true bifurcated CTO lesion
演	者・共同演者	新村 剛透
学	会	Complex Cardiovascular Therapeutics 2022.10.29
区	分	講演会
演	題	心不全治療と在宅心不全診療の今後の取組～心不全パンデミックを見据えた医療連携のあり方～
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会	第2回横浜・川崎 心不全医療連携会 2022.11.09
区	分	講演会
演	題	私が考える COMPLEX PCI 治療について
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会	KOL から学ぶ COMPLEX PCI 2022.11.10
区	分	講演会
演	題	AMIにおける DES 留置～何を考慮すべきか～
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会	第8回 Pan-pacific Primary Angioplasty Conference 2022 (PAC22) 2022.11.11
区	分	講演会
演	題	SGLT2阻害薬がもたらす臨床成績～心不全治療を考察する～
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会	デベルザ Web Conference 2022.11.18
区	分	講演会
演	題	ACS
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会	Boston PCI Academy 2022 ～Basics Course 3rd～ 2022.11.21
区	分	学会発表
演	題	座長：CTO Live demonstration Part1
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会	Yokohama CTO Summit VI 2022.12.2
区	分	講演会
演	題	Aperta NSE 拡張力の進化と delivery における工夫
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会	Stentless PCIへのTips 2022.12.3
区	分	講演会
演	題	心不全診療を再構築する～ARNIをはじめとした新規薬物治療+多職種チーム医療+地域連携～
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会	地域で見守る心不全診療WEB講演会 2022.12.06
区	分	講演会
演	題	司会：地域で見守る心不全診療のポイントと課題～心不全パンデミックを引き起こさないためには～
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会	地域で見守る心不全診療WEB講演会 2022.12.06
区	分	講演会
演	題	座長：LIVE Demonstration Part I
演	者・共同演者	芦田 和博
学	会	Shizuoka Debulking Live 2022.12.09
区	分	講演会
演	題	座長：LIVE Demonstration①～②
演	者・共同演者	福田 正
学	会	KAMAKURA Calcification Live 2023 2023.03.25

画像診断センター	
区分	講演会
演題名	外頸動脈系の塞栓術
演者・共同演者	石毛良一
学会名等	第392回循環器画像技術研究会 2023.2.18
区分	講演会
演題名	第7次循環器撮影実態調査班 班活動報告
演者・共同演者	石毛良一
学会名等	第393回循環器画像技術研究会 2023.3.18
区分	学会発表
演題名	ポータブル撮影における撮影者の水晶体被ばく低減への取り組み
演者・共同演者	町谷冬弥、畠宏美、石毛良一、猪熊佑介、鎌田晃平、串間可菜、大楽知幸、釜谷秀美
学会名等	関東合同学術大会 2022.5.20 web
区分	学会発表
演題名	手根管撮影における再撮影数減少を目的とした補助具の作成
演者・共同演者	大楽知幸、町谷冬弥、一木俊介、鳥山遥希、釜谷秀美
学会名等	関東合同学術大会 2022.5.20 web
区分	学会発表
演題名	マンモグラフィCADの教育ツールとしての有用性の検討
演者・共同演者	阿部宏美、吉村朋子、鳥山遥希、串間可菜、釜谷秀美、徳田裕、劉孟娟
学会名等	第30回日本乳癌学会学術総会 2022.6.30-7.2 横浜市パシフィコ横浜
区分	学会発表
演題名	コメディカルが自主的にカテ室運営に関わるために企画したカテ室スタッフカンファレンス活動報告
演者・共同演者	石毛良一、刈屋千春、松本夏奈子、一木俊介、森田斗南、工藤直樹、田中馨、新村剛透、河合慧、中島啓介、山田亘、芦田和博
学会名等	第30回日本心血管インターベンション治療学会学術集会（CVIT2022）2022.7.23
区分	学会発表
演題名	骨密度検査の放射線被ばく管理を行うにあたっての当院での実態調査について
演者・共同演者	三枝あかり、石毛良一、釜谷秀美、大田光俊、竹下宗徳
学会名等	第24回日本骨粗鬆症学会 2022.9.2-4 大阪国際会議場
区分	学会発表
演題名	右椎骨動脈の破裂解離性脳動脈瘤に対する母血管コイル塞栓術
演者・共同演者	一木俊介、石毛良一
学会名等	第22回NPO法人日本脳神経血管内治療学会 関東地方会学術集会 2022.9.10
区分	学会発表
演題名	血栓回収療法時に用いる中大脳動脈描出法の比較検討
演者・共同演者	鈴木駿太郎、渥美裕、釜谷秀美
学会名等	第50回日本磁気共鳴医学会大会 2022.9.9-11
区分	学会発表
演題名	当院の外科用イメージ装置手技に伴う患者被ばく線量実態調査について
演者・共同演者	串間可菜、石毛良一、釜谷秀美
学会名等	第38回日本診療放射線技師学術大会 2022.9.16-18 神戸コンベンションセンター
区分	学会発表
演題名	当院 TV 室における術者（消化器内科医師）の水晶体被曝低減活動
演者・共同演者	渥美裕、竹原英明、三枝あかり、釜谷秀美
学会名等	第38回日本診療放射線技師学術大会 2022.9.16-18 神戸コンベンションセンター
区分	学会発表
演題名	骨密度検査の放射線被ばく管理を行うにあたっての当院での実態調査について
演者・共同演者	三枝あかり、石毛良一、釜谷秀美、大田光俊、竹下宗徳
学会名等	第38回日本診療放射線技師学術大会 2022.9.16-18 神戸コンベンションセンター



区 分	学会発表
演 題 名	当院におけるPerfusion+CTAのプロトコール検討
演者・共同演者	鎌田晃平
学 会 名 等	第2回 PhilipsCT Build Out Cup 2022.10.22
区 分	学会発表
演 題 名	CADをマンモグラフィ読影の教育ツールとして使用した試み
演者・共同演者	串間可菜、鳥山遥希、山下瑞穂、畠宏美、釜谷秀美
学 会 名 等	聖隷放射線部 合同学術大会 2023.3.11 聖隷浜松病院
医療の質管理室	
区 分	学会発表
演 題 名	看護リスクマネジメント委員会の取り組みによる身体行動制限ゼロへの影響
演者・共同演者	演者:渡邊和美 共同演者:米田雅子、鎌田康子、伊東路子、清水宏恵
学 会 名 等	第17回医療の質・安全学会学術集会
区 分	学会発表
演 題 名	A病院における新型コロナウイルスワクチン接種の取り組み
演者・共同演者	山下綾子
学 会 名 等	第13回 せいい看護学会学術集会 2022.9.10
診療支援室	
区 分	学会発表
演 題 名	外来支援班による書類作成への取り組み
演者・共同演者	横溝美穂、小宮早苗、鈴木美里
学 会 名 等	聖隷横浜病院 院内学会 2023.2.25
腎臓・高血圧内科	
区 分	学会発表
演 題 名	極めて稀な小腸腺癌の維持透析症例
演者・共同演者	大石真理子1) 野田翔平1) 宮本研1) 横山元昭2) 末松直美3) 1) 腎臓・高血圧内科 2) 外科・消化器外科 3) 病理診断科
学 会 名 等	第67回日本透析医学会学術集会・総会

外科・消化器外科		
区	分	講演会
演	題	ソケイヘルニアを知り、早期発見・早期治療へ
演	者・共同演者	永井 啓之
学	会 名 等	聖隷横浜病院 Youtube オンライン市民講座 2022.10.28
区	分	学会発表
演	題	超高齢者に発症したIgG4関連小腸偽腫瘍が疑われた1例
演	者・共同演者	山本 祐也, 齋藤 徹, 横山 元昭, 永井 啓之, 野澤 聡志
学	会 名 等	第77回日本消化器外科学会総会 横浜市 2022.07
区	分	学会発表
演	題	閉塞性大腸癌に対する大腸ステント留置後の手術成績
演	者・共同演者	齋藤 徹, 永井啓之, 横山元昭, 廣田美央乃, 野澤聡志
学	会 名 等	第77回日本大腸肛門病学会学術集会 千葉 2022.10
区	分	学会発表
演	題	胆嚢十二指腸瘻に伴う胆石イレウスの2例
演	者・共同演者	廣田 美央乃, 横山 元昭, 永井 啓之, 齋藤 徹, 野澤 聡志
学	会 名 等	第1466回千葉医学会例会 千葉 2022.11
整形外科		
区	分	学会発表
演	題	Iliosacral screw と Iliac screw を連結する脆弱性仙骨骨折の新たな後方固定術
演	者・共同演者	大田 光俊, 石川 哲大, 海村 朋孝
学	会 名 等	第51回日本脊椎脊髄学会 横浜市 2022.04.21-23
区	分	学会発表
演	題	仙骨骨折に対して iliosacral screw を他の脊椎用インプラントと連結する独自の後方固定を行った一例
演	者・共同演者	大田 光俊, 石川 哲大
学	会 名 等	第48回日本骨折治療学会学術集会 横浜市 2022.06.23-25
区	分	学会発表
演	題	子宮頸癌放射線治療後の骨盤骨折に対して骨盤内で完結する後方固定術を施行した1例
演	者・共同演者	大田光俊
学	会 名 等	第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会 東京 2022.07.14-15
区	分	学会発表
演	題	脆弱性仙骨骨折に対する Iliosacral screw を用いた新たな後方固定
演	者・共同演者	大田光俊, 石川哲大
学	会 名 等	第24回日本骨粗鬆症学会 大阪 2022.09.02-04
区	分	学会発表
演	題	DISHの骨折に対する PES を用いた後方固定術施行後に back out を生じた1例
演	者・共同演者	大田光俊, 横谷純子, 山田寛明, 天野景治
学	会 名 等	第31回日本脊椎インストゥルメンテーション 大阪 2022.11.25-26
区	分	学会発表
演	題	Spinopelvic dissociation に対して Iliosacral screw を用いた腰仙椎固定を行った1例
演	者・共同演者	大田光俊, 横谷純子, 山田寛明, 天野景治
学	会 名 等	第31回日本脊椎インストゥルメンテーション 大阪 2022.11.25-26
呼吸器外科		
区	分	講演会
演	題	動態解析を用いた癒着の予測
演	者・共同演者	大内基史, 早川信崇, 竹内健
学	会 名 等	第3回X線動態画像セミナー
区	分	学会発表
演	題	当院で横隔膜部分切除を施行した月経随伴性気胸の検討
演	者・共同演者	竹内健, (演者) 早川信崇, 大内基史
学	会 名 等	第39回日本呼吸器外科学会学術集会 2022.5.20-21 グランドニッコー東京 台場 (WEB)
区	分	学会発表
演	題	胸骨正中切開に右前側方切開を加え切除し得た中下葉の無気肺を呈した高度側弯症合併巨大胸腺腫の1例
演	者・共同演者	竹内健, (演者) 早川信崇, 大内基史, 末松直美
学	会 名 等	第39回日本呼吸器外科学会学術集会 2022.5.20-21 グランドニッコー東京 台場 (WEB)

区	分	学会発表
演	題	気腫合併肺線維症の通院中に喀痰細胞診を契機として発見された肺野末梢性小型扁平上皮肺癌の1切除例
演	者・共同演者	竹内健、(演者) 小西建治、大内基史
学	会名等	第45回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 2022.5.27-28 岐阜県長良川国際会議場 都ホテル岐阜長良川
区	分	学会発表
演	題	自己心膜パッチによる肺動脈形成術を行なった肺類基底細胞型扁平上皮癌の1切除例
演	者・共同演者	竹内健、(演者) 小西建治、大内基史
学	会名等	第45回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 2022.5.27-28 岐阜県長良川国際会議場 都ホテル岐阜長良川
区	分	学会発表
演	題	2回目のliquid biopsyでT790M変異を確認し全世代TKIで治療し術後5年生存したEGFR遺伝子変異陽性肺腺癌の1例
演	者・共同演者	竹内健、(演者) 小西建治、大内基史
学	会名等	第63回日本肺癌学会学術集会 2022.12.1-3日 福岡国際会議場
区	分	学会発表
演	題	2回目のliquid biopsyでT790M変異を確認し全世代TKIで治療し術後5年生存したEGFR遺伝子変異陽性肺腺癌の1例
演	者・共同演者	竹内健、(演者) 小西建治
学	会名等	第63回日本肺癌学会学術集会 2022.12.1-3日 福岡国際会議場
区	分	学会発表
演	題	気胸を契機に発見されたEGFR陰性肺腺癌に対し細胞障害性抗癌薬やICI治療後にEGFR陽性肺腺癌となった1例
演	者・共同演者	竹内健、(演者) 小西建治、
学	会名等	第63回日本肺癌学会学術集会 2022.12.1-3日 福岡国際会議場
麻酔科		
区	分	講演会
演	題	
演	者・共同演者	高橋紗緒梨
学	会名等	第27回日本緩和医療学会学術大会 2022.7.1-2
アレルギー内科		
区	分	院内研修セミナー
演	題	喘息の診断と治療について
演	者・共同演者	渡邊直人
学	会名等	内科専門医研修セミナー、2022.6.6 病院大会議室
区	分	講演会(ハイブリッド)
演	題	Closing Remarks
演	者・共同演者	渡邊直人
学	会名等	第44回西横浜喘息・COPD懇話会、2022.6.24 横浜
区	分	講演会(WEB)
演	題	座長：特別講演
演	者・共同演者	呼吸器領域における漢方の役割～麦門冬湯と補中益気湯を中心に～(演者 濱田泰伸先生：広島大学大学院医系科学研究科生体機能解析制御科学教授)
学	会名等	第45回西横浜喘息・COPD懇話会、2022.7.29 WEB
区	分	講演会(WEB)
演	題	Closing Remarks
演	者・共同演者	渡邊直人
学	会名等	第45回西横浜喘息・COPD懇話会、2022.7.29 WEB
区	分	講演会(ハイブリッド)
演	題	座長：パネルディスカッション
演	者・共同演者	1. コロナを含む感染による咳嗽の治療と患者指導-HP/GPの観点から- 2. 喘息患者におけるLAMA導入のタイミング-病状に合わせた最適なデバイス選択- (パネリスト：加志崎 史大先生、三島 渉先生、古家 正先生)
学	会名等	第46回西横浜喘息・COPD懇話会、2022.9.2 横浜
区	分	講演会(WEB)
演	題	座長：特別講演
演	者・共同演者	好酸球実数化のメリット(演者 関谷潔史先生：国立病院機構相模原病院 アレルギー科・呼吸器内科部長)
学	会名等	好酸球Week TV symposium Series、2022.10.17 WEB

区 演 演 学	分 題 者・共同演者 会名等	講演会（WEB） クリニックにおける重症喘息診療へのアプローチ ～生物学的製剤導入のポイントと在宅自己注射の利点～ 渡邊直人 GSK Severe Asthma Web Seminar、2022.10.31 WEB
区 演 演 学	分 題 者・共同演者 会名等	講演会（ハイブリッド） Opening Remarks 渡邊直人 第47回西横浜喘息・COPD懇話会、2022.11.4 横浜
区 演 演 学	分 題 者・共同演者 会名等	講演会（ハイブリッド） 座長：特別講演 長期寛解維持を目指したアトピー性皮膚炎治療（福田英嗣先生：東邦大学医療センター大橋病院皮膚科准教授） 渡邊直人 第47回西横浜喘息・COPD懇話会、2022.11.4 横浜
区 演 演 学	分 題 者・共同演者 会名等	院内研修セミナー 食物アレルギーについて 渡邊直人 内科専門医研修セミナー、2023.1.16 病院大会議室
区 演 演 学	分 題 者・共同演者 会名等	講演会（ハイブリッド） インフルエンザ感染症の治療・予防に関する検討～自主研究結果からの考察～ 渡邊直人 第16回DMU-K総合臨床懇談会 2023.1.28 横浜
区 演 演 学	分 題 者・共同演者 会名等	講演会（ハイブリッド） Closing Remarks 渡邊直人 第48回西横浜喘息・COPD懇話会、2023.3.24 横浜
区 演 演 学	分 題 者・共同演者 会名等	講演会（WEB） 座長：特別講演2 これからの重症喘息治療（加志崎史大先生：伊勢原協同病院臨床検査科部長） 喘息疾患診療を考える会、2023.3.29 WEB
区 演 演 学	分 題 者・共同演者 会名等	学会発表 CATは重症喘息のQOL評価指標に成り得る－アトピー性皮膚炎合併喘息患者に対するデュピルマブ治療から見えたこと－ 渡邊直人 第62回日本呼吸器学会総会、2022.4.22-24 京都
区 演 演 学	分 題 者・共同演者 会名等	学会発表 禁煙外来を有する地方病院院内薬局職員の家庭内受動喫煙曝露実態調査結果 渡邊直人、荒井一徳 第62回日本呼吸器学会総会、2022.4.22-24 京都
区 演 演 学	分 題 者・共同演者 会名等	学会発表 アンケート調査結果にみる院内薬局と院外薬局職員の職場における受動喫煙曝露状況の比較 渡邊直人、荒井一徳 第249回日本呼吸器学会関東地方会、2022.5.21 東京
区 演 演 学	分 題 者・共同演者 会名等	学会発表（WEB開催） 肺・気管支におけるTRPV1受容体とニューロキニンAとの関係 渡邊直人 第87回日本温泉気候物理医学会、2022.6.11-12 横浜（WEB開催）
区 演 演 学	分 題 者・共同演者 会名等	学会発表 アナフィラキシーショックの原因精査に苦慮した金アレルギー症例 渡邊直人 第52回日本職業・環境アレルギー学会、2022.6.18-19 福井

区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	学会発表 座長：一般演題 第52回日本職業・環境アレルギー学会、2022.6.18-19 福井
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	学会発表 花粉吸入量評価のための人頭模型を用いた装置とマスク装着時の花粉吸入量の比較検討 白井秀治、渡邊直人 第52回日本職業・環境アレルギー学会、2022.6.18-19 福井
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	学会発表 栃木県内の喫煙者の割合の地域差が県立高校生の家庭内受動喫煙曝露に及ぼす影響の検討 荒井一徳、渡邊直人、福田啓伸、宮本学、吉原重美 第38回日本小児臨床アレルギー学会、2022.7.2-3 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	学会発表（共同演者） 令和2年度学校保健統計調査における栃木県の喘息罹患率およびアトピー性皮膚炎罹患率と肥満傾向児の出現率との関連 荒井一徳、渡邊直人、吉原重美 第38回日本小児臨床アレルギー学会、2022.7.2-3 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	学会発表 オマリズマブとデュピルマブの自己注射についてアンケート結果からの考察 渡邊直人 第3回日本喘息学会、2022.7.16-17 名古屋
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	学会発表（WEB開催） アナフィラキシーショックの原因精査に苦慮した金アレルギー症例 渡邊直人 第88回臨床アレルギー研究会、2022.9.10 WEB（東京）
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	学会発表 デュピルマブとメポリズマブの自己注射ペンに対する薬剤師の印象 渡邊直人 第24回日本咳嗽学会、2022.10.1-2 旭川
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	学会発表 座長：一般演題 第24回日本咳嗽学会、2022.10.1-2 旭川
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	学会発表 漢方薬の生薬である半夏が原因と考えられる薬疹症例 渡邊直人 第71回日本アレルギー学会総会、2022.10.7-9 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	学会発表 市販薬ロキソニンとイブAによる薬物過敏症症例 渡邊直人 第71回日本アレルギー学会総会、2022.10.7-9 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	学会発表 コロナワクチン副反応としてのアレルギー症状に対するピラスチン予防投与の有用性 渡邊直人 第71回日本アレルギー学会総会、2022.10.7-9 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	学会発表 座長：ミニシンポジウム 第71回日本アレルギー学会総会、2022.10.7-9 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	学会発表 人頭模型を用いた花粉吸入量評価-種々のマスク装着による吸入予防の比較検討 白井秀治、渡邊直人 第71回日本アレルギー学会、2022.10.7-9 東京

区 分	学会発表
演 題 名	第2回日本アレルギー学会関東地方会参加者アンケート～喫煙関連問診状況～
演者・共同演者	荒井一徳, 渡邊直人, 福田啓伸, 宮本学, 吉原重美
学 会 名 等	第71回日本アレルギー学会学術大会、2022.10.7-9 東京
区 分	学会発表
演 題 名	第2回日本アレルギー学会関東地方会参加者アンケート～喫煙に対する考え方～
演者・共同演者	荒井一徳, 渡邊直人, 福田啓伸, 宮本学, 吉原重美
学 会 名 等	第71回日本アレルギー学会学術大会、2022.10.7-9 東京
区 分	学会発表 (WEB)
演 題 名	アンケート調査結果にみる横浜市調剤薬局職員の新型タバコおよびタバコ対策の認知状況
演者・共同演者	渡邊直人、荒井一徳
学 会 名 等	第16回日本禁煙学会、2022.10.29-30 (WEB開催)
区 分	学会発表 (WEB開催)
演 題 名	アナフィラキシーショックの原因精査に苦慮した金アレルギー症例
演者・共同演者	渡邊直人
学 会 名 等	アレルギー・好酸球研究会2022 2022.11.3 (WEB開催)
区 分	学会発表：国際学会
演 題 名	COPD assessment test can be a quality of life indicator in severe asthma-Findings following dupilumab treatment for severe asthmatic patients with atopic dermatitis-
演者・共同演者	Naoto Watanabe
学 会 名 等	第31回国際喘息学会日本・北アジア部会、2022.11.25-26 東京
区 分	学会発表
演 題 名	ヒスタミン加人免疫グロブリン療法がアナフィラキシーに有効であった果物アレルギーの症例
演者・共同演者	渡邊直人
学 会 名 等	第8回日本アレルギー学会関東地方会、2022.12 東京
小児科	
区 分	講演会
演 題 名	学校保健、食品衛生に関する基礎知識
演者・共同演者	北村勝彦
学 会 名 等	横浜市立大学医学部 2023.6
泌尿器科	
区 分	講演会
演 題 名	結節性硬化症皮膚病変治療の付加価値
演者・共同演者	波多野孝史
学 会 名 等	結節性硬化症皮膚病変治療セミナー-Kanagawa 2022.4.19 横浜
区 分	講演会
演 題 名	TSC患者の長期フォローアップにおける課題
演者・共同演者	波多野孝史
学 会 名 等	第6回結節性硬化症診療育イニシアティブセミナー 2022.5.21 名古屋
区 分	講演会
演 題 名	結節性硬化症診療のトリセツ TSC皮膚病変が疑われる時どうするか？
演者・共同演者	波多野孝史
学 会 名 等	結節性硬化症診療セミナー 2022.10.4 横浜
区 分	講演会
演 題 名	成人TSC患者に対するエベロリムス治療経験から考える最適なTSC治療戦略
演者・共同演者	波多野孝史
学 会 名 等	西新宿TSC Seminar 2022.10.17 東京医科大学
区 分	学会発表
演 題 名	レセプトデータに基づく結節性硬化症診断前後における患者フローの検討
演者・共同演者	波多野孝史、岡西徹、藤森郁男、山田まりこ、但馬匠、金田眞理、瀬山邦明
学 会 名 等	第10回日本結節性硬化症学会学術総会 2022.9.18 米子
区 分	学会発表
演 題 名	結節性硬化症随伴腎病変の最新情報
演者・共同演者	波多野孝史
学 会 名 等	第10回日本結節性硬化症学会学術総会 2022.9.18 米子



区	分	学会発表
演	題	名 結節性硬化症伴う腎血管筋脂肪腫に対する新たな治療法
演	者・共同	演者 波多野孝史
学	会	名 等 第10回日本結節性硬化症学会学術総会 2022.9.18 米子
看護部		
区	分	講演会
演	題	名 根岸恵
演	者・共同	演者 根岸恵
学	会	名 等 東京ベイ幕張ホール 2022.6.23
区	分	学会発表
演	題	名 橈骨遠位端骨折を起こしギブスシーネ除去後にリンパ浮腫が憎悪した一症例への関わり
演	者・共同	演者 井口美奈枝、大槻珠代、横谷純子
学	会	名 等 第6回日本リンパ浮腫治療学会学術総会 新宿
区	分	学会発表
演	題	名 高齢者のリハビリ意欲を引き出すための支援～リハビリダイアリーの作成と効果～
演	者・共同	演者 落合朋子
学	会	名 等 第22回日本運動器看護学会学術集会 横浜
区	分	学会発表
演	題	名 地域包括ケアにおける外来看護の役割～コロナ禍での来院患者への電話介入から見えてきたこと～
演	者・共同	演者 木村紀子、鶴田華林、鮫島芳江
学	会	名 等 第13回せいい看護学会学術集会 浜松
区	分	学会発表
演	題	名 病院における新型コロナウイルスワクチン接種の取り組み
演	者・共同	演者 山下綾子
学	会	名 等 第13回せいい看護学会学術集会 浜松
区	分	学会発表
演	題	名 歯科のないA病院での周術期口腔機能管理を目指して
演	者・共同	演者 渡邊怜治、小蕎恵、野上智子
学	会	名 等 第13回せいい看護学会学術集会 浜松
区	分	学会発表
演	題	名 看護リスクマネジメント委員会の取り組みによる身体行動制限ゼロへの影響
演	者・共同	演者 渡邊和美、鎌田康子、米田雅子、小林明日香、伊東路子、清水宏恵
学	会	名 等 第26回日本糖尿病教育・看護学会学術集会
血液浄化センター		
区	分	学会発表
演	題	名 維持透析患者を対象とした事前指示書の取り組みと課題
演	者・共同	演者 渡邊和美
学	会	名 等 第67回 日本透析学会 学術集会総会
区	分	学会発表
演	題	名 看護リスクマネジメント委員会の取り組みによる身体行動制限ゼロへの影響
演	者・共同	演者 渡邊和美
学	会	名 等 第17回 医療の質・安全学会学術集会
外来		
区	分	講演会
演	題	名 地域包括ケアにおける外来看護の役割
演	者・共同	演者 木村紀子、鶴田華林、井口美奈枝、横井由佳、武良露華、田代行香、輿石絵理、鮫島芳江
学	会	名 等 せいい看護学術集会
区	分	学会発表
演	題	名 橈骨遠位端骨折を起こしギブスシーネ除去後にリンパ浮腫が増悪した一症例への関わり
演	者・共同	演者 井口美奈枝
学	会	名 等 リンパ浮腫治療学会総会

西1病棟	
区 分	学会発表
演 題 名	摂食機能療法における病棟リンクナース育成への取り組み
演者・共同演者	黒澤晶浦、中野夕子、佐藤典子
学 会 名 等	第20回聖隷横浜病院学会 2023.2.25
西2病棟	
区 分	学会発表
演 題 名	リハビリダイアリーの取り組み
演者・共同演者	落合朋子
学 会 名 等	第22回日本運動器看護学会 シンポジウム
薬剤部	
区 分	講演会
演 題 名	臨床で必要とされる緩和医療に携わる薬剤師の責務について
演者・共同演者	塩川満
学 会 名 等	大塚製薬社内研修会 2022.11.8
区 分	講演会
演 題 名	緩和薬物療法の真の担い手となるために ～JPPS薬剤師・薬局認定制度～
演者・共同演者	塩川満
学 会 名 等	令和4年度 東京都病院薬剤師会 第2回 Advance Class
区 分	学会発表 シンポジウム6
演 題 名	日本緩和医療薬学会の位置づけと専門薬剤師制度の創世と期待
演者・共同演者	塩川満
学 会 名 等	第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム 2022.7.23
区 分	学会発表
演 題 名	連携充実加算および連携シートの現状と今後の展望
演者・共同演者	阿部隆介
学 会 名 等	聖隷横浜病院 第4回地域連携勉強会 2022.8.25
区 分	学会発表
演 題 名	麻薬管理システム導入に伴う業務効率化について
演者・共同演者	山本みちる、塩川満
学 会 名 等	薬剤部門 学術発表会 2023.2.4
区 分	学会発表
演 題 名	保険薬局との連携による院外処方箋における疑義照会プロトコール導入の効果と課題
演者・共同演者	宮路友香、塩川満
学 会 名 等	薬剤部門 学術発表会 2023.2.4
区 分	学会発表
演 題 名	緩和病棟での薬剤師の活動について
演者・共同演者	重里幸枝
学 会 名 等	聖隷横浜病院 第5回地域連携勉強会 2023.2.10
区 分	学会発表 シンポジウム67
演 題 名	臨床で必要とされる緩和医療に携わる薬剤師の責務について
演者・共同演者	塩川満
学 会 名 等	第32回 日本医療薬学会年会
区 分	学会発表
演 題 名	骨折リエゾンサービス（FLS）立ち上げと薬剤師の介入
演者・共同演者	安田佳世、柏谷里美、徳富江里、米川史織、建部宏子、塩川満
学 会 名 等	第24回 日本骨粗鬆症学会
区 分	学会発表
演 題 名	回復期リハビリテーション病棟における薬剤師の役割～薬学的介入事例の分析・評価～
演者・共同演者	建部宏子、安部光咲、塩川満
学 会 名 等	第6回 日本老年薬学会年会

リハビリテーション課		
区	分	講演会
演 題 名		関節リウマチ疾患の取り組みについて
演者・共同演者		木村航汰
学 会 名 等		関節リウマチのPrehabilitationを考える会
区	分	講演会
演 題 名		関節リウマチ疾患の取り組みについて
演者・共同演者		前田優
学 会 名 等		関節リウマチのPrehabilitationを考える会
区	分	学会発表
演 題 名		当院における骨折リエゾンサービス非実施患者の背景因子の検討
演者・共同演者		木村航汰、向井庸、中井慎也、長澤仁志、安田佳世、柏谷里美、米川史織、長野加奈子、竹下宗徳、大田光俊
学 会 名 等		第24回日本骨粗鬆症学会
区	分	学会発表
演 題 名		重度利き手麻痺事例に対するADL・IADLへのアプローチ ～回復期病棟での手の使用頻度増加への取り組み～
演者・共同演者		大江珠祐、黒須香琳、木村亮太、酒井志乃、佐々木亮
学 会 名 等		第4回聖隷リハビリテーション学会
区	分	学会発表
演 題 名		心不全増悪で入院となった慢性腎不全患者の特徴について
演者・共同演者		長澤仁志、廣江圭史
学 会 名 等		第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
区	分	学会発表
演 題 名		当院における心不全教育入院が有効であった一症例
演者・共同演者		小峰侑真、廣江圭史、向井庸、伊東路子、宮崎良央、芦田和博
学 会 名 等		第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
区	分	学会発表
演 題 名		急性期脳卒中利き手麻痺 2 事例に対する価値に基づく作業療法 実践 -SCU を含む急性期病棟での多職種協業によるホリスティック・アプローチ-
演者・共同演者		木村亮太、小林菜実、中野夕子、森谷のり子、青井瑞穂
学 会 名 等		第4回聖隷リハビリテーション学会
区	分	学会発表
演 題 名		帰宅願望を強く訴えた心身に多彩な症状を有する脳卒中事例に対する作業療法実践 -回復期における作業理論を用いた価値に基づく実践の工夫-
演者・共同演者		山本力也、木村亮太
学 会 名 等		第4回聖隷リハビリテーション学会
区	分	学会発表
演 題 名		リハビリテーション課作業療法部門の取り組みの紹介-作業療法の定義と当院での役割について-
演者・共同演者		木村亮太、門馬加奈子、前田優、山本力也、大江珠祐、中村瑞紀、前沢里奈、荒木明日香、大槻珠子、千葉絵里香、山田千紗
学 会 名 等		第20回 聖隷横浜病院 院内学会
区	分	学会発表
演 題 名		COVID-19院内感染警戒レベル3におけるリハビリテーション課の対策と課題
演者・共同演者		前田優、門馬加奈子、堤坂由紀、山下綾子
学 会 名 等		第20回 聖隷横浜病院 院内学会

臨床工学室	
区 分	学会発表
演 題 名	臨床工学技士による ERCP 直接介助業務確立を目指して
演者・共同演者	白倉佑樹
学 会 名 等	第32回 日本臨床工学会
区 分	学会発表
演 題 名	脳神経血管内治療業務における臨床工学技士のトリセツ
演者・共同演者	森田斗南
学 会 名 等	第38回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会
区 分	学会発表
演 題 名	整形外科手術における術中モニタリングの確立
演者・共同演者	掛谷祐太
学 会 名 等	第2回 関東甲信越臨床工学会

## 2022年度 学術業績 その他（院外活動等）

リウマチ・膠原病センター	
区 分	その他（院外活動等）
演 題 名	病態治療論V（免疫）
演者・共同演者	伊東宏
学 会 名 等	聖灯看護専門学校 講義（2022.4.17 4.24）
画像診断センター	
区 分	その他（院外活動等）
演 題 名	ベーシックセミナー 合併症の予防と対策 -あなたはどうか動く？ -テーマ2 デバイスのスタック発生時の対応～コメディカルには是非知っておいてほしいこと～
演者・共同演者	石毛良一（コメンテーター）
学 会 名 等	TOPIC2022 2022.7.9（コメディカルファカルティ、コメンテーター）
区 分	その他（院外活動等）
演 題 名	
演者・共同演者	石毛良一（座長）
学 会 名 等	第22回NPO法人日本脳神経血管内治療学会 関東地方会学術集会 2022.9.10
区 分	その他（院外活動等）
演 題 名	2筒式インジェクターを使用した髄膜腫栄養血管塞栓術前の3D-RA
演者・共同演者	石毛良一
学 会 名 等	第22回NPO法人日本脳神経血管内治療学会 関東地方会学術集会 2022.9.10（一押し画像コンテスト）
区 分	その他（院外活動等）
演 題 名	テーマ：脳血管
演者・共同演者	石毛良一（司会）
学 会 名 等	第390回循環器画像技術研究会 2022.11.19
区 分	その他（院外活動等）
演 題 名	
演者・共同演者	児山 貴之（座長）
学 会 名 等	2023 Brilliance Kanto Alliance 2023.3.3
麻酔科	
区 分	その他（院外活動等）
演 題 名	非ステロイド性抗炎症薬
演者・共同演者	木下真弓
学 会 名 等	Medicina 1726-1731 vol9 2022
アレルギー内科	
区 分	その他（院外活動等）：学会・研究会活動
学 会 名	日本アレルギー学会 代議員 国際喘息学会日本・北アジア部会 評議員 日本職業・環境アレルギー学会 評議員 日本咳嗽学会 評議員 日本温泉気候物理医学会 評議員
研 究 会 名	臨床アレルギー研究会 幹事 西横浜喘息・COPD 懇話会 発起人 DMV-K総合臨症懇談会 事務局長
治験・研究調査 協 力	タカノ株式会社の「同時多項目アレルギー検査用体外診断用医薬品の開発」治験 ツムラ株式会社依頼の「補中益気湯市販後調査」 費者庁主導の「即時型食物アレルギーによる健康被害に関する全国実態調査」 日本温泉気候物理医学学術委員会研究プロジェクト「COVID-19下の医療従事者の行動制限と主観的健康感の変化の実態把握に関する研究」
外科・消化器外科	
区 分	その他（院外活動等）
演 題 名	横浜市医師会聖灯看護専門学校非常勤講師
演者・共同演者	野澤聡志
学 会 名 等	

整形外科		
区	分	その他（院外活動等）
演 題	名	患者さんから学ぶ脊椎外科と骨粗鬆症
演者・共同演者		大田光俊
学 会 名 等		旭化成ファーマ社内勉強会 2023.01.19
区	分	その他（院外活動等）
演 題	名	ReBOSSIS-Jの適正使用と長期成績
演者・共同演者		大田光俊
学 会 名 等		帝人ナカシマメディカル社内勉強会 2023.03.14
区	分	その他（院外活動等）
演 題	名	骨折連鎖を止めるために私達にできること
演者・共同演者		大田光俊
学 会 名 等		横浜市西区多職種合同学術講演会 2023.03.23
小児科		
区	分	その他（衛生行政参加）
演 題	名	横浜市における感染症動向の疫学的考察
演者・共同演者		委員長 吉村 幸浩 他
学 会 名 等		横浜市感染症動向委員会
泌尿器科		
区	分	その他（院外活動等）
演 題	名	病院紹介 聖隷横浜病院 泌尿器科
演者・共同演者		波多野孝史
学 会 名 等		神奈川オフィスウロロジ－医会会報 29: 5-6, 2022
看護部		
区	分	その他（院外活動）講師
演 題	名	フィジカルアセスメント研修
演者・共同演者		坂田稔
学 会 名 等		社会医療法人三栄会 中央林間病院 2022.6.28
区	分	その他（院外活動）演習支援者 公益社団法人日本看護協会
演 題	名	2022年度特定行為研修指導者講習会
演者・共同演者		坂田稔
学 会 名 等		オンライン開催 2022.7.24,9.4,10.22
区	分	その他（院外活動）講義
演 題	名	感染管理学 感染管理認定看護師の役割
演者・共同演者		山下綾子
学 会 名 等		オンライン開催 2022.9.8 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター
区	分	その他（院外活動）講師
演 題	名	がん患者支援講座
演者・共同演者		根岸恵
学 会 名 等		神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 2022.9.24
区	分	その他（院外活動）講師
演 題	名	認知症患者のかかわり方とコツ
演者・共同演者		新城佑樹
学 会 名 等		神奈川県医療福祉施設協同組合 ウィリング横浜 2022.9.26
区	分	その他（院外活動）
演 題	名	認知症看護
演者・共同演者		坂田稔
学 会 名 等		社会医療法人三栄会 中央林間病院 2022.9.27
区	分	その他（院外活動）講師
演 題	名	認定看護管理者教育課程ファーストレベル 統合演習 I
演者・共同演者		兼子友里
学 会 名 等		神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 2022.11.5,11.17,25,12.9,2023.1.20
区	分	その他（院外活動等）講師
演 題	名	心不全看護
演者・共同演者		坂田稔
学 会 名 等		社会医療法人三栄会 中央林間病院 2022.11.8,22



区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	その他（院外活動）講師 第8回東京医療ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム研修 ～質の高い終末期看護（エンド・オブ・ライフ・ケア）を学ぶ～ 根岸恵 独立行政法人国立病院機構東京医療センター 2022.11.9,26
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	その他（院外活動）ファシリテーター 看護職員認知症対応力向上研修 新城佑樹 オンライン開催 2022.11.24
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	その他（院外活動）講師 コミュニケーション能力を高め、風通しの良い職場づくりを目指す 田淵かおり 特別養護老人ホーム興寿苑 2022.11.30
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	その他（院外活動）講師 地域でACPを推進しよう！～病院と地域をつなぐ取り組み～ 根岸恵 神奈川県総合医療会館 2022.12.9
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	その他（院外活動）講師 手術看護技術 I 渡邊怜治 昭和大学旗の台キャンパス 2022.12.14
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	その他（院外活動）講師 教育担当者研修Ⅱ～院内の教育を考えよう！教育プログラムの立案・運営・評価～ 田淵かおり 神奈川県ナースセンター研修室 2023.1.25
<b>薬剤部</b>		
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	その他（院外活動等）eラーニング 緩和医療に携わる薬剤師の責務について～緩和医療薬学 第2版の概要と日本緩和医療薬学会～ 塩川満 メディアルナレッジ 緩和医療薬学シリーズ 2022.3.9
<b>リハビリテーション課</b>		
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	その他（院外活動等） 重度利き手麻痺事例に対するADL・IADLへのアプローチ～回復期病棟での手の使用頻度増加への取り組み～ 大江珠祐、津藤祐子、木村亮太、酒井志乃、佐々木亮 神奈川県作業療法士会 現職者共通研修「事例報告」
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	その他（院外活動等） 「コロナ禍で生まれた新たな取り組み」 向井庸（シンポジウム座長） 第4回聖隷リハビリテーション学会
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	その他（院外活動等） 嚥下内視鏡について 提坂由紀 横浜嚥下研究会・通年講座・10月1日・zoom開催
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	その他（院外活動等） 心臓を守る運動 小峰侑真 市民公開講座
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	重複障害事例に対する役割の再獲得に向けた作業療法実践 -首尾一貫感覚（SOC）による-考察- 山田千紗、木塚聖太、木村亮太 神奈川県作業療法士会 現職者共通研修「事例報告」
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	その他（院外活動等） 「事例報告」（座長） 木村亮太 神奈川県作業療法士会主催 現職者共通研修「事例報告」

## 2022年度 学術業績 著書論文

乳腺センター(乳腺科)	
区分	著書論文
演題名	Validation of a nuclear grading system for resected stage I-IIIa, high-risk, node-negative invasive breast carcinoma in the N-SAS-BC 01 trial
演者・共同演者	Hitoshi Tsuda, Masafumi Kurosumi, Futoshi Akiyama, Shinji Ohno, Shigehira Saji, Norikazu Masuda, Akihiko Shimomura, Nobuaki Sato, Shintaro Takao, Shozo Ohsumi, Yutaka Tokuda, Hideo Inaji & Toru Watanabe
学会名等	Breast Cancer 29, 720-729, 2022
心臓血管センター内科	
区分	著書論文
演題名	Endovascular Repair for an Aberrant Left Subclavian Artery Aneurysm at a Rare Location. A Case Report.
演者・共同演者	Togo Norimatsu, Kazuhiro Ashida, Tadashi Fukuda, Wataru Yamada, Keisuke Nakashima, Kei Kawai, Takayuki Shinmura
雑誌名等	Therapeutic Research. 43(6),519-523(2022)
画像診断センター	
区分	著書論文
演題名	CASPER Rx 留置後の頸動脈 3D Rotation Angiography (3D-RA) における至適造影剤希釈濃度についての検討
演者・共同演者	石毛良一、佐々木亮、青井瑞穂、荒木孝太、鈴木祥生
学会名等	脳血管内治療 2022年7巻3号 P.115-121
区分	著書論文
演題名	カテーテル手技を予定している患者の胸部単純 CT 画像を用いた大動脈弓部 3D 画像支援の検討
演者・共同演者	石毛良一、佐々木亮、青井瑞穂、荒木孝太、鈴木祥生
学会名等	脳血管内治療 J-Stage 早期公開中
アレルギー内科	
区分	著書論文
演題名	亜急性の経過で発症し、急性の所見を呈した鳥関連過敏性肺炎の1例
演者・共同演者	青柳 慧、岡安 香、朝尾菜津美、秦 康貴、石川利寿、今瀬玲菜、河崎 勉、渡邊直人、中村陽一、宮崎泰成
雑誌名等	アレルギー 2021: 70 (2), 127-131
区分	著書論文
演題名	高校生の家庭における受動喫煙曝露と市中における受動喫煙曝露は負の相関関係にある
演者・共同演者	荒井一徳、宮本学、福田啓伸、吉原重美、南部光彦、望月博之、川合厚子、渡邊直人
雑誌名等	日本禁煙推進医師歯科医師連盟通信 2022:31(2):4-6
区分	著書論文
演題名	Relationship among airborne pollen, sensitization, and pollen food allergy syndrome in Asian allergic children
演者・共同演者	Yoonha Hwang, Chikako Motomura, Hironobu Fukuda, Reiko Kishikawa, Naoto Watanabe and Shigemi Yoshihara
雑誌名等	PeerJ, 2022:10.7717
区分	著書論文
演題名	塩谷清司、須田 智、渡邊直人
演者・共同演者	総説: 造影剤によるアナフィラキシーの病態とその対処方法を理解する
雑誌名等	J Jpn Coll Radiol, 2023: 3.1-37

泌尿器科	
区分	著書論文
演題名	Therapeutic effect of everolimus on small renal angiomyolipoma in cases of tuberous sclerosis complex-related epilepsy and subependymal giant cell astrocytoma
演者・共同演者	Takashi Hatano and Yasuhiro Yuri
学会名等	Asian Journal of Surgery 45: 1332-1333, 2022
区分	著書論文
演題名	母斑症と泌尿器腫瘍疾患
演者・共同演者	波多野孝史
学会名等	泌尿器科 16: 157-165, 2022
区分	著書論文
演題名	VII 嚢胞性腎疾患 10 結節性硬化症
演者・共同演者	波多野孝史
学会名等	腎臓症候群（第3版）II 264-268, 2022
区分	著書論文
演題名	VIII 腫瘍性腎疾患 7 腎血管筋脂肪腫
演者・共同演者	波多野孝史
学会名等	腎臓症候群（第3版）II 335-339, 2022
区分	著書論文
演題名	精神・神経症状のない結節性硬化症成人例
演者・共同演者	浅井俊弥、馬場直子、波多野孝史
学会名等	皮膚病診療 44: 970-975, 2022
西2病棟	
区分	著書論文（看護雑誌）
演題名	みんなの整形外科看護 ママさんナース
演者・共同演者	足立奈津実
学会名等	メディカ出版 整形外科看護3月号
リハビリテーション課	
区分	著書論文
演題名	復職を希望する橈骨遠位端骨折事例に対する価値に基づく作業療法実践
演者・共同演者	木村亮太
学会名等	作業で語る事例報告 作業療法レジメの書きかた・考えかた, 医学書院（2022年, p136-137）

## 第 20 回 聖隷横浜病院 病院学会

開催日：2023年2月25日（土）

場 所：聖隷横浜病院 A棟4階大会議室

第1群（座長：栄養課 課長 仲戸川 豊）

1	リハビリテーション課作業療法部門の取り組みの紹介 - 作業療法の定義と当院での役割について -	リハビリテーション課	木村 亮太
2	COVID-19 陽性患者の看護を行う東2病棟の試みと 今後の課題	東2病棟	清水 麻衣
3	マンモグラフィにおけるCADを教育的ツールとして 使用した試み	放射線課	鳥山遥希
4	当院における物品管理業務のシステム化と管理業務 の実際	検査課	飯原 静里香
5	コメディカルが“一丸となって”取り組んだカテ室 スタッフカンファレンスの4年の軌跡	カテ室メディカルスタッフ カンファレンス (臨床工学室)	森田 斗南

第2群（座長：東2病棟 課長 小川 実花）

6	COVID-19 院内感染警戒レベル3におけるリハビリ テーション課の対策と課題	リハビリテーション課	前田 優
7	摂食機能療法における病棟リンクナース育成への取 り組み	西1病棟	黒澤 晶浦
8	アレルギー禁止食材誤提供防止への取り組み	栄養課	鳥居 愛香
9	外来支援班による書類作成への取り組み	診療支援室	横溝 美穂
10	放射線課における転倒防止の取り組みについて	臨床研修室	岸 健一郎

「2022年度 聖隷横浜病院 年報」 第16号 2024年 2月16日

〒240-8521 神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町125  
TEL：045-715-3111（代表） FAX：045-715-3387  
URL：https://www.seirei.or.jp/yokohama/  
●発行者 大内 基史 ●編集責任 広報委員会

